

官報

號外 昭和十二年三月二十一日

○第七十回衆議院議事速記録第二十七號

昭和十二年三月二十日(土曜日)

午後一時四十三分開議

議事日程第二十八號

昭和十二年三月二十日

午後一時開議

第一 (第一號)昭和十一年度歳入歳出

總豫算追加案

第二 (特第一號)昭和十一年度各特別

會計歳入歳出豫算追加案

第三 製鐵事業法案(政府提出)

第一讀會

第四 大正九年法律第五十三號中改正

法律案(關稅法及關稅定率法等ノ朝

鮮ニ於ケル特例ニ關スル件)(政府提出)

第一讀會

第五 大正九年法律第五十六號中改正

法律案(北海道拓殖鐵道補助ニ關ス

ル件)(政府提出)

第一讀會

第六 防空法案(政府提出)

第七 海外移住組合聯合會ニ對スル政

府貸付金ノ出資等ニ關スル法律案

(政府提出)

第八 農村負債整理資金特別融通及損

失補償法案(政府提出)

官報號外 昭和十二年三月二十一日

第九 帝國燃料興業株式會社法案(政

府提出)

第十 人造石油製造事業法案(政府提

出)

第十一 日本銀行金買入法中改正法律

案(政府提出)

第十二 昭和十二年度一般會計歳出ノ

財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關ス

ル法律案(政府提出)

第十三 神戸商業大學移轉改築費ニ充

用シタル金額ノ補填ニ關スル法律案

(政府提出)

第十四 肥料取締法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

第十五 酒造組合法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

第十六 日本無線電信株式會社法中改

正法律案(政府提出、貴族院送付)

第十七 特許法中改正法律案(政府提

出、貴族院送付)

第十八 商標法中改正法律案(政府提

出、貴族院送付)

第十九 不正競争防止法中改正法律案

(政府提出、貴族院送付)

第二十 裁判所構成法中改正法律案

(政府提出、貴族院送付)

第二十一 大正十年法律第二百二號中改

正法律案(定年ニ因ル退職判事檢事

ノ恩給ニ關スル件)(政府提出、貴族院

送付)

第二十二 兵役法中改正法律案(政府

提出、貴族院送付)

第二十三 產業組合中央金庫法中改正

法律案(政府提出、貴族院送付)

第二十四 產業組合自治監查法案(政

府提出、貴族院送付)

第二十五 軍機保護法改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

第二十六 刑事訴訟法中改正法律案

(政府提出、貴族院送付)

第二十七 外國裁判所ノ囑託ニ因ル共

助法中改正法律案(政府提出、貴族院

送付)

第二十八 百貨店法案(政府提出、貴族

院送付)

第二十九 辦理士法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

昭和十年度第一豫備

金支出ノ件

昭和十年度特別會計

第一豫備金支出ノ件

昭和十年度特別會計

豫備費支出ノ件

昭和十年度滿洲事件

第一豫備金支出ノ件

第三十

自昭和十一年一月

至同 年三月昭

和十年度第二豫備金

支出ノ件

自昭和十一年一月

至同 年三月昭

和十年度豫備金外ニ

於テ豫算超過及豫算

外支出ノ件

自昭和十一年一月

至同 年三月昭

和十年度特別會計豫

備金外ニ於テ豫算超

過及豫算外支出ノ件

昭和十一年度第二豫

備金支出ノ件

昭和十一年度特別會

計第二豫備金支出ノ

件

昭和十一年度特別會

計豫備金外ニ於テ豫

算外支出ノ件

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲

茲ニ掲載ス〕

承諾
ヲ求ムル

明治二十五年三月三十一日
第三種郵便物認可

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
北海道拓殖計畫改訂案樹立促進ニ關スル
建議案

提出者

木下成太郎君 山本 厚三君

東 武君 岡田伊太郎君

手代木隆吉君 林 路一君

一柳仲次郎君 淺川 浩君

坂東幸太郎君 板谷 順助君

東條 貞君 澤田 利吉君

岡田 春夫君 大島 寅吉君

渡邊 泰邦君 尾崎 天風君

南條 德男君 登坂 良作君

南雲 正朔君 北 勝太郎君

北千島漁業開發並自主的統制ニ關スル建
議案

提出者

木下成太郎君 山本 厚三君

東 武君 岡田伊太郎君

手代木隆吉君 林 路一君

一柳仲次郎君 淺川 浩君

坂東幸太郎君 板谷 順助君

東條 貞君 澤田 利吉君

岡田 春夫君 大島 寅吉君

渡邊 泰邦君 尾崎 天風君

南條 德男君 登坂 良作君

南雲 正朔君 北 勝太郎君

(以上三月十九日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ
如シ

尾去澤鑛山中ノ澤鑛滓沈澱池ダム決潰ニ
關スル再質問主意書

提出者

川俣 清音君 河上丈太郎君

帝國在郷軍人會會員國有鐵道運賃割引ニ
關スル質問主意書

提出者

服部米次郎君 松田喜三郎君

原口初太郎君 宮脇 長吉君

八角 三郎君 升田 憲元君

度量衡法改正ニ關シ調査會ノ審議ニ關ス
ル質問主意書

提出者

東 武君 福井 甚三君

高橋熊次郎君 岡田伊太郎君

八田 宗吉君

(以上三月十九日提出)

一昨十九日常任委員補關選舉ノ結果左ノ如
シ

第一部選出豫算委員

窪井 義道君(永山忠則君補關)

一昨十九日常任委員理事補關選舉ノ結果左
ノ如シ

豫算委員

理事 比佐 昌平君(理事坂東幸太郎
君本月十二日委員辭任ニ付其
ノ補關)

理事 川俣 清音君(理事杉山元治郎
君本月十六日委員辭任ニ付其
ノ補關)

一昨十九日辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ
如シ

第一部選出豫算委員

江藤源九郎君 永山 忠則君

一昨十九日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常
任委員左ノ如シ

第一部選出懲罰委員

大石 大君 樺尾 辨匡君

第六部選出懲罰委員

野田文一郎君 原 夫次郎君

一昨十九日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ
如シ

船員法改正法律案(政府提出)委員

山本 厚三君 池田 清秋君

岡本實太郎君 長井 源君

岡崎久次郎君 高野 喜六君

高松 長三君 漢那 憲和君

中井 一夫君 板谷 順助君

藤井 達二君 登坂 良作君

小谷 節夫君 西川 貞一君

倉成庄八郎君 永山 忠則君

岡崎 憲君 小山 亮君

一昨十九日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如
シ

一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲特別會計

ヨリ爲ス繰入金ニ關スル法律案(政府提
出)外二件委員

辭任星島 二郎君 補關志賀和多利君

辭任中村 又一君 補關中村 梅吉君

農地法案(政府提出)委員

辭任助川啓四郎君 補關東郷 實君

輸出補償法中改正法律案(政府提出)委員

辭任福井 甚三君 補關瀨川 嘉助君

辭任守屋 榮夫君 補關井阪 豐光君

辭任小柳 牧衛君 補關原 玉重君

辭任岡崎 憲君 補關川村保太郎君

商法中改正法律案(政府提出、貴族院送
付)委員

辭任板谷 順助君 補關青木雷三郎君

樺太市制案(政府提出、貴族院送付)委員

辭任綾部健太郎君 補關石坂 豐一君

鐵道敷設法中改正法律案(政府提出)委員

辭任岡崎 憲君 補關塚本 重藏君

○議長(富田幸次郎君) 是ヨリ會議ヲ開キ
マス 此際暫時休憩致シマス

午後一時四十四分休憩

午後一時五十一分開議

○議長(富田幸次郎君) 休憩前ニ引續キ會
議ヲ開キマス、日程第一及ビ第二ハ豫算案
デアリマスカラ、一括議題ト爲スニ御異議
アリマセスカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ日程第一、第一號、昭和十一
年度歳入歳出總豫算追加案、日程第二、特
第一號、昭和十一年度各特別會計歳入歳出
豫算追加案、右兩案ヲ一括シテ議題ト致シ
マス、豫算委員長ノ報告ヲ求メマス——小
山松壽君

第一 (第一號) 昭和十一年度歳入歳出
總豫算追加案
第二 (特第一號) 昭和十一年度各特別
會計歳入歳出豫算追加案

報告書

(第一號) 昭和十一年度歳入歳出總豫算
追加案

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

昭和十二年三月十九日

豫算委員長 小山 松壽

衆議院議長富田幸次郎殿

報告書

(特第一號) 昭和十一年度各特別會計歳
入歳出豫算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

昭和十二年三月十九日

豫算委員長 小山 松壽

衆議院議長富田幸次郎殿

(小山松壽君登壇)

○小山松壽君 只今議題トナリマシタ第一
號、昭和十一年度歳入歳出總豫算追加案、
及ビ特第一號、昭和十一年度各特別會計歳
入歳出豫算追加案ニ付テ、委員會ニ於ケル
經過竝ニ結果ノ概要ヲ御報告申上ゲマス
第一號、昭和十一年度總豫算ノ追加案ハ、
外務省所管、電信料及ビ北支領事館警察充
實ニ要スル經費、内務省所管、警察費連帶
支辨金及ビ府縣災害旅費ノ増加、大藏省所

管、議院事務費ノ増加、海軍省所管、滿洲事
件費ノ増加、逓信省所管、恩給ノ増加等ニ要
スル經費ノ追加デアリマシテ、其金額ハ六
百二十萬餘圓デアリマス、是ガ財源ハ國債
ノ低利借換ニ依ル國債費ノ不用額、及ビ第
二豫備金ノ支出殘額ヲ以テ、之ヲ支辨スル
トノ説明デアリマシタ、即チ昭和十一年度
ニ於ケル豫算實行上ノ歳入超過額ヲ以テ、
之ニ充當スルモノナルコトハ、豫算書ニア
ル説明ノ通りデアリマス

次ニ特第一號、昭和十一年度各特別會計
ノ豫算追加案ハ、大藏省所管、關東局、及
ビ拓務省所管朝鮮總督府並臺灣總督府ニ屬
スル經費ノ追加デアリマス、其財源ハ豫算
書ノ説明ニアリマス通り、前年度剩餘金繰
入及ビ官業並官有財産收入ヲ以テ、之ニ充
當スルコトニナツテ居リマス

以上兩案ニ對シ立憲民政黨ノ篠原陸朗君
ヨリ、追加豫算提出ノ形式問題、及ビ警察
費連帶支辨金ノ増加ト、警察制度上ノ問題
等ニ關シテ質疑ヲセラル、又立憲政友會ノ
木村正義君ヨリ、追加豫算ノ財源ニ關聯シ
テ前年度剩餘金ノ繰入問題、及ビ北支領事
館警察充實ニ關スル經費ノ内容、及ビ滿洲事
件費等ニ付テ質疑ヲ重ネラレマシタガ、要
スルニ兩案共ニ説明書ノ通り事務的ノ追加
ト認め、昨午午後直チニ討論ニ入リマシ
テ、立憲民政黨ノ豐田吉君、立憲政友會
ノ木村正義君、昭和會ノ豐田收君、第二控
室ノ平野力三君、及ビ國民同盟ノ野中徹也
君ヨリ賛成ノ旨ノ發言ガアリマシタ、又社

會大衆黨ノ田万清臣君ヨリ賛否ヲ留保スル
旨ノ發言ガアリマシタ、採決ノ結果、兩案
トモニ大多數ヲ以テ可決致シマシタ、詳細
ハ會議錄ニ就テ御覽ヲ御願致シマス、此段
御報告致シマス(拍手)

(贊成者起立)

○議長(富田幸次郎君) 採決致シマス、兩
案ノ委員長報告ハ何レモ可決デアリマス、
兩案ヲ一括シテ委員長報告通り決スルニ贊
成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

第三 製鐵事業法案(政府提出)

第一讀會

製鐵事業法案

製鐵事業法

第一條 本法ハ産業ノ發展及國防ノ整備
ヲ期スル爲メ本邦ニ於ケル製鐵事業ノ健
全ナル發達ヲ圖ルコトヲ目的トス
第二條 本法ニ於テ製鐵事業ト稱スルハ
鉄鐵、鋼鐵、鋼材(鍛鋼品及鑄鋼品ヲ
含ム)其ノ他ノ鐵鋼ノ製造及之ニ附隨
スル副生物ノ製造ヲ爲ス事業ヲ謂フ
前項ノ副生物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ
定ム
第三條 製鐵事業ヲ營メントスル者ハ政
府ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ定
ムル製鐵事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

本法ニ定ムルモノノ外前項ノ許可ニ關
シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第四條 前條ノ許可ヲ受ケタル者(製鐵
事業者)ハ政府ノ指定スル期間内ニ其ノ
事業ヲ開始スベシ

政府ハ正當ノ理由アリト認ムル場合ニ
限り前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコト
ヲ得
製鐵事業者前二項ノ期間内ニ其ノ事業
ヲ開始セザルトキハ前條ノ許可ハ其ノ
效力ヲ失フ

第五條 製鐵事業者其ノ設備ヲ増設シ又
ハ變更セントスルトキハ命令ノ定ムル
所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ
第六條 一ノ場所ニ於テ命令ノ定ムル所
ニ依リ一年十萬噸以上ノ製鐵能力及一
年十萬噸以上ノ製鋼能力ヲ有スル設備
ヲ以テ營ム製鐵事業ハ土地收用法第二
條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得
ル事業トシ同法ヲ適用ス

第七條 第三條ノ許可ヲ受ケ命令ノ定ム
ル所ニ依リ政府ノ指定スル期間内ニ前
條ニ規定スル設備ヲ新設シタル製鐵事
業者ニハ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ
十五年間其ノ設備ヲ以テ營ム製鐵事業
ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス
前項ノ製鐵事業者其ノ設備完成前其ノ
設備ノ一部ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム場合
ニ於テモ其ノ事業ニ付所得稅及營業收
益稅ヲ免除ス但シ前項ノ規定ニ依ル期

間内ニ設備ヲ完成セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前二項ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ法人ニ在リテハ各事業年度、個人ニ在リテハ各年ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前二項ノ規定ヲ適用セズ但シ所得稅法第十九條又ハ營業收益稅法第八條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 第六條ノ規定ニ該當セザル設備ヲ有スル製鐵事業者其ノ設備ニ付第五條ノ増設ノ許可ヲ受ケ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定スル期間内ニ第六條ノ規定ニ該當スルニ至ルベキ設備ヲ増設シタルトキハ其ノ増設シタル設備ヲ以テ營業製鐵事業ニ付前條ノ規定ヲ準用ス

第六條ニ規定スル設備ヲ以テ營業製鐵事業者第五條ノ増設ノ許可ヲ受ケ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定スル期間内ニ其ノ場所ニ於テ製鐵又ハ製鋼ノ設備ヲ増設シタルトキ亦前項ニ同ジ

第九條 第三條ノ許可又ハ第五條ノ増設ノ許可ヲ受ケ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定スル期間内ニ一ノ場所ニ於テ一年五千二百五十噸以上ノ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ新設シ又ハ増設シタル鐵

鋼品又ハ鑄鋼品ノ製造事業者ニハ第七條ノ規定ヲ準用ス

第三條ノ許可又ハ第五條ノ増設ノ許可ヲ受ケ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定スル期間内ニ一ノ場所ニ於テ一年二千五百噸以上ノ製鐵能力又ハ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ新設シ又ハ増設シタル低燐鉄製造事業者、坩堝製鋼事業者及電氣製鐵事業者ニ付亦前項ニ同ジ

第十條 第三條ノ許可又ハ第五條ノ増設ノ許可ヲ受ケ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定スル期間内ニ砂鐵又ハ命令ヲ以テ定ムル鐵礦ノ製鍊ヲ目的トスル特殊ノ設備ヲ新設シ又ハ増設シタル製鐵事業者ニハ其ノ設備ヲ以テ營業製鐵事業ニ付第七條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

第十一條 砂鐵又ハ前條ノ鐵礦ヲ配合シテ製鐵ヲ爲ス製鐵事業者ニハ配合ノ割合ニ應ジ其ノ製鐵事業ニ付本法施行ノ日ヨリ十五年間命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

第十二條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ本法ニ依リ（第七條第三項但書ノ場合ヲ含ム）所得稅及營業收益稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニハ第七條第三項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル所得稅及營業收益稅ノ附加稅ヲ除クノ外其ノ免除セラレタル事業ニ對シ又ハ其ノ免除セラレタル事業ニ屬スル資本金額、從業者、營業用ノ工

作物若ハ物件、使用動力又ハ收入ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ズ但シ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノニシテ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リ所得稅及營業收益稅ヲ免除セラレタル事業ニハ之ヲ適用セズ但シ其ノ事業ガ第七條乃至第九條ノ規定ニ依リ所得稅及營業收益稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 製鐵事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムベキ事實アル者ハ前製鐵事業者ガ本法ニ依ル所得稅及營業收益稅免除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ承繼ス

第十四條 帝國內ニ於テ製造シタル鋼材ガ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタル場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ鋼材ノ製造者ニ對シ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第十五條 詐欺ノ行爲ヲ以テ前條ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ金額ヲ返還セシム

前項ノ規定ニ依ル返還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

トキハ本法施行ノ日ヨリ十年間命令ノ定ムル所ニ依リ輸入稅ヲ免除ス

第十七條 製鐵事業者其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケベシ

製鐵事業者タル法人ノ合併又ハ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十八條 製鐵事業者鐵鋼ノ生産、販賣、輸出、輸入、移出若ハ移入又ハ命令ヲ以テ定ムル製鐵原料ノ購入ニ關シ他ノ製鐵事業者ト統制協定ヲ爲シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ政府ニ届出ツベシ之ヲ變更シ又ハ廢止シタルトキ亦同ジ

第十九條 前條ノ統制協定ヲ爲シタル製鐵事業者ノ爲其ノ統制協定ニ基キ共同販賣其ノ他共同ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業ヲ行フ者ハ命令ノ定ムル事項ヲ政府ニ届出ツベシ

第二十條 政府公益上必要アリト認ムルトキハ製鐵事業者ニ對シ鐵鋼ノ供給數量、販賣價格又ハ販賣條件ノ變更其ノ他鐵鋼ノ需給ノ圓滑又ハ價格ノ公正ヲ圖ル爲必要ナル事項ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ政府公益上必要アリト認ムルトキハ製鐵事業者ニ對シ其ノ設備ノ擴張若ハ改良又ハ作業方法ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條 政府軍事上必要アリト認ムルトキハ製鐵事業者ニ對シ製鐵ニ關スル特殊事項ノ研究又ハ特殊設備ノ施設、命令ヲ以テ定ムル製鐵原料ノ保持其ノ他軍事上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第二十二條 政府ハ製鐵事業者ニ對シ其ノ業務ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ製鐵事業者ノ事務所、營業所、工場、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第二十三條 政府ハ第三條第一項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受クルコトヲ要セザル製鐵事業ヲ營ム者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ設備ノ能力其ノ他必要ナル事項ヲ届出デシムルコトヲ得

第二十四條 政府第三條ノ許可又ハ第二十條ノ規定ニ依ル命令ヲ爲サントスルトキハ製鐵事業委員會ノ議ヲ經ベシ製鐵事業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 製鐵事業者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ政府ハ其ノ業務ヲ停止

シ若ハ制限シ、第三條ノ許可ヲ取消シ又ハ法人ノ役員ノ解任ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 第十九條ノ規定ニ該當スル者ハ第十八條、第二十條第一項、第二十二條又ハ前條ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ製鐵事業者ト看做ス

第二十七條 第三條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ製鐵事業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第五條又ハ第十七條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケベキ事項ヲ許可ヲ受ケズシテ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十二條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ監督上必要ナル命令若ハ處分ニ違反シタル者

二 第二十二條第二項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第三十一條 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十二條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十三條 第十八條又ハ第十九條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十三條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

第三十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 製鐵業獎勵法ハ之ヲ廢止ス

第三十六條 本法施行ノ際現ニ第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケベキ製鐵事業ヲ營ム者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第三十七條 前條ノ製鐵事業者ニシテ本法施行ノ際現ニ其ノ設備ノ増設又ハ變更ノ工事中ニ在ルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ第五條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第三十八條 第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケベキ製鐵事業ヲ營ム爲本法施行ノ際現ニ製鐵設備ノ建設工事中ニ在ル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第三十九條 第三十六條ノ製鐵事業者ニシテ本法施行ノ際現ニ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ休止セルモノハ本法施行ノ日ヨリ六月間ヲ限リ第十七條第一項ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ繼續スルコトヲ得

第四十條 本法施行ノ際現ニ製鐵業獎勵法ニ依リ所得稅、營業收益稅及均方稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキ製鐵事業ニ付テハ仍從前ノ例ニ依リ所得稅、營業收益稅及地方稅ヲ免除ス

本法施行ノ際現ニ製鐵業獎勵法第二條乃至第四條ノ規定ニ依リ認可ヲ申請中ノ者ニ對スル所得稅、營業收益稅及地方稅ノ免除ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

前二項ノ規定ノ適用ヲ受クル者第十一條ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタル場合ニ於テハ第十二條ノ規定ニ拘ラズ前二項ノ規定ニ依リ地方稅ノ免除ヲ受ク

第四十一條 本法施行ノ際現ニ第十條ニ規定スル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム者及同條ニ規定スル設備ノ新設又ハ増設ノ工事中ニ在ル者ニハ本法施行ノ日

ヨリ十五年間命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ設備ヲ以テ營ム製鐵事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

第四十二條 製鐵業獎勵法ニ依リテ爲シタル認可、處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四十三條 大正九年法律第十二號第七條ノ二中「製鐵業獎勵法ニ定ムル能力」ヲ「製鐵事業法ニ定ムル能力」ニ改メ「看做シ」ノ下ニ「製鐵事業法第七條第三項ノ金額又ハ製鐵事業法第四十條ノ規定ニ依リ適用セラルル」ヲ加フ

(國務大臣伍堂卓雄君登壇)

○國務大臣(伍堂卓雄君) 製鐵事業法案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス

本邦製鐵事業ハ最近長足ノ進歩發展ヲ遂ゲマシタノデアリマスルガ、斯業ノ内容ヲ見マスルニ、銑鐵、屑鐵、鐵鑛石等ノ製鐵原料モ、年々大量ノ輸入ヲ必要ト致シテ居リマシテ、未ダ以テ外國依存ノ狀態ヲ脱却シ得ナイノデアリマス、隨ヒマシテ製鐵國策ノ根本ヲ成シマスルモノハ、速ニ鐵鋼ノ自給ヲ全カラシメ、各種産業ノ發展ニ寄與スル外、外國依存ノ現狀ヲ是正シ、尙ホ進シデハ鐵鋼製品ノ海外輸出ノ進展ニ努メマスト共ニ、併セテ原料資源確保ノ方策ヲ樹立致シマシテ、産業上竝ニ國防上遺憾ナキヲ期スルニアルト思料セラレルノデアリマス、政府ニ於キマシテモ從前ヨリ製鐵事

業ニ付テハ、各種ノ施設ヲ行フテ參ツタノデアリマシテ、日本製鐵株式會社法及ビ製鐵業獎勵法ノ制定モ、亦其施設ノ一ツデアルノデアリマスガ、日本製鐵株式會社法ハ、日本製鐵株式會社ノ運営ニ關スル監督法規デアリマスルシ、又製鐵業全般ニ適用アリマスル製鐵業獎勵法ハ、斯業ニ對スル保護助長ノミヲ主眼トシ、且ツ其規定致シテ居

リマスル保護助長ノ方法モ、製鐵國策ノ見地カラ改正ヲ要スル點ガ少クナイト考ヘラレルノデアリマス、即チ我國ノ製鐵事業ノ現狀ヨリ致シマスルニ、此際進シテ銑鋼一貫作業ヲ徹底シ、其他合理的設備ノ擴張ニ便宜ナモノ、砂鐵鑛等ノ使用獎勵ヲ爲スト共ニ、他面外國屑鐵ニ依存スルガ如キ設備ノ濫設ヲ防止シ、其他斯業ニ對シ適當ナル監督ヲ加ヘ、鐵鋼供給ノ調節ヲ圖リ、以テ斯業ノ健全ナル發達ヲ期スルコトガ肝要デアルト考ヘラレルノデアリマス、仍テ茲ニ製鐵業獎勵法ニ代ヘ、新ニ製鐵事業法ヲ制定シ、斯業ニ對スル適切ナル保護助長ノ施設ヲ講ズルト共ニ、斯業ニ許可制度ヲ施行致シマシテ、之ニ適當ナル監督ヲ加ヘン

トスル次第デゴザイマス、製鐵事業法ハ以上ノ見地ヨリ立案セラレタモノデゴザイマス、何卒御審議ノ上御協賛アラントラ切望致シマス

○議長(富田幸次郎君) 質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許可致シマス——岡崎久次郎君

○岡崎久次郎君 本案質問ニ對シテ大藏大

臣ノ御出席ヲ要求致シマシタガ、御出席ガアリマセデセウカ、如何デセウカ

○議長(富田幸次郎君) 大藏大臣ハ貴族院ノ稅制委員會ニ參ラレマシタ

○岡崎久次郎君 然ラバ少クトモ大藏次官ニ聞イテ戴キタイ點ガアリマスノデ、御出席ヲ要求致シタイト思ヒマス

(岡崎久次郎君登壇)

○岡崎久次郎君 私ハ只今提出セラレマシタル製鐵事業法案ニ對シマシテ、二三商工大臣、陸軍大臣、或ハ陸海軍大臣ドナタデモ宜シイノデアリマスルガ、軍部大臣竝ニ大藏大臣ノ御答辯ヲ煩ハス次第デアリマス

此現國家ニ必要缺クベカラザル製鐵ノ重要問題ニ對シテ、製鐵事業法案ノ提出ヲ見マシタコトハ、私ノ欣幸トスル所デアリマス

ガ、私ハ餘程劃時代的ナ、實ニ有效適切ナル、現在ノ製鐵問題ヲ解決シ、將來ニ互ニ提携製造問題ニ對スル總テノ指導方針ヲ茲ニ掲ゲラレタモノトシテ、實ハ榮ミニシテ待ツテ居ッタノデアリマス、併シ内容ヲ檢査致シマシテ、甚ダ失望ヲ禁ジ得ナイ點ガアリマス

此本案ヲ解剖致シマス、此三點ニ歸著スルノデアリマス、第一ハ、製鐵事業ヲ盡ク許可制ニスル、大小如何ナル製鐵事業ニ拘ラズ、大ハ日本製鐵或ハ日本鋼管ヲ初メ、小ハ極メテ小サナ製鐵事業デモ、一切政府監督ノ下ニ、許可ニアラズンバ、増設モ、改造モ、新設モ許サス、此許可制度ヲ第一ニ主張セラレテ居ルノガ、一貫シタル

此製鐵事業法ノ本旨ト見受ケラレマス、隨テ許可制ヨリ來ル政府ノ監督權、所謂統制、此中々立派ナ強硬ナル政府ノ監督權ヲ規定サレタルノデアリマス、更ニモウ一ツ第三ノ點ハ、鑛石所謂貧鑛、或ハ特殊ノ鑛山ヲ開發スル、之ヲ獎勵スル、此點ガ御添物ノヤウニ記載サレテアリマスガ、併シ只今商工大臣ノ提出御説明ニ依レバ、此點ヲ主眼トセラレテ居ラシイヤウニ見受ケテ居リマス、之ニ付キマシテハ、流石ニ商工大臣ハ斯道ノ權威者デアルト一種ノ敬意ヲ表シマス

順次ニ御尋ヲ申上ゲマスガ、第一ニ此許可制ヲスルニ付テ、商工大臣ハ從來ノ日本製鐵ノヤリ方ガ惡イ、故ニ是ハ鑛石銑鐵法ニ直サナケレバイカス、此原理カラ許可制ニシテ、ソレヲ指導スルト云フヤウニ、只今ノ御説明デハ私拜聽致シマシタ、又實際商工大臣ノ御意思ガソコニアルノデハナイカト思フ、又ソコニアツテ當然デアルト思フ、ソコガ流石ニアナクハ斯道ノ權威者デアルト敬服ヲ申上ゲマスガ、併シ何故許可制ニシナケレバナラヌカ、斯ウ云フ點ガ政府ト民間當業者ノ常ニ行違フ點デアリマス、左様ナ點ハ結構デアアル、惡イトハ申シマセス、結構ト認メマス、ソレナラバ何故許可制デナケレバ出來ヌノカ、ソコノ點ガ私ニハマダハッキリ分ッテ居ラヌ、何故サウ云フ新シイ方法ヲ講ズル爲ニ許可制ニシナケレバナラヌカ、而シテ現在變態的ナ、便宜的ナ、屑鐵ト銑鐵ヲ併セテ平爐法ヲ用ヒ

テ居ルコトハ、現在ノ製鐵業ノ弊デアル、併シ茲ニ至ラシメタノハ一體誰ノ罪デアルカ、私ラシテ言ハシムレバ、商工省ノ多年ノ過チ、多年ノ錯覺ガ斯様ナ方面ニ導イタモノデアルト云フコトハ、私デナクテモ何人モ言フノデアッテ、商工省モ是ニハ御異議ナイト思フ、何故ナラバ、民間ハ熔鑛爐ノ建設ヲ多年熱望シテ、幾回カ度々足ヲ揺木ニシテ商工省ニ御頼ミニ出タ、其時ハ一向御許可ニナラヌ、先達テ申上ゲタ通り、最近初メテ商工省ガ昭和七年ニ日本鋼管ニ許シタト云フコトガ、民間熔鑛爐ノ五百觔デアツカ、ツイ最近許可ガアツタ、其前ハ許可ハ一寸モシテ呉レナイ、仕方ガナイカラ亞米利加邊リカラ屑鐵ヲ取ッテ來テ、サウシテ鉄鐵ヲ混合セテ、平爐ニ依ッテ鉄鐵ヲ便宜法デヤッテ來タノデアル、是ハ成程間違ッテ居リマセウ、居リマセウケレドモ、茲ニ至ラシメタノハ商工省デアル、其認可制ガ茲ニ至ラシメタト言ハナケレバナラスガ、之ヲ責メテ以テ、斯ウ云フコトガ惡イカラ、許可制ニシテ縛ラナケレバナラスト云フ理窟ハ、ドウモ私ニハ受取りニクイト思フノデアリマス

第二ノ點ハ左様ナ許可制ニシテ、此非常時期ニ於テ、鐵ノ足りナイ時ニ於テ、鐵ヲ潤澤豐富ニスルト云フコトハ、何處ニモ見出スコトハ出來スト思フノデアリマス、國民ハ鐵ノ豐富潤澤低廉ヲ欲シテ居ルノデアリマス、産業ノ根本デアル此鐵ノ豐富低廉ヲ欲シナイ者ハ何處ニモナイガ、

特ニ現在ノ躍進日本ノ工業ノ此形ハ、鐵ノ低廉豐富ナルコトニ依ッテ、初メテ惠マレルコトガ非常ニ多イコトハ、モウ論ヲ俟タナイノデアリマス、サウシテ此製鐵事業法ノ第一ニ規定サレルヤウニ、産業ノ發展ト國防ノ整備ヲスル爲ニ此法案ヲ布クトアル、御尤デアル、私ハ軍部ガ此法案ニ御賛成デアルト聞イタガ、此點ヲ軍部ニ承リタイノデアリマスガ、此許可制ニ依ッテ軍部ガ豐富低廉ニナルト思ハレタカラ賛成シ、又是ノ協力成立ヲ希望サレルノデアラウト私ハ存ジマス、併シ民間ノ事業ハ、例ヘバ便宜法ハ將來永遠ノ爲メデハナイシテモ、現在新設スベキ工場モ政府ノ許可ヲ得ナケレバナラズ、既設ノ工場ヲ改良スルノモ、増設スルノモ、一切賢明ナル商工省ノ御役人ノ許可ヲ得ナケレバ出來ナイ、即チ第五條ニ製鐵事業者其設備ヲ増設シ變更シヨウトスル時ニハ、命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ、増設スルノモ、變更シヨウト云フノモ、一切政府ノ許可ガナクテハモウ一步モ身動キガ出來ナイ、斯様ナ風デアリマシテ、オ負ケニ其以外ニ後程申シマスガ、此統制指導ノ監督ノ爲ニ有ル條件ヲ附ケラレテ居リマスルガ、左様ナキツイ條件ヲ附ケテ許可制ニシテ、ソシテ當業者ハ何ニ依ッテ惠マレタカ、義務ハ澤山背負ッテ、監督ハ澤山サレテ、許可ヲ受ケナケレバ仕事ハ出來ズ、改良モ増設モ出來ナイト云フ難儀ナ目ニ遭ッタ、然ラバ當業者ハ何ヲ其代償トシテ得タカト云フト、許可ト云

フ一言デアリマス、其許可ハ成程既設會社ハ新設會社ヲ抑付ケテ、既得權ヲ持ッテ居ルカラ大變欣バシイヤウデアリマスガ、其既設會社總テガドウヤラ私ノ聞イタ所ニ依ルト、許可制デハ困ルト號泣シテ居ルヤウデアリマス、況ヤ新設會社ハ企業心ヲ抑制サレテ、抑付ケラレテシマフノデアリマス、既設會社ガ欣ビサウナモノノ既設會社ガ欣バナイ、而シテ新設會社ハコンナ危イ監督權ヲ振廻サレテハ堪ラスカラ、企業心ヲ抑壓サレルノハ當然デアリマス、ソシテ現在デモ非常時ノ時代デハナイノデアル、準戰時ト云フケレドモ、未ダ世界ニ何ノ問題モ起ッテナイ、此時ニ於テ鐵飢饉ガ叫バレテ、聞イテ見レバ馬關海峽ノ工事モ中止サレタトヤラ、建築モ中止、川口邊リノ鑄物工場モ、休止シテ居ルノガ三分ノ一モ此間ハアツタ、鐵ガ足りナイデ、世界ノ如何ナル國ヨリ高ク、日本ハ鐵ノ値段ガ上ッテ居ル、亞米利加ヤ英吉利ノ鐵ノ値段、運賃ト總テノ諸費ヲ拂ッテ、横濱或ハ神戸ニ著ク値段ヨリモ、亦モウ一步高イ、日本獨特ノ高イ値段ニナッテ居ル、ソレハ鐵ガ足りナイ、鐵ガ足りナイカラ、サウ云フ結果ニナッテ居ル、ソコヘ爲替管理ト云フ厄介ナ瘤ガ附イテ、輸入シヨウト思ッテモ一々政府ノ許可ヲ得テ、爲替ノ許可ヲ得ナケレバ輸入出來ヌカラ、此二ツノ方カラ責メラレテ、鐵ハ偉大ナル暴騰ヲ來シテ居ルコトハ御承知ノ通りデアル、コンナ缺乏シタル鐵ノ數量、コンナ高イ鐵ノ價格、世界的トハ言ヒナガラ獨特ノ

高サデアル、其高イ鐵ヲ以テ軍部ハ満足シテ居ラレル答ハナイト思フ、サウシテ此許可制ノ結果ハ、遺憾ナガラ企業心ヲ抑壓シ、製造能率ノ躍進的發展ヲ妨ゲテ、必ズヤ私ハ此許可制ニ依ッテ、能率ハ、勿論進シダ工業デアリマスルカラ、増産ハ致シマセウ、増産ハ致シマセウケレドモ、到底今後ノ鐵ノ飢饉、鐵ノ缺乏ヲ此許可制ニ依ッテ満足シテ解決シヨウト云フヤウナコトハ、是ハ商工大臣ハ少シ御見當ガ違ッテ居ルノデハナイカト私ハ考ヘラレマス、斷然豐富低廉ノ方法ニアラズシテ、企業心ヲ抑壓シテ、却テ能率ヲ低メ、生産ヲ低下セシムル、一ツノ束縛デアルト見ナケレバナラスト思フノデアリマス、其證據ニハ、民間ノ有ル工場ハ、皆多年ノ苦勞ヲシタ、堂々タル立派ナ工場ノ總テノ權威者ハ、異口同音ニ之ニ對シテ異議ヲ挾シデ居ルヤウニ見受ケルノデアリマス

更ニ進ンデ私ハ此監督權ノ問題ニ付テ質問ヲシタイト思ヒマス、其許可制ノ特權ハ、許可ヲスルコトト、所得稅ヲ免除シ、營業收益稅ヲ免除スルト云フ外ニハ何モナイ、所ガ現在ノ製鐵所ノ多クハ、モウ既に營業收益稅モ所得稅モ免除セラレテ居ルモノガ多イノデアリマス、故ニ其他ニハ何等特權ハ茲ニハナイ、大體許可ト云フヤウナモノガ、公共トカ、公益トカ、電氣トカ、瓦斯トカ、或ハ生命保險デアルトカ、銀行デアルトカ云フコトニ付テノ、此許可制ヲ採ラレルト云フコトハ結構デアリマセウ、又幼稚ナル、

最近許可制ヲ採ラレタル自動車工業ノ如キモ、時ニ取ツテハ非常ニ私ハ結構ナ案ト思ヒマス、併シ今ヤ發展ノ途中ニアリ、發達ノ過程ヲ洋々トシテ進ンデ行カントスル、此製鐵業ノ如キニ向ッテ許可制ヲ布カントスルガ如キコトハ、甚ダ現在ニ即シナイ形デハナイカト思フデアリマス、サウシテ今度ハ製鐵所ニ監督權ト云フ權ヲ振廻ハスト云フ、恐シイコトガ規定サレテアル、之ヲ質問スレバ、イヤソレハ書イタダケデ、何ニソシナコトハシヤシナイノダト必ズ仰シヤルデセウ、併シ試ミニ茲ニ申上ゲテ見レバ、新設、既設工場ニ對シテ、設備ヲ増加スルノモ、變更スルノモ、一切許可ヲ受ケルト云フコトハ、只今申上ゲタ通りデアリマスガ、其他ニ供給數量モ、販賣價格モ、販賣條件モ、一切商工省ノ監督ニナルノデアリマス、即チ需給關係、販賣條件、一切ノ監督ヲ商工省ガナサル、又設備ヲ擴張シロ、作業ノ方法ヲ斯ウシロ、ア、シロト云フ變更命令モ、亦商工省ノ御役人ガナサル、是ハ固ヨリ公益上必要アリト認メタトキト云フ肩書ハ附イテ居リマス、肩書ハ附イテ居リマスガ、公益上必要ト認メタト云フ、公益ト云フ言葉ガ既ニ解釋ガハッキリシナイノデアリマス、前回吾々ハ電氣事業法案ノ改正、電氣事業ノ民有トカ、國有トカ云フ問題ガ出タ時ニ、公益ト云フ問題デハ大ニ議論ヲ闘ハシタガ、公益ノ「デフニション」ガハッキリシナイ、政府ガ公益ト認メレバ、ドウモ公益ニ反對スル譯ニ行カナイ、政府ガ公益ナ

リトシテ、總テノ監督權ヲ振廻サレルニ於テハ、對抗出來ナイデハナイカ、更ニ又軍事上ノ必要ガアレバ——是ハ戰時ノ場合デヤナイノデス、平時ノ場合ニ、軍事上ノ必要ヲ認メレバ、特殊ノ事項ノ研究トカ、特殊設備ノ設備、原料ノ獲得ト云フヤウナコトヲ命令シテ、之ヲヤラセルト云フ、是モクッ付イテ居ル、是ハ民間會社ニ唯許可ヲシテヤツタカラト云フ、一特權ニ依ッテ是ダケノ條件ヲ附ケテ居ル、戰時ノ場合ハ、ドウセ日本人ハ命マデ捧ゲテ居ルノデスカラ、工場ナンカ捧ゲタツテ何トモ考ヘル人ハ一人モナイノダガ、軍事上ノ必要ト云フコトヲ思ツタダケデ、此有ニル條件ヲ附ケルト云フコトハドウデアラウカ、又其監督上必要アルトキトアルガ、是ハヲカシイ、監督上必要アルトキハト云フノハ、是ハ全然政府ノ考ヘ通りデ、是ハ對抗ハ出來ナイ、政府ノ方デ監督ノ必要ガアルト認メル場合ハ、事務所ヘモ營業所ヘモ何處ヘデモ行ッテ帳簿デモ何デモ引繰返シテ一切ヲ監督スル、此大キナ條件ガ附イテ居ル、斯ウ云フノハ一體ドウ云フ譯デ、統制經濟ト云フモノハ、斯ウ云フモノヲ附ケテ來ナケレバイカヌノカ、ソレガ私ニハ分ラヌノダ、抑、統制經濟ノ起リハ、商工省ノ諸君モ此處ニ居ラレルカラ御存ジカモ知レマセヌガ、濱口内閣ノ依商工大臣ノ時ニ、獨逸デ統制經濟ヲヤツテ居ル、是ハ宜カラウト云フノデ、實ハ今ダカラ白狀スルガ、最初生嚙リデ、半嚙リデ統制法ト云フモノヲ立案シテ、議會ヲ通過

サシタノデアリマス、其後實ハ餘リ能ク分ラナイ、其適用ガ分ラナイ、研究シテモ中旨ク行カヌ、民間モ分ラナイ、政府モ分ラナイカラ、政府ハ此統制トサヘ言ヘバ、民間モ分ラナイシ、事業家モ分ラナイシ、政府モ分ラナイカラ、統制々々トサヘスレバ、ドンナコトニデモヤツケラレルト思フカラ、此統制ト云フモノヲガリ／＼ト引廻シテ、色々ナコトヲ爲スッテ居ラシヤルヤウデアリマス、此議會ニ出テ居ル議案デモ、統制經濟ノ原理ニ依ッテナサレテ居ル議案ガ中少クナイト思フガ、ソシナ五ツモ六ツモ階段ヲ拵ヘテ、其上ヘ商工省ガ乗ッテ、コシナ大キナ監督權ヲ振廻スダケノ、一體智慧ガオアリナンデセウカ、ドウダラウカ、私ハナカラウト思フ、無イノガ當リ前ダト思フ、有ツタラ間違ッテ居ル、御役人様ハ年中御上リニナリ、ドン／＼榮達昇給ナサラナケレバ、一ツノ所ニ十年モ十五年モ居ルヤウナ者ハ、ドウセ碌ナ者デハナイカラ、ドン／＼進級ナサル、隨テ日ニ日ニ新ナリデ、新シイ者ガドン／＼ヤツテ來ル、事業家ノ方デハ、十年モ、二十年モ、三十年モ同ジ仕事ヲ、必死ニ命懸ケデヤツテ居ルカラ、此事業家ノ專門家ト御役人ノ知識トハ違ッテ當リ前デアル、違ハナケレバドウカシテ居ル、天才見タヤウナ、神様見タヤウナ人が出テ來タラ敵ハナイ、私ハ敵ハナイコトヲイカスト言フノデヤナイ、政府ノ御役人ガ上ヘ乗ッカッテ、此エライ三十年モ、四十年モ、五十年モ苦勞シタ玄人ノ上、而モ製

鐵事業ト云フヤウナ、困難ニ困難ヲ重ネテ來テ居ル、日本鋼管ナドハ二度減資シテ居リマス、其難行苦行ノ間ヲ通ツタ、百戰練磨ノ此玄人ノ上ヘ馬乘ニナツテ駄サウト言ッタツテ、ソレハ中々イカヌ、却テ變ナモノガ出來テシマフト思ハレナケレバナラヌト思フノデアリマス、ソレデ私ハ斯界ノ達人デアリ、非常ナ達者デアル或ル高名ナ人ニ、ドウシテ政府ハ此小運送ヲ何カ監督シテ統制シタリ、コンナモノヲ出シテ見タリ、色々ナコトヲスルノダラウ、斯ウ言ツタラ、ソレハオ前ハ智慧ガナイカラ知ラヌ、ソレハ官僚「イデオロギー」ト云フモノダト説明サレタノデアル(拍手)ソレハ一體露西亞語カ支那語カ私ニハ分ラナイ、新官僚「イデオロギー」ナドト云フ難シイコトハ私ハ分ラヌガ、説明ヲシテ呉レト言ツタラ、ソレハ電氣事業ノコトヲヤツタノモソレデアルシ、又東株ヲ取引所ヘヤラセタト言ウテ、取引所ヲ締メタノモ其處カラ來タノデアル、今提出シテ居ル運送業ノ統制ナドモ、政府ガ資本金ヲ出シテ運送屋ヲ始メル、是等モ其「イデオロギー」カラヤルモノデアル、又最近ニハ輸出ニ稅ヲ課ケテ、輸出統制ナド恐ロシイコトヲ言ツテ、出來モシナイヤウナコトヲヤツテ居ルノモ、其「イデオロギー」トカ云フモノデアル、一番大キナ「イデオロギー」ハ是デアルト、斯ウ説明サレマシタガ、私ニハ能ク分ラヌカラ、ソレデヤドンナモノヲ發散スルノダト言ツタラ、ソレハ變ナ惡氣流ヲ發散スルト言フカラ、毒瓦斯見タヤ

ウナモノデスカト言ッたら、マアソソナモノ
ダト云フヤウナコトヲ聞カサレマシタガ、
ソレハ私デヤアリマセヌカラ眞偽ハ保證シ
ナイ、私ハ達者ナ人ニ聞カサレタ、サウ云
フコトガ本當トスルト、サウ云フ恐シイ、イ
デオロギーノ下ニ、此重大ナ、國家ニナ
クテハナラヌ、必要缺クベカラザル、國民
ガ必死ト之ヲ頼ンデ居ル此重大ナ問題ニ、
左様ナ點ニ於テ監督指導サレタラ、容易ニ
増産計畫ナドハ私ハ進マスト思フ

ソコデ私ハ先ヅ軍部ノ御方ニ聽キタイノ
デアリマスガ、軍部ハ私ハ低廉ニシテ豐富
ナル鐵ヲ要求スル御趣旨デ、本案ハ御賛成
ニナツタノダラウト思フデアリマスガ、軍部
ノ陸海軍軍用品全部ニ對シテノ需要鉄鐵
ノ總數ハ、本年度及ビ來年度ヲ通ジテ、約
ソ一箇年十萬噸位ノ増加需要デアルト云フ
コトデアリマスガ、其位ノモノデ軍部ハ結
構有餘テ十分満足ヲサレテ居ルノカドウ
ダカ、此二ツノ點ヲ承リタイノデアリマス
第三ノ貧鐵開發、是コソアナタノ本當ニ
偉イ所デアル、私ハ褒メル、商工大臣ハ流
石ニ斯道ノ權威者デアル、是非トモ鐵石選
定法ニ依ッテ、日本ノ製鐵ノ將來ヲ指導シテ
行クアナタノ原理ノ考ヘ私ハ敬服スル、併
シ其運用ニ付テハ少シ物足りヌ、貧鐵、砂
鐵ヲ開クノニ、所得稅、營業稅ノ免除ダケ
デ開ケルノデアルト私ハ思ハヌ、其位ノコ
トデ開ケテ居ルナラバ、疾ニ開ケテ居ル筈
デアルト思フ、所得稅トカ營業稅ハ儲ツタカ
ラ出スノデアル、貧鐵ヲ處理シテ開發シテ

行クノハ、餘リ有利ナコトデハ現在デハナ
カラウト思フ、是ニハモウ少シ大膽ナ獎勵ヲ
スル、所謂利子補給ヲスルトカ、獎勵金ヲ出ス
トカ、大膽ニナスッテモ、是コソ結構ナコトデア
リ、國家國民ノ爲ニスル大事業デアルカラ、
私ハ大藏大臣ニ來テ貰ハウト思ッタガ居ナイ
カラ、賢明ナ次官ガ居ラレマスノデ、次官
デ結構デゴザイマスガ、財源ガナイ、財源
ガナイト言ッテモ、斯様ナ國家ノ重大問題
ノ前ニハ、財源問題ハ最早論ズル必要ハナ
イノデアル、第二、第三ノ問題デアル、私
等ハ商工大臣ニ後援ヲスル、ドウカ大藏大
臣ハ商工大臣ノ意思ヲ繼イデ、其資金ヲ出
スコトニ努力シテ行ッテ戴キタイト思フ、更
ニ鐵鑛デス、鐵石鉄鋼法デアリマスカラ、
鐵鑛ノ獲得ガ大事ダ、現在ハマダ鐵鑛ダケ
ナラバ、「マレー」カラデモ、支那カラデモ、
或ハドウヤラ濠洲ヂヤ喧シト云フガ、濠
洲カラデモ、「ボルネオ」カラデモ、「ニュー
カレドニア」カラデモ、アノ邊ニハ相當ア
ルダラウト思ヒマス、一昨年アタリハ四百
萬噸位ノ製鐵ヲ輸入シタヤウデアリマスガ、
鐵石鉄鋼法ニ依レバ——鉄鐵ハアナタノ言
フヤウニ、昭和十六年ニ滿洲ヲ合セテ八百萬
噸、内地六百萬噸位ノ鉄鐵デ足リルト思フ
コトガ、既ニ其問題ニ於テアナタハ錯覺ヲ
シテ居ラレルト思フ、毎年三十萬噸カ四十
萬噸シカ増加率ヲ認メテ居ナイ此計算ハ、
鐵石鉄鋼法ナドト云フ、重大ナル考ヲ持ッテ
居ルアナタトシテハ私ハ腑ニ落チヌ、是ハ
甚ダ貧弱ナル増加率デアッテ、貧弱ナル増加

率シカ認メナイ、所謂消極の方針ト云フコ
トヨリ外ニ申シヤウハナイト思フ、モウ少
シ雄大ナコトヲシテ、潤澤ナル鐵石ノ獲得
ノ必要ヲ私ハ考ヘテ居ル、是ニハ相當長イ
間——一年ナリ半年ハ苦シマナケレバナラ
ヌ、例ヘバ六百萬噸ナリ七百萬噸位輸入シ
テモ、直キニ一年分位ノモノニハナル、其
金ノ利息ダケヲ大藏省ガ出シテヤルコトハ、
此大キナ問題ノ前ニ何デモナイト思フ、又
其位ノ要求ヲ製鐵事業ニ關係スル商工大臣
ガ御要求ニナツテ、貧鐵ノ御處理ヲ爲サレバ
結構——之ヲヤラナケレバ、一朝有事ノ時ニ
非常ナル蹉跌ヲ來スコトガアリマスカラ、
其點モ結構、鐵石ヲ輸入シテ、之ニ依ッテ鐵
石鉄鋼法ヲ獎勵スルト云フコトモ實ニ結
構、ソレガ爲ニハ熔鑛爐ノ設備ヲモット許可
サレル決心ガアルカ、モット熔鑛爐ヲ許可サ
レナケレバ、到底アナタノ理想ナドニハ及バ
ザルコト甚ダ遠イモノデアル、故ニ大膽ニ
アナタノ意見ヲ此處デ發表シテ、鐵石ハド
ウスルカ、サウシテ大藏省ニ其資金ノ利息
ヲ出サセルナリ、資金ヲ出サセルナリシナ
ケレバナラヌ、誰モ貧鐵ノ開發ハ御賛成ダ
ラウト思フ、吾々モ賛成デアル、併シ出來ナ
イ相談デハ役ニハ立タヌ、繪ニ描イタ虎デ
ハ役ニ立タヌ、生キタ虎デナケレバナラヌ、
繪ニ描イタ虎ノヤウデハ役ニ立タヌ、所得
稅ヤ營業收益稅ヲ免ジタ位デ、貧鐵ノ開發
ハ出來スト思フ、要スルニ此際大資金ヲ供
給シテ、貧鐵、鐵石ノ獲得ニ御努メニナル
ト云フコトガ、許可制ヲ布クナドト云フコ

トヨリモ、モット大キナ問題デアル、アナ
タノ狙ヒ所ハ少シモ違ッテ居ラヌ、之ニ對
スル大藏省ノ方針何如、其資金ノ支出如
何、若シ萬一財源ガ無クテ困ルヤウナラ、
私ハ案ヲ持ッテ居リマスカラ、内證デ教ヘ
テ差上ゲマスガ、ドウゾ重大問題デアリマ
スカラ、此點ヲ直截明瞭ニ勇敢ニ此處ニ御
答辯ヲ願ッテ、吾々日本國民ノ全體ガ關心
ヲ持ツ製鐵業ノ前途ニ對シテ、モウ少シ安
心ヲ與ヘテ貰ハナケレバ、アナタノ五箇年
計畫位デハ、私ハ甚ダ殘念ナガラ満足ヲ表
スルコトハ出來ナイト云フコトヲ言明シテ
置キマス、以上ニ對シテ御答辯ヲ願ヒマス
(國務大臣伍堂卓雄君登壇)

○國務大臣(伍堂卓雄君) 岡崎サンノ御同
情アル御質問ニ對シマシテ、細カイ事ハ委
員會デ申述ベルコトニ致シマシテ、茲ニハ
極メテ簡潔ニ要點ダケヲ御答致シタイト
思ヒマス、先ヅ第一ニ、許可制度ハ大カラ
小マデ總テヲ通ジテアルト云フコトハ、少
シ岡崎サンノ御間違ヒデヤナイカト實ハ思
フノデアリマス、大分自由事業トスルモノ
ノ取除ケガアリマスカラ、是ハ印刷物ニ依ッ
テ御覽ヲ願ヒタイト思ヒマス、之ヲ一貫シ
テ申上ゲナケレバナラヌト思ヒマスコトハ、
何ガ故ニ許可制度ヲ必要トスルカ、其結論
ダケヲ申上ゲテ見タイト思フノデアリマス、
今日日本ノ製鐵事業ノ惱ミハ、鐵石ノ八〇
%マデ外國依存デアアル、又鋼ヲ拵ヘルノニ
必要ナル屑鐵、即チ「スクラップ」ノ半分ガ
外國依存デアアル、鉄鐵ニ於キマシテモ、漸

次はハ改善シテ参リマスケレドモ、併シ相當多量ニ外國ヨリノ輸入ニ俟タナケレバナライノデアリマス、銑鐵ニ於キマシテハ、熔鑄爐ヲ増セバ、是ガ目的ヲ達スルコトハ出來ルノデアリマスガ、鑛石ト「スクラップ」ニ至リマシテハ、幾ラ設備ヲシマシテモ、之ヲ拵ヘルコトハ難カシイノデアリマスカラ、將來ノ擴張ニ對シマシテハ、外國依存ノ鑛石ト、外國依存ノ「スクラップ」ニ對シマシテハ、最モ深甚ナル注意ヲ拂ハナケレバナライノデアリマス、即チ熔鑄爐ヲ新設シマスノニハ、之ニ用ヒマス鑛石ノ外國カラノ供給ヲ確實ニ考ヘナケレバナリマセヌシ、又「スクラップ」ニ對シマシテハ、一層ヒドイノデアリマシテ、昨今ノ外國カラノ電報ニ依リマシテモ、日本ノ軍需工業用ニ必要ナル鐵ヲ造ル爲ニ、「スクラップ」ヲ外國カラ供給シテヤルコトハ怪シカラスト云フコトガ、頻々トシテ起ツテ來テ居ルノデアリマス、デアリマスカラ理想トシマシテハ、國內ニ於テ産シマス「スクラップ」ノミニ依ツテ銑鐵ヲ拵ヘル方法ガ、一日モ早く實現サレナケレバナライノデアリマス、此政策上ノ二ツノ目的、併セテ今日鐵ガ不足ノ爲ニ外國カラ高イ銑鐵ヲ輸入シテ参リマス、ソレガ爲ニ平均ノ市價ガ漸次騰ツテ参リマスガ、併ナガラ自ラ之ニ對シテハ公正ナル價格ト云フモノガナケレバナライ、唯需給關係ノミニ依ツテ、是非必要ダカラ幾ラデモ買フト云フ、サウ云フ弱味ニ乗ジテ高ク賣リマシタリ、又中間ニ於テ

之ヲ貯蓄スル、實際貯蓄シテ居ルノガアルノデアリマスカラ、之ヲ矯正スル方法ヲ考ヘナケレバナラス、即チ要約シテ申上ゲマスト、ドウシテモ相當長期間、將來ニ互ツテ外國ニ依存シナケレバナラス「スクラップ」又ハ鑛石ヲ必要トスル向キニ、適當ニ使用サセルコトニ對シマシテハ、將來蓋設サレントスル熔鑄爐デアリマストカ、又ハ鋼ヲ拵ヘマス平爐ノ新設ニ對シテハ、ドウシテモ許可制度ヲ布クト云フコトガ、日本ノ製鐵國策トシテ最モ健全ナルヤリ方デアルト確信スルノデアリマス

ソレカラ許可ヲ致シマスノニハ、無論最モ權威アル外部ノ御方々、又製鐵事業ニ關係ノアル人ヲ網羅シマシタ製鐵事業委員會ニ依ツテ、「スクラップ」ノ點カラ、又鑛石ノ點カラ、斯ウ云フ熔鑄爐ヲ増シテモ宜シイカ、斯ウ云フ平爐ヲ増設シテモ、他ガ迷惑シナイカト云フコトヲ慎重ニ考ヘテ、迅速ニ之ヲ決定シナケレバナライノデアリマ

ス
ソレカラ鐵ノ値段ハ外國品ニ比ベテ非常ニ高イト申サレマシタガ、ソレハ外國カラ輸入シマス鐵鋼ハ高イノデアリマスケレドモ、幸ニシテ内地ノ生産費ハ外國ニ比ベテ高クハナイノデアリマスカラ、今日ニ於キマシテモ、銑鐵ノ市價ハ外國ノ市價ヨリ遙ニ安イノデアリマス、又鋼材ニ於キマシテモ、輸入品ニ對シテマダ開キガアルノデアリマス、公益上軍事上必要ナ場合ノ命令權、監督權ノ實行ハ、是ハ大切ナコト

デアリマスカラ、製鐵事業委員會ニ依ツテ決定致シマスルシ、又ソレニ依ツテ受クル製鐵事業者ノ損害ニ對シテハ、當然國トシテ是ガ補償ヲ行ハナケレバナラスノデアリマ

第デアリマスノデ、此業界ノ現狀竝ニ我ガ資源依存ノ狀態等ヲ考ヘマシテ、例ヘテ申シマスレバ、輸入ノ屑鐵依存ノ弊害ヲ除キマスル爲ニ、銑鋼一貫作業ヲ徹底致シマストカ、或ハ貧鐵及ビ砂鐵ノ使用ヲ助長致シマスルトカ、或ハ急速ニシテ且ツ統制アル斯業ノ發達ヲ促進致シマスルコト等ハ、國防上陸軍トシテ最モ望ム所デアリマス、尙ホ只今岡崎君カラ御尋ノアリマシタ陸軍ノ需要量ニ對シマシテ、十萬噸云々ト云フ御話ガゴザイマシタガ、現ニ明年使用致シマスル鐵量四萬噸ヲ増加スルノデアリマ

〔國務大臣(杉山元君) 只今岡崎君カラノ質問ニ對シマシテ、商工大臣カラ答辯致シマシタコトデ、私カラ御答スル事柄ハ殆ド盡キテ居ルト存ジマスルガ、尙ホ此際陸軍トシテ、此事業法案ニ對シテ持ツテ居リマス考ヲ申上ゲタイト存ジマス、我國製鐵事業ガ最近其發達見ルベキモノガアルノデアリマスルガ、併ナガラ只今商工大臣ノ申シマシタ如ク、多量ノ銑、鐵屑、或ハ鑛石等ヲ輸入サレテアルノデアリマス、此外國依存ノ狀況ハ、平時ニ於ケル鐵問題ハ申ス迄モナク、戰時ニ於ケル自給自足ヲ目標ト致シマスル軍ノ要望ト致シマシテハ、尙ホ今日ノ狀態カラ考ヘマスト、前途ハ頗ル遼遠デアルト考ヘルノデアリマス、斯ウ云フ次

ハ含ンデ居ラスノデゴザイマス、御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス
〔政府委員(賀屋興宣君)登壇〕
關シマスル獎勵ニ付キマシテノ御尋デアリマスガ、是ハ先刻商工大臣ヨリ御答辯ガアリマシタ如ク、本年度ニ於キマシテハ、補助費ヲ用ヒマセヌデモ、所期ノ目的ヲ達スルヤウナ處置ガ十分ニ出來ルト信ジテ居リマス、尙ホ將來ニ關シマシテハ、此鐵鋼ノ原料ニ付キマシテノ御説ハ、全ク御同感デアリマスノデ、出來ルダケ財政上ニ於テモ力ヲ盡シタイト考ヘテ居リマス
〔岡崎久次郎君登壇〕
○岡崎久次郎君 只今商工大臣カラ明細親切ナル御答辯ガアッタと思フノデアリマス

ガ、私ノ質問ニ對シテ一寸穿キ違ヘテ居ラ
レル點デ、答辯ノナカッタ大事ナ點ガアリマ
スカラ、モウ一遍御答辯ヲ煩ハシマス、私
ハアナタノ言フ通り、亞米利加カラ輸入ス
ル「スクラップ」ニ依存シテ居ルヤウナ日本
ノ製鐵業デハ、心細イト云フコトハアナタ
ト同感デアル、又百十圓モスル鉄鐵ヲ、佛
蘭西ヤ亞米利加カラ輸入スルト云フコトニ
付テモ、是ハ軍部大臣ノ言ハレタ通り、斯
ウ云フモノヲ當ニシテ安心シテ居ラレヌト
云フコトモ同感デアル、然ラバ内地ノ鉄鐵
ガ餘計ナクチャナラヌ、アナタノ鉄鐵一貫
作業デハ、昭和十六年マデニ滿洲ト合セテ
八百万噸位ノ鉄鐵デ、洵ニ心細イ方針
デ、繪ハ馬鹿ニ大キイケレドモ、實際ノ内
容ハ餘リニ小サイ、是ハ熔鑄爐ヲモットア
ナタガ許可サレテ、鑛石ヲモット輸入サ
レテ、アナタノ居ル時代ニ——幸ヒアナ
タノヤウナ人が商工大臣ニナッタノハ、私
ハ時宜ヲ得タモノト非常ニ喜ブ、其時ニ
大膽ナル計畫ヲヤリ、鑛石ヲモット保有シ
テアルガ宜イシ、日本製鐵バカリデハナ
イ、民間ノ總テノ製鐵、熔鑄爐ノ爲ニ鑛
石ヲモット政府ガ確保シテヤツテ、其資本ト
カ、或ハ利息位ハ補助シテヤツデモ、此國家重
大ノ事、及ビ軍部ノ重大ナル希望ニ對シ
テ差支ナイデヤナイカ、ソレニハモット大
膽ナル鑛石輸入ノ計畫、乃至貧鑛ハ直グハ
起ラヌデセウガ、貧鑛ノ獎勵デモ、コンナ
コトデハ覺束ナイカラ、私ハ商工省ニ後援
ヲシテ、大藏大臣カラ此財源ヲ取ツテ上ゲ

タイト思ッテ居ル、デナケレバ、大藏省ハ必
ズ、皆使ヒ盡シテ二分殘ルトヤラ言ツテ、何
時モ金ナンカ一文モナイト言ハレル、ソレ
故ニ商工省ト云フモノハ、何時デモ大キナ
豫算ハ大體取レナイ、此大キナ問題ニ對シ
テノ豫算ハ是非共——商工大臣ノ意思ヲ軍
部モ贊成ヲサレタ以上ハ、大藏大臣ハ之ニ
對スル豫算ハ出シテ戴カケレバナラヌト
思フ、ソレヲヤルガ爲ニ、許可制ニシナケ
レバナラヌト云フ必要ト結付クト云フコ
ト、私ハ其處ニ意義ガアルト思フ、現在熔
鑄爐デモ、認可制デ行ツデモ一寸モ認可シ
ナカッタ、認可ヲシナイ爲ニ遅レタダ、許
可制ト云フコトニナルト、尙ホ遅レ勝チナ
モノニナルト云フコトハ、當然前途ハ見透
カセル、サウデハナイデスカ、至急ヤルト
言ツテモ、是カラ商工省ガ委員會ヲ開クノデ
セウ、委員會ニ偉イ人が來テ、其委員會ニ
ヤハリ商工省ガ原案ヲ持ッテ行カナケレバ
ナラヌカラ、其原案ヲ練ル爲ニ三月ヤ四月
ハ掛ツテ、急速ニハ間ニ合ハナイ、現在デモ
認可制ヲ持ッテ居ラレルノデアリマス、然ラ
バ平爐ガイケナイナラ、平爐ノ認可制ヲ御
拵ヘニナツテ、實際營業者トコッテリト御話
ニナツテ來レバ、製鐵業ナドノ大綱ハソソナ
ニ分ラヌ人ハ居マセヌ、又小サナ工業者デ
ヤアリマセヌ、大キイ工業者デアリマスカ
ラ、能クアナタノ意味モ私ハ分ルト思フ、
決シテ分ラヌコトハナイ、唯許可制ヲ以テ
此事業ヲヤラナケレバ、鑛石鉄鋼法モ出來
ナイノデアル、又將來ノ安定モ出來ヌノデ

アルト云フコトハ、丁度吾々ト逆ナ行キ方
デ、逆ナ考ヘ方デアリハシナイカ、此二點ヲ
モウ一遍明瞭ニ御答ヲ願ヒタイト思ヒマス
〔國務大臣伍堂卓雄君登壇〕
○國務大臣(伍堂卓雄君) 私ハ心持ニ於テ
ハ全クビッタリシテ居ルト思フノデゴザイマ
ス、少シモ其處ニ變リガナイト思フノデア
リマス、貧鑛處理法ニ付テハ、マダ豫算ヲ
出スマデニ行ツテ居リマセヌト云フノハ、今
日マデ遺棄サレテ居リマシタ貧鑛竝ニ砂鐵
ハ、現在世界デ行ハレテ居リマス方法ヲ以
テシテハ、到底算盤ニ合ハナイノデアリマ
ス、カルガ故ニ私が提唱シテ居リマス獨逸
ノ新シイ直接製鐵法ヲ用ヒナケレバナリマ
セヌガ、ソレヲ用ヒルコトニ對スル豫備的
實驗ヲ、只今茂山ノ鐵鑛ニ對シ、又砂鐵ニ
對シテモ行ハントスルノデアリマスカラ、
ソレニ必要ナ設備ノ豫算ト云フモノハ今立
チニクイノデアリマス、デアリマスカラ唯
日本デ、例ヘバ日本製鐵デ其豫備の小規模
ノ試驗ヲ致シマス爲ニ、九十萬圓ノ豫算ヲ
前商相ハ取ラレタノデアリマスガ、ソレハ
ナクトモ當然日本製鐵ニ於テ行フベキコト
デアリマシテ、又行フト言ツテ居ルノデアリ
マスカラ、サウ云フチツボケナモノハ取ツテ
シマツテ、却テサウ云フ小サナ獎勵金ナドガ
出テ居リマス、他日害ヲ爲シマスカラ、
來年度ニ於テ適當ナ豫算ヲ取ラウ、斯ウ云
フ考デアリマス
ソレカラ許可ニ付キマシテハ、只今「アウ
トイサダー」カラ出テ居ツテ、懸案ニナツテ

居ルノハアリマセヌ、片付ケテシマヒマシ
タ、唯只今モ申シマシタ通り、將來ノ「ス
クラップ」ノ不足、竝ニ皆シナガ奪合ヒヲセ
ントシテ居ル鑛石ノ見地カラ、外國カラ輸
入シマス鑛石ノ見地カラ、共倒レニナラナ
イヤウニ、相當規模以上ノモノハ能クソレ
ヲ調査シテ、迅速ニ許可シヨウト考ヘテ居
ルノデアリマス
○岡崎久次郎君 確ッカリシタ要領ヲ得マ
セヌガ、他ノ議案モ御急ギデアラウト思ヒ
マスカラ、後ハ委員會デ質問ヲ行フコトニ
致シマセウ
○議長(富田幸次郎君) 田尻生五君
〔田尻生五君登壇〕
○田尻生五君 昨年末カラノ鐵ノ飢饉ガ、
各方面ニ多大ノ不安ト支障ヲ與ヘテ居ルコ
トハ周知ノ事實デアリマス、軍備ノ充實ガ
喫緊ノ急務トセラレテ居ル現下ノ非常時局
ニ臨ンデ、鐵ノ問題ガ一層ノ重大性ヲ齎シ
タコトハ申ス迄モナイノデアリマス、然ル
ニ内ニ於テハ、國家財政ヲ脅スガ如キ、軍
事費ヲ中心トスル龐大豫算ノ編成ヲ餘儀ナ
クサレ、之ヲ外ニ致シマシテハ、「ソ」滿國境
ニ於テ、一觸即發ノ危險アリト公言サレテ
居リマス、逼迫シタル事態ニ直面シテ、
國內ニ鐵飢饉ノ悲痛ナル叫ビヲ聞クガ如キ
ハ、何タル皮肉デアリマセウ、抑、鐵ニ對ス
ル我が國策ハ、鉄鐵及ビ鋼鐵、即チ鐵鋼ノ
自給自足、更ニ進ンデ之ヲ海外ニ輸出スル
迄、自給他足ノ域ニ進ムノガ本來ノ目標デ
アルノデアリマス、我が政府ハ此製鐵事業

ニ對シテ、多年保護救済、即チ恩惠の助長政策ヲ以テ、斯業ノ發達ニ努メ來タノデアリマスガ、斯ル方法ノミヲ以テシテハ、到底製鐵事業ノ基礎ヲ鞏固ニ確立スルコトハ出來マセヌノデ、去ル昭和八年ノ二月各方面ノ要望ニ基キマシテ、日本製鐵株式會社法案ヲ本議會ニ提出シテ協賛ヲ得、翌九年二月官民合同ノ一大會社ヲ設立致シタノデアリマス、是ガ日本製鐵株式會社デアリマス、即チ我が鐵國策ハ、爾來日鐵ヲ中心トシテ遂行セラレルト云フコトニ決定ヲ見タノデアリマス、然ルニ爾來僅ニ三年、茲ニ又製鐵事業ノ健全ナル發達ヲ圖ルヲ以テ目的トスト稱シマシテ、本法案ノ提出ヲ見ルニ至リマシタコトハ、聊カ異様ノ感ナキヲ得ナイノデアリマス、果シテ只今左様ナ必要ガアルカ、若シアルトスレバ、其内容ハ果シテ適當ナモノデアルカドウカ、是等ノ點ヲ明ニスル趣旨ヲ以テ、私ハ重要ナル諸點ニ付キマシテ、成ベク簡潔ニ質疑ヲ致シタイト思ヒマス

先ヅ現在ノ國策ニ付テ檢討スル必要ガアリマスルガ、製鐵合同、即チ日鐵ノ設立ト云フコトハ、失敗デアッタト云フ意見ガ可ナリ廣ク世間ニ行ハレテ居ルノデアリマス、而シテ其理由トスル所ハ、製鐵合同ノ目的ト云フモノハ、鐵鋼ヲ安價ニ豊富ニ供給スルト云フノガ其主旨デアッタ、合同ノ結果三億六千万圓ト云フ龐大ナル半官半民ノ特殊會社ガ出來タケレドモ、鐵鋼需給ノ調節ニモ、價格ノ調整ニモ、何等役立ッテ居ナイデ

ハナイカ、否、却テ屢鐵ノ飢饉ヲ惹起シ、又鐵價ノ暴騰ヲ招イテ居ルデハナイカ、即チ合同ノ主旨ハ全然失ハレテ居ルノデハナイカト云フ非難デアアルノデアリマス、一應尤ナ非難デアアルト思フノデアリマス、先般豫算委員會ニ於キマシテ、我黨ノ加藤鐵五郎君ガ此點ニ付テ質疑ヲ致サレタノデアリマスガ、商工大臣ハ之ニ對シテ斯ウ云フコトヲ申サレテ居リマス、「合同法案審議ノ際ニ、當時ノ商工大臣ガ、合同ガ出來レバ必ズ豊富ニシテ低廉ナル鐵ヲ供給スルコトガ出來ルト言明サレタト云フコトデアアルガ、價格ト需要ハ其時々ノ事情、即チ基礎條件ノ如何ニ依ッテ違ッテ來ルモノデアッテ、斯ク安クナルト云フガ如キコトハ言明出來ル筈ノモノデハナイ」ト、斯様ニ仰セニナッテ居ルノデアリマス、サウ致シマスルト、是ハ從來製鐵合同ニ多大ノ期待ヲ持ッテ居タ國民トシテハ、實ニ意外ノ感ヲ持タザルヲ得ナイノデアリマス、又當時議會ニ於ケル審議ニ當リマシタ吾々ト致シマシテモ、頗ル粗漏杜撰ナ審議ヲヤッタノデハナイカト云フガ如キ、誤解ヲ招ク虞ガアルノデアリマス、加之實質的ニ考ヘテ、若シ果シテサウデアルトスレバ、今後鐵國策ノ動向ヲ定ムル上ニ於テ、至大ノ關係ヲ持ツモノデアリマスルノデ、私ハ當時ノ事情ヲ明瞭ニシテ置クコトガ、此際必要デアアルト思フノデアリマス、御承知ノ通りアノ合同法案ガ提出サレマシタ昭和八年ノ二三月ノ頃ハ、我が産業經濟界

ハ既ニ好轉致シテ居タノデアリマス、政府ハ物價騰貴ノ趨勢モ、鐵ノ需要ノ増加ノ傾向モ、悉ク承知致シテ居タノデアリマス、而シテ十分ニソレ等ノコトヲ承知シナガラ、我が製鐵事業ノ根本對策トシテハ、ドウシテモ合同ヲヤラナケレバナラスト云フ強キ主張ノ下ニ、提案ヲ爲シ、議會ニ於テ力說致シタノデアリマス、サウシテ此會社ガ出來レバ「鐵鋼ノ價格ハ低下シ、其供給ヲモ確保セラレル」ト云フコトヲ、明白ニ主張致シタノデアリマス、而モ如何ニシテサウ云フコトガ出來ルカト云フコトモ、一合理的ノ説明ヲ加ヘテ居ルノデアリマス、故ニ議會ニ於テハ、是等ノ點ニ付テ極メテ詳細ニ、極メテ慎重ニ審議ヲ加ヘタ上デ、彼ノ法案ニ協賛ヲ與ヘタノデアリマス、固ヨリ私ハ鐵鋼ノ需要ト價格ガ、基礎條件ノ變化ニ依ッテ相當ニ變動スルモノデアルト云フコトヲ否定スルモノデアリマセヌケレドモ、ソレハ程度ノ問題デアリマス、當時ノ情勢ニ於キマシテハ、政府ノ説明ニ依ッテ納得スルノガ常識デアッタ、又專門家ノ間ニモ多ク異論ハナカッタヤウニ承知致シテ居リマス、若シ商工大臣ノ如クニ、當時ノ所管大臣ノ説明ヲ以テ、殆ド出鱈面ノ意見デアリ、又之ヲ信用シテ協賛ヲ與ヘタノハ、愚ノ骨頂デアアルト云フガ如キ感ジヲ起サシムル所ノ御答辯デアラナラバ、私共之ニ對シテ多大ノ不滿ヲ感ズルノデアリマシテ、到底承服スルコトヲ得ナイノデアリマス……

（田淵豐吉君何事カ發言ス）
○議長（富田幸次郎君） 田淵君、靜肅ニ
○田尻生五君（續） 加之商工大臣ノ御答辯ノ如クデアルト致シマスルナラバ、製鐵合同ノ根本趣旨ヲ否定セラル、コトニナリマシテ、製鐵合同ハ失敗デアッタト云フ一部ノ見解ヲ、裏書スル結果ニ至ラザルヲ得ナイノデアリマス、併ナガラ製鐵合同ハ、最初豫定サレテ居タダケノ合同ヲ未ダ完成シテ居ナイノデアリマス、即チ未完成ノモノデアルト云フ事實ガアリ、又鐵界ノ混亂ヲ來シタコトニ付テハ後デモ申シマスルガ、日鐵ガ其運用ヲ誤ッタト私ハ思フ、併シ是ハ別箇ノ問題デアッテ……
（田淵豐吉君何事カ發言ス）
○議長（富田幸次郎君） 田淵豐吉君ニ注意致シマス
○田尻生五君（續） 唯單純ニ合同ガ失敗デアッタト斷ズルノハ、マダ其時期デハナイ、早計デアルト私ハ固ク信ズルノデアリマス、商工大臣ハ製鐵合同ヲ制定シタコト、即チ日鐵ノ設立サレタコトガ、鐵ノ國策遂行ノ上ニ於テ失敗デアッタト、果シテ斷セラレルノデアリマセウカ、即チ一部ノ世間ノ意見ニ同意サレルノデアリマセウカ、先程申シマスヤウニ、今後鐵國策ノ動向ヲ檢討スル上ニ於テ、至大ノ關係ヲ持チマスルガ故ニ、商工大臣ノ御所信ヲ承リタイト思ヒマス、然ラバ近來ノ此鐵ノ飢饉、之ニ伴フ鐵價ノ暴騰、即チ鐵鋼界ノ混亂ハ、如何ナル原因ニ依ッテ發生シタカト云フ問題ニ移ルノデアリマス、之ニ對シマシテ商工大臣ハ

色々ナ機會ニ於テ述ベラレテ居リマス、ソ
レヲ綜合シテ見マスルト、最近一年間ニ異
様ナル需要ノ膨脹、而モ其需要ハ實際ノ需
要モアレバ、思惑的ノ需要モアル、色々ナ
豫想シナカッタ突發的ノ事情ノ影響ニ因ル
モノデアルト仰セニナッテ居ルノデアリマ
ス、サモ不可抗力ニ因ルカノ如キ御説明ヲ
爲サレテ居ルノデアリマス、商工大臣ノ立
場トシテハ、洵ニ已ムヲ得ナイ事情ガアル
カモ知レマセヌガ、私ハソレトハ全然別箇
ノ見解ヲ有スル者デアリマス、何故カ、其
理由ヲ申シマスレバ、先ヅ鐵ノ飢饉ハ今度
ガ初メテデハナイ、或人ハ鐵ノ飢饉ハ年中
行事デアルト言ッテ居ル位デアリマシテ、現
ニ二年前ニモ強ク經驗サレタコトデアリマ
ス、政府ハ其應急策ヲ致シマシテ、昭和十
年ノ二月第六十七議會ニ於テ、鐵關稅ノ半
額引下案ヲ提出致シタノデアリマス、不幸ニ
シテ審議未了ニナリマシテ、私共當時ノ委
員トシテ責任ヲ痛感致シタノデアリマスル
ガ、其節此關稅半額引下案ハ、二箇年ノ期
限ヲ附シテアツタ、サウシテ政府ノ説明ニ依
リマス、二箇年後ニハ、立派ニ需要供給ノ
調節ガ出來ルト云フ説明デアリマシタガ、

委員ノ言ハレタルガ如クニ的中致シマシ
テ、今日ノ鐵ノ飢饉ヲ招來致シテ居ルノデ
ハアリマセヌカ(拍手)
次ニハ我國ニ於ケル過去ノ實績ニ徴シマ
シテモ、鐵ノ需要額ト云フモノハ、略、政府
ノ豫算額ト其變動ヲ同ジクシテ居ルノデア
リマス、是ハ政府當局モ御認メニナッテ居ル
筈ト思ヒマスルガ、近イ例デハ昭和五六年
ヲ基準ト致シマシテ、其前後數年間ヲ比較
對照シテ見マスレバ、極メテ歴然タルモノ
ガアルノデアリマス、殊ニ昨年二、二六事件
以後、廣田内閣ノ下ニ於テ、産業經濟悉ク
所謂準戰時體制ニ調整サレナケレバナラス
事情ニアツタコトハ、政府自身ガ最モ能ク御
承知ノコトデアリマス、隨テ最近ニ於テ豫
算ノ膨脹ト共ニ、鐵ノ需要ガ急激ニ増加ス
ルト云フ位ノコトハ、當然ニ豫想サレナケレ
バナラナカッタコトト思フノデアリマス、更
ニ海外ノ事情カラ見マシテモ、此一二年間
ニ世界各國ニ於ケル産業ハ、段々復活ノ機
運ニ向ッテ來ルノデアリマス、殊ニ列強ノ間
ニハ軍擴熱ガ昂マリ、同時ニソレニ連レマ
シテ、各國デハ國家主義的ノ傾向ニ赴キ、
鐵鋼ノ自給政策ヲ強化シマシテ、成ベク自
國ニ之ヲ保存シテ、外國ニ輸出スルコトヲ
手控ヘルト云フ方針ニ出デツ、アルト云フ
コトモ、周知ノ事實デアリマス、殊ニ昨年
西班牙ノ内亂ガ起リマシテ、此西班牙ハ鐵
鑛石ノ供給地デアリマシテ、是カラ原料ヲ
仰イデ居ル歐洲各國ニ非常ナル打撃ヲ與ヘ
タコトハ、苟モ鐵ニ關心ヲ持ツ人ハ、何人

モ承知シテ居ラナケレバナラスコトデアリ
マス、斯ノ如キ内外ノ事情ヲ能ク考ヘテ見
マスレバ、鐵ノ需要ガ益々増加スベキ情勢
ニナツタコトハ、殊ニ政府ナリ、當業者ナリ、
専門家トシテハ、當然ニ豫期シナケレバナ
ラナカッタコトト思ヒマス(拍手)殊ニ我國
ノ如ク鐵鑛ヲ印度、或ハ「ソ」聯邦、又屑鐵ヲ
亞米利加ニ仰グト云フヤウナ、謂ハハ敵ニ
糧ヲ求メルヤウナ國柄ト致シマシテハ、絶
エズ外國ノ事情ヲ詳カニ致シマシテ、機宜
ノ處置ヲ誤ラザルコトガ、何ヨリモ肝腎デ
アルト思フノデアリマス、然ルニ現實ニ御
承知ノヤウナ鐵鋼界ノ混亂ヲ來シマシタコ
トハ、洵ニ遺憾ナコトデアリマスガ、其原
因ハ色々アリマセウ、一々説明ハ加ヘマセ
ヌガ、何ヨリモ大キナコトハ、鐵鋼ノ需給
推算ノ誤リデアアル、政府ハ動モスレバ需要
ヲ內輪ニ見積リ、供給力ヲ基本ニシテ需給
推算ヲスルト云フ傾キガアル、又次ニハ増
產設備ニ對スル手續ヤ工作ガ遅延ヲ致シ、
或ハ銑鐵鋼材ノ配給機關ガ不統一デアリ、
圓滑ヲ缺イテ居ツタコト、或ハ輸入取引ノ甚
ダ不手際デアツタコト等々、是等ノコトハ何
レモ人爲的ノモノデアリマシテ、畢竟スル
ニ是ハ國策會社デアアル日鐵ノ業界ニ對スル
支配力ガ微弱デアツタコトト、政府當局ノ指
導監督ガ其當ヲ得ナカッタコトニ歸因スル
ト言ハナケレバナラスト思ヒマス、殊ニ私
ガ不可解ニ思フノハ、此間ニ於ケル軍部ノ
態度デアリマス、軍備ノ充實ガ此鐵ノ問題
ト不可分ノコトデアアルコトハ、先程ノ陸軍

大臣ノ御説明ノ通りデ、現ニ只今上程サレ
テ居リマス此法案ノ第一條ニモ、本法ハ產
業ノ發展及ビ國防ノ整備ヲ期スル爲ニ云々
ト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、是ハ
本法案ニ依ッテ初メテ陸海軍ガ鐵ノ問題ニ
關係ヲ持ツノデハナイノデアリマシテ、現
在ノ日本製鐵株式會社ニモ、明ニ陸海軍大
臣モ主務大臣ニナッテ居ルノデアリマス、加
之髓カ日鐵會社ガ設立サレタ當時カラ、陸
海軍カラ代表重役モ出テ居ル筈デアリマ
ス、故ニ鐵ノ需給ノ關係ガドウ云フ風ニナッ
テ居ルカ、又斯ウ云フ廣義國防ガ強調サレ
テ居ル際デアレバ、獨リ軍備ニ直接必要ナ
場合ノミナラズ、一般ニ此鐵ノ問題ニ付テ
非常ナル關心ヲ御持チニナラナケレバナラ
ナイ筈デアリマシテ、商工省ヤ日鐵ト聯繫ヲ
保ッテ善處スルノガ私ハ當然デアルト思フ、
若シ廣義國防ニ熱心ノ餘リ、狹義ノ軍備充
實ニ支障ヲ來スヤウナコトガアレバ、是ハ
本末顛倒シテ、而モ害ヲ生ズルコトニナル
ノデアリマス

(田淵豐吉君發言ス)

○議長(富田幸次郎君) 田淵豐吉君ニ注意
ヲ致シマス

○田尻生五君(續) 國防ノ糧トモ言フベキ
所ノ鐵ニ飢饉ヲ起サセルヤウナコトハ、軍部
トシテハ十分ニ警戒シナケレバナラスコト
デアリマシテ、軍部トシテハ無論此問題ニ
無關心ヤ冷淡デナカッタラウト私ハ思フ
ガ、若シ冷淡デナカッタスレバ怠慢デア
ル急慢デナケレバ是ハ無能デアアル、商工省モ、

陸海軍モ、全部ガ、政府ハ一連ニ怠慢ニアラザレバ無能ノ謗ヲ免ル、コトハ出來マイト思フ

〔田淵吉君〕君ハ調査シテ居ナイデヤナイカ、何モ知ラスデヤナイカ」ト呼フ

○議長〔富田幸次郎君〕 田淵吉君、靜肅

○田尻生五君〔續〕 鐵鋼ノ自給自足ヲ主眼トスル國策遂行ノ爲ニ、製鐵合同ヲ適當ナリトスル國論ニ基イテ、日本製鐵會社ガ設立サレマシクコトハ、先ニ述ベタル通りデアリマス、其趣旨トスル所ハ、御承知ノ通り此製鐵事業ハ大規模且ツ系統的ニ作業ヲ爲スヲ有利ト致シマス、又製鐵事業ニハ巨額ノ固定資本ヲ要スルノデアリマス、而モ其事業ハ盛衰消長甚シキモノガアルノデアリマシテ、製鐵事業ノ本當ノ基礎ヲ確立スルニハ、先程モ申シマシタヤウニ、我國ノ當時ノ事情トシテ、官民ノ主要ナル製鐵事業ヲ合同シテ一ツノ大會社、日鐵會社ヲ作ルコトガ必要デアルトセラレタノデアリマシテ、此日鐵會社ナルモノハ、自ラ大規模ノ設備ヲ以テ大量生産ヲ行フ、サウシテ「アウトサイダー」ハ自ラ非常ニ經費ガ掛リ、大資本ヲ固定サセル熔鑄爐ヲ無理ニ拵ヘナイデモ、此日鐵ガ大資本ヲ以テドシムル熔鑄爐ヲ造ツテ、鉄鐵ナリ半製品ナリヲ、詰リ原料、材料ヲ「アウトサイダー」ニ十分ニ低廉ニ供給スル、斯クシテ日鐵ヲ指導ノ立場ニ立タセテ、全般的ニ本邦ノ製鐵事業ノ

發展ヲ期スルト同時ニ、日鐵ノ支配力ヲ以テ需給ヲ圓滑ナラシメルノガ、日鐵本來ノ使命トサレタノデアリマス、然ルニ會社設立後急激ナル鐵鋼ノ需要増加ヲ見タ爲ニ、遂ニ此使命ガ蹉跎ヲ來スコトニナリマシテ、是ニハ固ヨリ政府ノ責任ガアリマスガ、政府ハ已ムナク「アウトサイダー」ニ對スル熔鑄爐認可抑制ノ從來ノ方針ヲ棄テ、之ヲ許可シナケレバナラスヤウナ羽目ニ陥ツタノデアリマス、其後日鐵ハ段々實力ヲ充實スルノ道ナクシテ、需要ノ激増ニ對スル、即チ政府ト日鐵當事者トノ怠慢ト無能ニ依ツテ、現ニ見ル如ク「アウトサイダー」ニ對スル日鐵ノ支配力ハ減殺サレ、又指導ノ立場ハ弱メラレマシテ、日鐵中心主義ハ今日ニ於テ殆ド有名無實ノモノニナリ終ッテ居ルノデアリマス、然ルニ商工大臣ハ、先般議員ノ質問ニ答ヘラレテ、日鐵中心主義トハ日鐵獨占主義デハナク、本邦ノ鐵ノ自給自足ヲ圖ル爲ニハ、日鐵ヲ中心トシテ、日鐵以外ノ製鐵事業ヲ綜合的ニ考ヘテ對應策ヲ立テナケレバナラスト云フ意味ノ御答辯ヲ爲サレテ居ルノデアリマス、之ニ依ッテ見マスレバ、商工大臣ハ所謂日鐵中心主義ヲ持續セラル、御意圖デアアルコトハ明白デアリマス、併ナガラ今日ノ日鐵中心主義ハ、其名目ダケハ存スルケレドモ、殆ド其實ヲ失ッテ居ルコトハ只今申上ゲタ通りデアリマス、果シテサウデアルト致シマスレバ、商工大臣ハ固ヨリ此名目ダケノ日鐵中心主義ヲ保持サレル筈ハナイノデアリマスカラ、日鐵

本來ノ使命ニ鑑ミテ、名實相伴フ所ノ日鐵中心主義ニ復歸セシメラレル御意圖デアアルト思ヒマスガ、若シサウデアリマスルナラバ、先以テ日鐵自體ノ此製鐵業界ニ於ケル指導ノ立場ヲ立直シテ、其支配力ヲ強化スルト云フコトガ必要ノ條件デアルト思フ、商工大臣ハ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ具體化セントサレルノデアリマスルカ、御所見ヲ伺ヒタイ更ニ本法案ノ内容ニ進ンデ質疑ヲ致シタイト思ヒマス、本法案ハ現在ノ日鐵中心主義、及ビ從來ノ恩惠ノ助長主義ノ鐵國策ノミヲ以テシテハ、製鐵事業ノ健全ナル發達ヲ圖ルコトガ出來ナイト云フ趣旨カラシテ、新ニ國家的ノ統制、即チ政府ノ干渉、即チ官憲ノ指導監督ヲ加ヘントスルモノデアリマス、其内容トスル所ハ數項目アリマスルガ、私ハ此場合特ニ許可制度ト、公益及ビ軍事上ノ必要ニ依ル命令權ノコトニ付テ檢討致シタイト思ヒマス、許可制度ノコトニ付テハ、先程岡崎氏カラ縷々周密ナル御質問モアリマシタケレドモ、多少違ッタ方面カラ質疑ヲ致シタイト思ヒマス、從來製鐵企業ニ付キマシテハ、特殊ノ場合ノ外ハ一般ニ自由ニ放任サレテ居ッタノデアリマス、然ルニ本法案ニ依リマスレバ、例ヘバ免稅等ノ恩典ニ浴センガ爲ニ、熔鑄爐ノ建設ニ付キ認可ヲ受クルコト等ノコトハ、從來通りデアリマシテ、ソレ以外ニ一般ニ事業ノ新設擴張等ヲ爲ス場合ニ、原則トシテ政府ノ許可ヲ要スルコトニナルノデアリマス、此許可制ノ新設ト云フコトニ對シマシテハ、現

在ノ我國トシテ、生産力ノ擴充ヲ刻下ノ急務トスルト云フ見地カラシテ、此許可制ハ生産力ノ擴充ヲ阻碍スルモノデアルト云フ趣旨ヲ以テ、相當強硬ナル反對ガ出テ居ルノデアリマス、先達テ新聞紙ニモ現レマシタ通り、鐵鋼協議會ノ一部ト意見ト致シマシテ、サウ云フコトガ明白ニ述ベラレテ居ルノデアリマス、即チ鐵鋼ノ需要ノ激増ト云フコトハ、現在世界共通ノ顯著ナル事實デアアル、我國ニ於テモ非常時ニ於ケル鐵鋼需要ノ激増ニ對シテ、當業者ハ非常ナル熱意ヲ以テ事業ノ新設擴張ニ當ツテ居ル、此際外部ノ煩瑣ナル法規ニ依ツテ、斯業ノ改善ヲ企圖スルガ如キハ、却テ當業者ニ企業上ノ拘束感ト不安ヲ懷カシメ、延イテハ斯業發達ノ機運ヲ挫折シ、本立法ノ意圖ニ逆行スルノ虞ガアルト云フ趣旨デアリマス、至極御尤ノ意見ト思ハレマスガ、鐵鋼商工大臣ガ本議會ニ於テ説明セラレタ所ニ依リマスルト、先般別ニ提案サレテ居リマスル鐵鋼稅引下法案ハ、二箇年ノ期限ガ附サレテ居リマスルガ、商工大臣ハ二箇年後ノ昭和十四年頃ニハ、今回廢止セントシテ居ル鐵鋼關稅ヲ復活シテモ、鐵鋼ノ需給ニ支障ハナイ、又四年後ノ昭和十六年頃ニナレバ、内地ノ需要高ハ鋼材ガ六百二十萬噸、鉄鐵ガ五百九十萬噸ニモナルガ、之ニ對シテハ現在既ニ著々ト具體化サレテ居ル所ノ、日鐵及ビ「アウトサイダー」ノ鉄鋼一貫設備ガ完成スルノデ、十分ニ間ニ合フノデアアル、ソレニ滿洲鉄ヤ内地ノ屑鐵ヲ以テ補ヘバ、格

別供給ニ不足ヲ來スコトハアルマイト云フ、御見解ヲ御示シニナツタノデアリマス、尤モ商工大臣ハ又別ノ機會ニ於キマシテ、製鐵事業ノ如キ平時ノ需要ノ重大ナルモノニ對シテハ、單ニ自給自足ヲ以テ満足セズ、審ロ自給他足ノ域ニ達セナクテハナラス、即チ輸出ヲ一ツノ「タンク」ノ如クニ考ヘテ、此「タンク」ノ調節力ニ依ツテ、影響ヲ少クシテ置クヤウニ考ヘナケレバナラス、現在デハマダ自給自足モ出來ナイ狀況デア

ルガ、是ハドウシテモ世界ノ市場ニ進出シテ、此反動時期ニ對シテ、其輸出量ナドヲ考ヘテ調節シテ行クノガ至當デハナイカト考ヘルト、斯様ニ御述ニナツテ居ルノデアリマス、此點カラ考ヘマスレバ、商工大臣ハ單純ニ國內ノ需要ダケ充シテ置ケバ宜イ、需要ニ對スル供給ダケ不足ヲ來サナケレバ、ソレデ満足デアルト云フ御意圖デハナイ、益、生産設備ヲ擴充シテ、餘裕ヲ持タナケレバナラスト考ヘテ居ラルヤウニ理解サレルノデアリマス、又私共ト致シマシテモ、現在ノ國際情勢ノ下ニ於テハ、鐵ガ不足スルト云フコトガ何ヨリノ禁物、絶エズ生産力ニモ、原料品ニモ、製品ニモ餘裕ヲ持タセルコトガ必要デアアル、相當ノ量ガ溜ツデモ、是ハ腐ルモノデヤナイ、何時デモ間ニ合フヤウニ、銑鐵デモ、製品デモ貯ヘテ置カナケレバナラス、其負擔ハソレハ何人ガスルカト言ヘバ、サウ云フ負擔ヲサセル爲ニ、國策會社タル日鐵ヲ拵ヘテアルノデアリマス、斯ノ如ク生産ノ擴充ヲ必要

トスルナラバ、本法案ノ許可制ト云フモノハ、明ニ設備ノ新設擴張等ニハ害ニナルモノデアリマスルカラシテ、商工大臣ノ御所見、又吾々ノ意見トハ矛盾スルカノ如クニ考ヘラレルノデアリマスガ、商工大臣ハ如何ニ御考ニナルノデアリマスカ、此點ヲ伺ヒタイト思ヒマス

尤モ此許可制ニ付テハ、商工大臣ノ御説明ヲ聞ケバ、日本ニ於ケル屑鐵ノ使用、而モ屑鐵ハ米國ニ依存シテ居ルト云フヤウナコトデ、屑鐵ノ使用ヲ出來ルダケ節約シナケレバナラスト云フ御趣旨デ、原料政策カラ考慮サレタコトノヤウニ思ハレル、是ハ御尤ノコトデアアルガ、私ハ此許可制ノモウ一ツノ狙ヒ所ハ、群小企業ノ濫設ヲ防止スル爲メデハナイカト思フノデアリマス、彼ノ歐洲大戰當時非常ナル好況ニ乗ジテ、到處ニ製鐵所ガ濫設サレタ、サウシテ隨所ニ成金ガ簇出致シタコトハ御承知ノ通り、然ルニ戰後ノ不況ニ際會致シマスルト、一溜リモナク潰レテシマツテ、獨リ當業者ガ多大ノ損害ヲ受ケタノミナラズ、國家ニモ非常ナ迷惑ヲ掛ケテ居ルノデアリマス、是ハ實ニ我國トシテハ苦イ經驗デアアル、故ニ軍需景氣ハ今後尙ホ相當續クカモ知レマセヌケレドモ、餘リニ此好況ニ乗ジテ、群小ノ企業者、特ニ製鐵事業ニハ先程申シマスルヤウニ、相當ノ巨額ノ固定資本ヲ要スル故、之ヲ無理ナ工夫ヲシテ、餘リ將來ノ見透シモナク、唯好況ニ乗ジテ群小企業家ガ設備ヲ濫設スルヤウナコトニナレバ、反動期ニ

際シテ大變ナコトニナリハシナイカト云フコトノ御心配ヲナサレテ居ルト云フコトモ、私ハ當然ノコトデアルト思フ、現ニ先頃カラノ議會ニ於キマシテモ、サウ云フ反動時期ニ對シテ、政府ハ如何ナル對策ヲ持ツテ居ルカ云フコトノ御質疑等モアツタヤウニ承知致シテ居ルノデアリマス、唯此群小企業家ニ對シテ、今後餘リニ無暗ニ仕事ヲ起サセナイヤウニ、擴張シナイヤウニサセルト云フコトモ、是ハ當然御考ニナツテ然ルベキコトダト思フノデアリマスルガ、サウ致シマス

ト云フコト、此許可制ト云フモノハ、生産能力ヲ擴充シヨウト云フモノニ對シテハ、障礙ニナル、又濫立ヲ防グ意味ニ於テハ、是ガ役立ツモノデアリマス、サウシマスルト云フト、此許可制ト云フモノノ可否當否ハ、結局我國ト致シマシテ生産力ノ擴充ガ急務デアアルカ、濫設ヲ防止スルト云フコトガ只今大切ナコトデアアルカ、ドチラニ重點ヲ置カナケレバナラスト云フコトニ依ツテ決定サレナケレバナラスト思フ「ヒヤヒヤ」併ナガラ屑鐵使用ノ問題、是ハ商工大臣ノ仰セノ通りデアリマスルガ、之ニ付キマシテハ一方ニ於テ日鐵初メ大キナ資本家ニ依ツテ、銑鋼一貫作業ガドン／＼進メラレルト云フコトニナツテ、屑鐵ヲ使用シナクテモ銑鐵ダケ間ニ合フヤウニオヤラセニナレバ、是モ出來ナイコトハナイノデアリマス、ドウシテモ許可制ヲ布カナケレバ、屑鐵使用ヲ節約スルコトハ絕對ニ出來ナイト云フ筋合ノモノデモナカラウト私ハ思ヒマス

○議長(富田幸次郎君) 田尻君ニ注意致シマス、協定ノ制限時間ガ既ニ超過致シマシタ

○田尻生五君(續) ソレデハ極メテ簡單ニヤリマス——次ニ公益上及ビ軍事上ノ必要ニ基ク政府ノ命令權デアリマスガ、是ハ固ヨリ現在ノ鐵鋼界ノ混亂等ニ備ヘル爲ニ設ケラレタコトデアアルト思ヒマスケレドモ、是ハ一方ニ於キマシテ商工大臣ガ抱懷セラレテ居ル意見ノヤウニ、日鐵ヲ中心ニシテ而モ之ヲ強化シテ行クコトニナレバ、今日マデノヤウナヘマサヘヤラナケレバ、自治的ニ旨クヤツテ行ケルノデハナイカ、大體今回ノ混亂ニ依ツテ、日鐵初メ當業者モ非常ニ反省セラレタヤウデアリマス、事實ニ於テ色々自治的ニ國民ニ迷惑ヲ掛ケナイヤウナ方法デヤツテ行カウト云フコトハ具體的ニモ計畫ガ進ンデ來テ居ルヤウニ聞及ンデ居ルノデアリマス、必シモ此法律ニ依ツテ、命令ノ力ニ依ツテ公益ヲ維持シナクテモ、暫ク自治的方法ニ任セテ差支ナイト私ハ思フ、又殊ニ此軍事上ノ必要ニ依ル命令權デアリマスガ、是ハ日本製鐵會社法ニモ規定シテアル、強ヒテ民間會社ニ之ヲ命令シナクテモ、私ハ日鐵會社ニヤラセルノガ當然ダト思フ、殊ニ日鐵會社ハ斯ウ云フ軍事上ノ必要ニ依ツテ命令ヲ受ケタ場合ニハ、其損失ニ對シテハ、政府ニ對スル配當金カラ其負擔ヲ差引クヤウニナツテ居ル、然ルニ之ニ對シマシテハ本法案ニ依リマス、民間會社ニサウ云フ命令

フシタ場合デモ、此補償ヲスルト云フヤウナ明文ガ本法案ニハナイノデアリマス、却テ之ニ違反シタ場合ニ三千圓以下ノ罰金ニ處スルト云フコトガ、麗々シク掲ゲラレテ居ル、極メテ不合理ナル仕組デアルト思フノデアリマス

最後ニ私ハ許可トカ認可トカノ詮議機關ノコトニ付テ伺ヒタイ、現在デモ熔鑛爐ノ認可ニ一年以上モ掛ツタ云フコトノ苦情ガ非常ニアルノデアリマス、是ハ先程申シマシタヤウニ、從來熔鑛爐ニ對スル認可ヲ抑制シテ居ツタ場合ハ別ト致シマシテ、一般ニ認可スルト云フ方針ヲ執ラレタ後モ、事務的詮議ノ爲ニ非常ナ時間ヲ要シテ居ル、是ハ當業者トシテハ非常ナル迷惑ヲ感ジテ居ルノデアリマス、兎角此許可トカ認可トカ云フヤウナ權限ヲ與ヘラレマスルト云フト、官憲ト云フモノハ非常ナ優越感ヲ感ズルト見エマシテ、何カ自分デ人民ニ對シテ恩惠ヲ施スノダト云フヤウナ誇リヲ持ツカノヤウニ思ハレルノデアリマス、殊ニ官僚獨善ノ弊害ノ甚シイ今日ニ於テ、此點ハ餘程重大ニ考ヘナケレバナラスト思フ(拍手)尤モ許可制ニ致シマシテモ、命令權ニ致シマシテモ、今回ハ製鐵事業委員會ト云フモノヲ拵ヘテ、ソレノ議ニ付スルト云フコトニハナツテ居リマス、併ナガラ此種ノ委員會ガ果シテ幾許ノ實際機能ヲ持ツテ居ルカト云フコトハ、多言ヲ要セズ澤山ノ事例ニ依ッテ明白デアリマス、斯様ナ不都合ナコトハ、官廳ト致シマシテ、十分ナル詮議機關

ガ設ケラレテ居ツテモ、專門家ガ配置サレテ居ツテモ中々旨ク行カナイ、況ヤ詮議機關ニ手不足ヲ感ジテ居ルト云フヤウナ場合ニハ、如何ニ事務的ニ進捗サセヨウト思ヒマシテモ、是ガ中々旨ク行カナイ、商工省ノ鑛山局ニハ、ズット以前ニハ製鐵課ト云フモノガアリマシタガ、今日ハソレガ廢止セラレテ居ル、サウシテ現在デハ鑛政課ノ中ニ四五人ノ事務官ト技師ガ居ラレマス、サウシテ是等ノ人々ガ課長ノ下ニ日鐵ノコト、或ハ「アウトサイダー」ノ熔鑛爐ノ認可問題、其他鐵ニ關スル一切ノコトヲ御取扱ニナツテ居ル、是等ノ人々ハ固ヨリ精勵恪勤デハアリマセウケレドモ、今日デモ先程申シマスルヤウニ、認可ニ非常ニ手間ヲ取ツテ、事務ノ滯滞ヲ來サシメ居ル、若シモ此法案ガ實施サレルト致シマスレバ、許可事項、認可事項、届出、其他非常ナル事務ノ幅濫ヲ來スノデアリマシテ、之ニ對シテハ餘程ノ陣容ヲ以テ臨マナケレバナラスト思フ、先般商工大臣ハ、燃料政策ハ鐵政策ト甲乙ナイ位ニ重要性ガアル故ニ、其點ニ重大ナル關心ヲ持ツテ燃料局ヲ設置シヨウトシテ居ル、斯ウ云フコトヲ仰セニ

ナツテ居ル、燃料問題ト鐵ノ問題ハ甲乙ナシ、然ルニ此燃料ニ付テハ、從來ノ鑛山局ノ燃料課ヲ一躍外局ニ昇格サセヨウトシテ居ル、果シテ然リトスレバ、此權衡上カラ申シマシテモ、鐵ノ問題ノ爲ニ殊ニ本法案ニ依ッテ殖エマスル所ノ事務ヲ處理スル爲ニ、如何ナル陣容ヲ設ケンツサレルノデアリマスルカ、私ハ若シ具體案ガアレバ之ヲ

承リタイト思フ、豫算其他ノ方面ニ於テ、本法案實施ニ伴フ機關ノ擴充トカ増員ノコトヲ承知シテ居ナイノデアリマス、其點ニ付テ若シ具體案ヲ御持合セガアレバ承知致シタイト思ヒマス

尙ホ此外ニモ原料問題、或ハ日滿統制問題等、色々重要ナコトガアリマスルケレドモ、時間ノ制限モアリマスル爲ニ、私ハ是デ以テ質問ヲ打切りマス、尙ホ私ハ時間ノ節約上再質問ハ致シマセスカラ、商工大臣モ其御積リデ極メテ簡潔ニ、又要領ヨク御答辯アランコトヲ願ツテ置キマス(拍手)

(國務大臣伍堂卓雄君登壇)

○國務大臣(伍堂卓雄君) 簡單ニ御答致シマス、第一ハ製鐵合同ハ失敗デナカッタカト云フ御尋デアリマスガ、是ハ豫算總會デ加藤君ノ質問ニ御答申シマシタ通り、私ハ失敗デハナカッタト思ヒマス、若シ合同シテ居ナカッタナラバ、今日ヨリモ飢饉ノ程度ガ激シク、今日ヨリモ生産費ガ高クナツテ居タンデヤナイカト考ヘルノデアリマス、豐富低廉ト云フコトニ付テ申シマシタガ、其當時ノ數字、計算ニ於キマシテ、「スクラップ」ノ値段ガ百十圓、二十圓モスルト云フコトハ、誰モ豫想シテ居ナカッタト思フノデアリマス、サウ云フ意味ニ於キマシテ、必シモ其當時ヨリモ少シモ高クナラスト云フコトハ言ヒ得ナカッタ譯デアリマス、是ハモウ比較的ノ問題ダラウト私ハ考ヘルノデアリマス、條件ガ同ジデアレバト云フ意味ト考ヘルノデアリマス、要スルニ基礎條件

ノ變動ガ餘リニ激シカッタガ爲ニ、今日國民ニ迷惑ヲ掛ケテ居ルヤウナ次第デアルト思ヒマス、鐵飢饉ハ日鐵及ビ政府ノ怠慢ノ結果デハナイカト云フ御話デアリマスガ、是ハ只今御答申シタコトニ依ッテ御諒解ヲ願ヒタイト思ヒマス、日鐵ヲ中心トシテ「アウト・サイダー」ヲ綜合シテ、我國ノ鐵鋼計畫ヲ立テヨウト申シマシタコトハ、日鐵ノミニ偏重セズ、「アウト・サイダー」モ同様ニ尊重シテ、將來ノ計畫ヲ立テルト云フコトヲ申シタノデアリマス、許可制ニ關係シマシテハ、先程岡崎君ニ御答申シマシタ通りデアリマシテ、自給自足ニ對シテノミナラズ、自給他足ヲスル必要モ認メテ居ルノデアリマスルガ、何分重要ナ原料タル「スクラップ」竝ニ鑛石ガ外國依存デアリマスカラ、是ノ爭奪ニ依ッテ共倒レニナルヤウナ事ヲシタクナイ爲ニ、許可制ニ致シタノデアリマス、尙ホ其他ノ原因トシマシテ、御注意ガアリマシタコトモ、一ツノ重要ナ原因デアリマス、即チ反動時期ニ於キマシテ、是ガ對策ト云フコトモ考ヘナケレバナラスト思フノデアリマス、公益上ノ爲メ又ハ軍事上ノ爲ニ必要ナ場合ノ命令監督ニ對シマシテハ、先程岡崎君ニ御答申シマシタ通りデアリマス、軍事上ノ見地カラ必要ナ場合ニハ、日鐵ダケニヤラセトラ宜イデアラウ、斯ウ云フ御意見デゴザイマスガ、勿論ソレハ主ト致シマスルケレドモ、日鐵ノミデ足りナイ場合ヲ考ヘナケレバナリマセスカラ、法トシテハヤハリ「アウト・サイダー」ヲ含

メマス、其場合ニ政府ハ其損失ヲ補償シナケレバナラスコトハ、當然デアルト考ヘテ居ルノデアリマス、最後ニ鑛山局ノ陣容ガ手薄デアルト云フコトデアリマシタ、私モ此點ニ付テハ將來考慮致シタイト思ヒマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 田尻君、宜シウゴザイマスカ

○田尻生五君 演壇デ申シマシタヤウニ、再質問ハ致シマセス

○議長(富田幸次郎君) 龜井貫一郎君

(龜井貫一郎君登壇)

○龜井貫一郎君 本案ニ付テ商工大臣ニ御尋ヲ致シマス、御承知ノ通り現在ノ我國ノ中心問題ガ龐大ナル軍事豫算デアリ、軍需工業生産力ノ擴大デアリ、其基礎ナルモノガ所謂製鐵生産力ノ擴大ニ在ルノデアリマシテ、此製鐵生産力ノ擴大ヲ如何ナル方法デアナタガナサルカト云フコトガ、爲替ノ問題トナリ、物價ノ問題ト相成リ、内側ニハ一般ノ勞働強化ノ問題ト關係ヲ致シマスルノデ、本法案ハ、本議會ニ於キマスル産業立法ト致シマテハ、最も重要ナモノノ一ツト申スコトヲ妨ゲナイト信ズルノデアリマス、併ナガラ其細カイ點ニ付キマシテハ、重大ナル性質ハ持ッテ居リマスルガ、本會議ノ質疑ニ適セスト存ジマスルカラ、何レ委員會ニ於キマシテ、大藏大臣、陸軍大臣、商工大臣、御同列デ伺ヒタイト存ジマス、本日ハ唯本會議ニ於キマシテ、特ニ議場ヲ通ジテ、明瞭ニ伺ッテ置キタイ四ツ

ノ點ニ關シマシテ、商工大臣カラ明瞭ナル御答辯ヲ願ッテ置キタイト思ヒマス

第一ハ、所謂將來ノ我國ノ鋼材ノ需要ノ問題デアリマス、私個人ト致シマスルナラバ、一國ノ産業ノ程度ハ、大體其鉄鐵生産能力ヲ以テ推定ガ出來マスルシ、一國ノ文化ハ鋼材人口一人當リノ消費量ヲ以テ推定出來ルト云フ考ヲ持ッテ居リマス、是ハ大體ニ於テ認メラレテ居ル考デアルト信ジマスルガ、商工大臣ガ豫算委員會、關稅定率法改正案委員會、乃至ハ本會議ニ於テノ鋼材需要ニ關スル御見透シハ、大體ニ於テ前日鐵技監野田サンノ所謂野田需要曲線十年倍加ニ基キ、更に最近大正十三年ヨリ昭和四年、五年、六年ノ不況期ヲ除イテ、昭和三年カラ昭和十年ニ至ル需要ノ線ヲ結バレマシタル、所謂十年三倍加ノ需要曲線ヲ加ヘテ御修正ニ相成リ、昭和十六年三月六百萬噸ノ大體ノ見透シヲ以テ、諸般ノ計畫ヲ御進メニ相成ッテ居ルヤウニ吾々ハ拜察ヲ致シテ居ルノデアリマス、併ナガラ本日ハ時間ガアリマセスカラ省略致シマスルガ、此需要曲線ナルモノハ、根本的ニ申シマスルナラバ一箇ノ表ニ過ギナイ、一ツノ「テール」ニ過ギナイノデアリマス、我國ノ産業ノ資本主義的ノ發展ノ上同下向ノ表面的ナ指標ヲ迎ッテ居ッテハ駄目デアアル、其基礎的條件カラ之ヲ見テ行カナケレバナラスモノト信ジテ居リマス、此需要曲線ナルモノハ、失禮ナ申分デアリマスルケレドモ、一箇ノ製鐵産業ノ「エンジンヤ」トシテノ御

考ニ止マルモノデアルト吾々ハ推察ヲ致シマス、假ニ我國ノ文化ヲ、將來國民生活ノ安定、ソレニ向ッテノ諸般ノ政策ノ推進、我國産業構成ノ根本的變化、殊ニ我國ノ産業ノ構成ヲ、輸出工業ニ於テ輕工業カラ機械生産品ニ漸次變ヘナケレバナライト云フ、目前ノ産業構成ノ變化ヲ遂行シナケレバナライト云フ必要ヲモ併セ考ヘマスルナラバ、大體我國ノ鋼鐵文化ヲ佛蘭西ノ水準ニ置クト致シマシテモ、昭和十六年度ニ於テハ、左様ナル所ノ推算ハ得ラレナイト信ズルノデアリマス、此點ニ關シマシテ明確ナル御答辯ヲ煩ハシタイト思ヒマス、議論ハ他日ニ留保致シマスルガ、一部ニ過少「スケール」デアルト云フ評ノアルコトハ御聞キニナツタコトト思ヒマス、私共ハ其論者ノ方法論トハ違ヒマスルガ、ヤハリ一箇ノ過少「スケール」デアルト信ジテ居ルノデアリマシテ、此點ニ關シマシテ、其御見透シヲ吾々ハ他日御訂正ニ相成ル必要ガアルコトヲ確言致シテ置ク者デアリマス

第二ニ御尋ヲ致シマスル點ハ、製鐵事業法ト云フモノガ、過去ニ於ケル製鐵産業ノ助長行政ヨリ、漸次監督指導行政ニ轉入セントスル傾向ハ、是ハ賀スベキ傾向デアルト申上ゲマス、併ナガラ其助長シ乃至ハ指導セントナサル所ノ製鐵産業ノ全般ニ互リマシテ、果シテ一ツノ御計畫ヲ御持チニナッテ居ラシヤルヤ否ヤヲ吾々ハ疑フ者デアリマス、ソレヲハッキリ伺ヒタイノデアリマス、製鐵事業法ヲ繰披イテ見マスルナラ

バ、所謂法文ハゴザイマスルガ、其内部ニ潛ンデ居リマスル所ノ製鐵國策ナルモノヲ窺フコトハ出來ナイノデアリマス、或ハ鋼材ノ飢饉ト云ヒ、或ハ鉄鐵ノ飢饉トハ申シマスルケレドモ、其根本ガ「ズク」ノ飢饉デアリス、而シテ我國ノ鋼材製産産業ト云フモノガ、所謂外國ノ「スクラップ」ニ依存ヲ致シテ居ル、此「スクラップ」ガ外國ノ軍擴ノ進行、乃至ハ「スクラップ」ソレ自體ガ生産品デナイト云フ關係、我國ニ於ケル回收率ガ少イト云フ點、竝ニ我國ニ於キマシテ、特ニ製鐵工業ガ他國ノ增加率ニ比シマシテ著大ニ躍進シナケレバナライ必然、是等ヲ併セ考ヘマスルナラバ、一切ノ鋼材生産モ、鋼塊生産モ、或ハ鉄鐵生産モ、一切ヲ打ッテ一丸トシタル、單ナル租稅免除ノ御方針ダケデハ、固ヨリ相成ラスト思フノデアリマス、問題ハ所謂鉄鐵生産ニアリマス、是ハ熔鑄爐ヲ擴大スレバ宜イノデゴザイマス、其中デモ將來特ニ鑛石ト「スクラップ」ト、ドツチニ我國ガ先ヅ依存ヲ止メナケレバナラスカト言ヘバ、是ハ當然「スクラップ」デアリマス、然ラバ少クトモ鉄鋼一貫作業ノ工業、其中所謂迴轉式ノ平爐作業ノ如キ、或ハ鹽基性ノ轉爐作業、是等ノモノヲ普通ノ日本鋼管其他ノ鋼管、外輪製板小形線材薄板、或ハ鑄鋼、是等ノ完成鋼材生産品ト別ニサレテ、寧ロ吾々一家ノ私見ト致シマシテハ、是等ハ非營利的ナ計畫經濟デオヤリニナルコトヲ必要ナリト信ジテ居リマス

ガ、今日議論ハ致シマセス、今日ソレ等ノモノハ別ニシ、鋼材生産、完成鋼材生産品ノ産業ハ別ニシ、又原料鋼材、鋼塊生産ノ産別ハ之ヲ一團トシ、少クトモソコニ二箇ノ方針、違タ立場ニ於テノ統制乃至計畫ノ御方針相成ラネバナラスト信ズルノデアリマス、之ヲ徹底スルヤウニ申上ゲルコトハ長クナリマスルガ、専門家デアラセラレル商工大臣ハ、是ダケデ御諒承ヲ得テ居ルト思ヒマス

ソレカラモウ一ツハ、此中ニゴザイマスル所ノ副生物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定メ、且ツ其副生物ニ付テノ一定ノ獎勵ヲ與ヘラレルコトニナッテ居ルノデアリマスルガ、近時ノ製鐵工業ガ——イヤ、吾々ハ製鐵工業ト云フ言葉ヲ是カラ使フコトハ、最早世上誤リヲ生ズルト思ヒマスノデ、使ヒタクナイノデアリマス、鉄鋼一貫作業ノ如キ、製鐵工業乃至ハ完成鋼材工業、是等ヲ分ケテ參リマセストイケヌト思ヒマス、製鐵工業ト云フ言葉ヲ用ヒマス、原料タル鐵工業モ、或ハ一ツノ完成品タル鋼材工業モ、一緒ニ製鐵業ト論ズルコトニナリマシテ、是ハ産業政策ノ上ニ甚シク混亂ヲ招キマスカラ、使ヒタクナイノデアリマス、ダガ何レニ致シマシテモ、廣イ意味ニ於ケル製鐵産業中、狭イ意味ノ鉄鋼一貫作業ニ依ルモノ、或ハ所謂製鐵鋼工業ニ依ルモノハ、鐵基礎工業デアルト云フ根本ノ理由ハ御承知ノ通り、是ハ化學工業ヲ合併セ考ヘマシタ所

ノ立地的ナ、即チ産業ノ「シユタンド・オルト」ニ、各工業ヲ多邊のニ結合セルト云フ、立地的ナ計畫經濟トシテ、其何レモガ副生物デモナイ、本當ノ生産品デアル所ノ多邊的計畫經濟ニ依リマシテ、鐵ノ「コスト」ヲ引下ゲテ行ク所ニ、近代基礎工業トシテノ製鐵工業ノ意味ガアルト申サナケレバナラスノデアリマス、斯ク考ヘテ參リマス、立地的ナ計畫經濟ノ見地、及ビ製鐵ノ中デノ一貫作業ニ依ル製鐵鋼工業ノ他ノ鋼材工業ニ對スル關係、是等ヲ併セ考ヘ來リマスルナラバ、製鐵中、殊ニ原料材料ノ生産ニ關シマスル部分ハ、吾々ハ之ヲ非營利的計畫經濟ニシロト云フ議論ヲ持チマスルガ、政府ハ少クトモ是ダケハ別箇ノ基礎的ナ御計畫デ御考ニ相成ラネバナラスト思フノデアリマス、是ガ第二點デアリマス

第三點ハ二十二條ノ問題デアリマスルガ、政府ハ此監督ヲドノ程度マデ爲サル御積リデゴザイマス、之ニ關シマシテ商工省ノ寧ロ御注意ヲ促シタイノデアリマス、陸軍省ニ於キマシテハ、軍需「インフレ」ノ偏在ヲ一般化スルト云フ、斯ウ云フ風ナ見地カラ昭和八年デアリマシタカ、所謂財務及ビ原價調査ニ關スル規定ヲ公布サレ、昭和九年一月陸達一號ヲ以テ軍需工業ノ過金配當ノ中止デアルトカ、經營ノ合理化乃至ハ適切ナル工程ノ管理利益統制、ソレ等ニ付テモ、私共カラ言フナラバ甚ダ不十分デアール、不十分デアリマスルガ、サウ云フ統制ヲシテ居ラレル、商工省ハ此點ヲ——本議

場ニ於キマシテ幾度カ同僚カラ議論ガアツタノデアリマスルガ、所謂重要産業統制法ノ運用宜シキヲ得ズ、其程度ノ監督スラ出來テ居ラスノデアリマス、商工省ハ何處マデ考ヘテ居ラル、カ、商工大臣ハ鉄鐵ニ付テハ「コスト」ハ大體分ル、併シ鋼材ニ付テハ、殊ニ特殊鋼材ニ付テハ、製品簡別ニ事情ガアルカラ、中々是ハ分ラヌト言ハレルノデアリマス、將來ノ合理化ヲ中心トシ、社會化ニ進マナケレバナライ現在ノ製鐵産業ノ事情ニ於キマシテハ、監督下ニ於ケル所ノ會社ノ「コスト」ガ分ラナイヤウデハ駄目ナノデアール、隨ヒマシテ此二十二條ト云フモノハ、更ニ一步進メラレマシテ、根本的ニ所謂資本ノ過度ノ固定デアルトカ、或ハ流動資金ノ不足、高利借入ノ點ナキヤ、或ハ固定資本ノ銷却如何、水割死滅資本ノ銷却如何、無形財産ノ適切ナル評價、或ハ適切ナル工程ノ管理、進ンデハ利益ノ統制、即チ配當率ノ制限、社内ニ於キマスル労働者其他ノ爲ノ積立金、繰越金、銷却基金、研究基金、是等ヲ嚴重ニ監督スルコトニ依リマシテ、當然利益統制ニマデ御發展ニ相成ラネバナラスト存ズルノデアリマス、軍需工業三十一社ニ關シ、陸軍省ノ報告ニ依レバ、全體ノ配當平均ガ一割一分デアリマスルガ、ソレハ完成軍需品工業デゴザイマシテ、今日ノ軍需「インフレ」ニ依リマシテ暴利ヲ得テ居リマスモノハ、明瞭ニ申上ゲマスガ、日本鋼管デアルトカ、所謂原料工業ニ屬シマスル、愈、以テ是カラ御取締ニナラウト云フ此會社等ガ、即チ重大ナル要素デアリマス、ソコマデ含マレルヤ否ヤ明瞭ニ伺ヒタイノデアリマス

第四點ハ、此製鐵産業ニ於ケル労働者ノ労働時間、或ハ労働強化ノ問題ニ付デアリマスルガ、是ハ委員會ニ於テ詳細御意見ヲ伺ヒタイト存ジマス、併ナガラヤハリ二十二條ニ於キマスル監督ハ、現下ノ労働問題ガ所謂社會問題ニアラズシテ、労働管理ノ問題ト相成リ、一ツノ經營ノ問題ト相成リ、一ツノ生産力擴充ノ爲ヘノ真カラノ協力ヲ求メル所ノ産業ノ經營ノ問題ト、既ニ轉嫁シテ居リマスル今日ニ於キマシテ、當然政府ノ監督行政ハ是等ノ製鐵工業會社ニ於キマスル所ノ労働者ノ人格、労働時間、技術ノ保持、或ハ熟練工ノ養成等ノ將來ノ製鐵工業ノ永遠性ヲ確保スル爲ノ労働助長政策ニ向ハナケレバ相成ラスモノト存ズルノデアリマス、此四點ニ付キマシテ御尋ヲ致シマス(拍手)

(國務大臣伍堂卓雄君登壇)
○國務大臣(伍堂卓雄君) 龜井君ノ御質問ニ御答シマス、鐵竝ニ鋼ノ將來ノ需要ノ見透シニ對シマシテハ、軍部方面トモ十分ニ打合セラ致シマシテ、將來ノ準戰時標準ト申シマス、非常時等ノ場合ヲ考慮ニ置キマシテ、遺憾ナキヲ期シタイト思ヒマス、尙ホ御話ニナリマシタ將來ノ需要豫想鉄等ニ對シマシテハ、過去ニ於ケル最モ好況ナ時代ヲ標準ト致シマシテ行ヒマシタノデ、

今後五箇年後ニハ六百萬噸乃至八百萬噸ノ
需要量ヲ見込シテ居リマス外ニ、貧鐵處理、
竝ニ砂鐵ノ處理、其他特別ノ方法ヲ以テ行
ハントスル製鐵事業ハ、其中ニ含マレテ居
ナイノデアリマス、第二ノ製鐵ニ關スル政
策ニ付キマシテハ、詳細ハ委員會ニ讓ルコ
トト致シタイト思ヒマスガ、私ハ當面政
策ト致シマシテハ、今日ノ鐵飢饉ヲ一日モ
早ク救済スルコトヲ考ヘル爲ニ、懸案ニナッ
テ居リマス生産設備ノ促進ヲ圖リ、尙ホ多
少高クテモ、ソレヲ忍ンデ外國カラノ鉄鐵
其他ノ原料ヲ入レルコトヲ忍バナケレバナ
ラスト考ヘルノデアリマスルガ、根本政策
トシマシテハ、ドウシテモ鑛石竝ニ「スク
ラップ」カラ自給シ得ル域ニ進マナケレバナ
ラナイト思ヒマス、是ハ相當長期ヲ要スル
ト思ヒマスケレドモ、一步デモ進ンデ行ク
コトガ、今日ノ急務デアラウト考ヘルノデ
アリマス、尙ホ轉爐其他ノ特殊ノ設備ニ付
キマシテモ、考慮ヲ致シタイト思ヒマス、
副產物工業ヲ別箇ノ取扱ヲシトラバ宜イデ
ヤナイカト云フ御意見ニ對シマシテハ、是
ハ現狀ガ最モ良イト考ヘルノデアリマス、
三番目ニ第二十二條ノ實行標準ニ付テ御質
問ガアリマシタガ、是ガ活用ハ要スルニ公
益上ノ見地カラ、又軍事上ノ見地カラ、必
要ナ場合ニ行フノデアリマシテ、何處マデ
モ今日ノ程度ハ自主的ニ統制其他ヲ行ハシ
メントスルノデアリマス、已ムヲ得ヌ場合
ニ行ヒ、又其方法等ニ付テモ、製鐵事業委
員會ノ審議ノ結果行フ積リデアリマス、勞

働者ノ育成等ニ付キマシテハ、御意見ヲ謹
ンデ尊重致シマス

（龜井貫一郎君登壇）

○龜井貫一郎君 御答辯ヲ拜聴致シマシタ
ガ、副產物ノ處理ニ付テノ私ノ所論ヲ、商工
大臣ハ誤解ヲシテ居ラシヤルト思ヒマス、別
箇ニ處理シロト申上ゲタノデハナクシテ、ソ
レヲ一緒ニシナケレバイケナイ、ソレヲ大規
模ノ計畫經濟デナケレバイケナイト云フコ
トヲ申上ゲタ、隨ヒマシテ一貫製鉄鋼工業、即
チ酸性平爐工業ニ供給スベキ鋼屑、ソレ等ヲ
造ル所ノ所謂鹽基性轉爐、或ハ廻轉式ノ平
爐ニ依ル所ノ工業、是等ト所謂化學工業ヲ
一緒ニシタ、大規模ナル、國家的ナル規模
ニ於ケル所ノ計畫經濟ノ必要ヲ伺ツタノデ
アリマスガ、ソレヲ御了解ニ相成ラナイデ、
別箇ニスルト云フ風ニ御聽キニナリマシタ
ノハ御聞達ヒデアリマス、併シ是ハ細カイ
問題ニナリマスカラ委員會ニ讓リマシテ、
其際御意見ヲ伺ヒマス、唯重大ナル一點ハ、
今日日本ノ鐵ノ——鋼鐵ノ將來ノ需要ハ、軍
部トモ相談シタシタカカラ、ソレダカラ是デ
宜イト云フ話デスガ、現在ノ軍部ハ所謂狹
義國防資本主義ノ埒内ニ於ケル、生産力擴
大ノ線デ進ンデ居ルノデアリマシテ、其計
畫ガ他日崩壞ヲスルコトハ、即チ軍備充實
五箇年計畫ノ菱形ガ、昭和十五年、十六年、
此邊ニナツテ實行スベカラザルコトハ、既ニ
當時カラ吾々ガ指摘シテ居ル所デアリマス、
ト云フノハ根本的ニ日本ノ鐵事情ニ付キマ
シテ、商工大臣ト吾々ノ間ニ喰違ガアル、

ソレハ何カト申シマスルナラバ、私共ハ鐵
鋼政策ヲ中心ニ致シマシテ、日本產業ガ重大
ナル轉換期ニ立ツト云フ認識ニ立ツテ居ル、ト
云フノハ何デアアルカト言ヘバ、明治ノ初ニ
我國ノ製鐵工業ガ始ツタ事情ハ、御承知ノ通
リデアリマス、奴隸ノ如ク使ハレテ居ル農
村ノ人口ト、工業資本ニ轉化シ得ザル所ノ
商業資本ノ日本デアッタ、而シテ列國ノ帝國
主義カラ我國ノ獨立ヲ守ラナケレバナラス
所カラ、明治五年ニ徵兵令トナリマシテ、
我國ノ軍事機構ヲ作ツタ、併シ「スナイドル」
銃ヤ「モーゼル」銃デハ鐵砲ガ揃ハナイ、大
砲ガ揃ハナイ、ソコデ政府自ラガ水戸様ノ
水道橋ノ鐵砲火藥修理工場ヲ御取上ゲニナッ
タノガ東京ノ砲兵工廠デアアル、大阪ノ砲兵
工廠モ幕府ノ長崎製鐵所ヲ取上ゲタモノデ
アル、島津様ノ鹿兒島ノ造船所ヲ取上ゲタ
ノガ吳ノ海軍工廠デアアル、浦賀ノ幕府ノ造
船所ヲ取上ゲタノガ御承知ノ通り横須賀工
廠デアアル、所ガソコデ鐵砲ヤ大砲ヲ造ラウ
トナサイマシタガ、鐵砲ヤ大砲ヲ造ルガ爲
ニハ機械ガ要ル、機械ヲ据付ケル爲ニハ其
土臺ガ要ル、ソレガ何處ニモナイ、ダカラ
東京砲兵工廠、或ハ大阪砲兵工廠ガ、明治
十九年ニ何ヲ造ツタカト云ヘバ、水道ノ鐵管
カラ造ツタコトハ、商工大臣御承知ノ通りデ
アリマス、サウシテ置イデ、尙ホ日本ニハ
石炭鑛業モ起キナイ、何モ起キナイカラ、
政府自ラガ、ソコデ炭鑛ヲ國營シ、船舶ヲヤ
リ、紡績、製絲ヲヤツタ、富岡ノ製絲工場ヲ
官營デヤツタノモ御承知ノ通りデス、所デソ

レカラ鑛山、船舶、紡績、製絲ト云フモノ
ヲ、政府ガ國民ノ租稅、公債デ投資ヲ致シ
マシタモノヲ、只同様ニ拂下ゲタノガ近代
ノ財閥ノ發生デアアル、ソレカラガ所謂營利
主義ノ經濟トナツタ、斯クテ我ガ國民ニ與ヘ
ラレタ產業ハ何デアアルカ、製鐵、殊ニ鉄鐵
デ、金ガ儲カレバ今日マデ其產業ハ造ツテ居
リマス、所ガ儲カラナイ、儲カラナイカラ
ヤラナイ、其原因ハ歐羅巴先進資本主義ノ
重工業ガ、世界ノ市場ヲ抑ヘ付ケテ居ル、
日本ノ、後進國ノ重工業ガ入ッテ行ク餘地ヲ
與ヘナイ、デアアルカラシテ、狹隘ナル國內
市場ヲ擁スル我國ノ製鉄鋼工業ハ、資本主
義ノ營利經濟ノ下デハ發展ヲシナカッタ、シ
ナイカラ明治二十九年ノ所謂陸海軍、農商
務省ノ稟議トナツテ、明治三十四年ノ製鐵所
ノ官營ト相成ツタコトハ商工大臣御承知ノ通
リデス、ソコデソレハヤツタガ、其規模ガ大
キクハナイデセウ、金ガ儲カラナケレバ仕
事ハ出來ナイト、斯ウ云フ立場ノ經濟界ニ
日本ハ投込マレタカラ、日本ニハ何ノ產業
ガ起キマシタカ、鐵ハヤツテハ儲カラナイ、
況ヤ物ヲ作ル機械ヲ作ル機械ノ工業、工作
機械工業ガ出來上ツテ來ナイ、明治三十九年
池貝鐵工所デ初テ一臺ノ國產工作機械ガ出
來タノハ、商工大臣御承知ノ通りデアリマ
ス、サウシテ日本ニ何ガ出來タカト言ヘ
バ、農村ノ低廉ナル人口ト云フモノヲ安イ
勞銀デ持ツテ來テ、成ベク機械、成ベク
鐵ハ使ハナイデ、外國ノ原料ヲ買ツテ、一
寸勞働者ノ技術ニ掛ケルナラバ、直グ

レカラ鑛山、船舶、紡績、製絲ト云フモノ
ヲ、政府ガ國民ノ租稅、公債デ投資ヲ致シ
マシタモノヲ、只同様ニ拂下ゲタノガ近代
ノ財閥ノ發生デアアル、ソレカラガ所謂營利
主義ノ經濟トナツタ、斯クテ我ガ國民ニ與ヘ
ラレタ產業ハ何デアアルカ、製鐵、殊ニ鉄鐵
デ、金ガ儲カレバ今日マデ其產業ハ造ツテ居
リマス、所ガ儲カラナイ、儲カラナイカラ
ヤラナイ、其原因ハ歐羅巴先進資本主義ノ
重工業ガ、世界ノ市場ヲ抑ヘ付ケテ居ル、
日本ノ、後進國ノ重工業ガ入ッテ行ク餘地ヲ
與ヘナイ、デアアルカラシテ、狹隘ナル國內
市場ヲ擁スル我國ノ製鉄鋼工業ハ、資本主
義ノ營利經濟ノ下デハ發展ヲシナカッタ、シ
ナイカラ明治二十九年ノ所謂陸海軍、農商
務省ノ稟議トナツテ、明治三十四年ノ製鐵所
ノ官營ト相成ツタコトハ商工大臣御承知ノ通
リデス、ソコデソレハヤツタガ、其規模ガ大
キクハナイデセウ、金ガ儲カラナケレバ仕
事ハ出來ナイト、斯ウ云フ立場ノ經濟界ニ
日本ハ投込マレタカラ、日本ニハ何ノ產業
ガ起キマシタカ、鐵ハヤツテハ儲カラナイ、
況ヤ物ヲ作ル機械ヲ作ル機械ノ工業、工作
機械工業ガ出來上ツテ來ナイ、明治三十九年
池貝鐵工所デ初テ一臺ノ國產工作機械ガ出
來タノハ、商工大臣御承知ノ通りデアリマ
ス、サウシテ日本ニ何ガ出來タカト言ヘ
バ、農村ノ低廉ナル人口ト云フモノヲ安イ
勞銀デ持ツテ來テ、成ベク機械、成ベク
鐵ハ使ハナイデ、外國ノ原料ヲ買ツテ、一
寸勞働者ノ技術ニ掛ケルナラバ、直グ

商品トナシ得ル所ノ紡績、或ハ綿絲、製

絲、人絹ト云フモノダケガ、日本ノ大宗

産業トナツテシマッテ居ルコトハ、商工大臣

御承知ノ通りデアリマス、サウシテ今生産

力ヲ擴充シナケレバナライト云フ時機ナ

ノデアリマス、其時ニ當ッテ鐵ハ足りナイ、

工作機械ハナイ、外國カラ買ヘバ、爲

替ガ悪クナル、ソコデ無理ニ生産力ヲ

増シテ行カナケレバナライカラ、労働者

ノ技術ノ上ニ覆ヒカブサル、出來ルダケ技

術ヲ餘計働カサシテ、サウシテ非常時ノ生

産力ヲ擴大シテ行カウ、斯ウ云フ労働者ノ

技術ノ強化ノ上ニ、辛ウジテ生産力ヲ高メ

テ行カウト云フ現段階ノ傾向ガ、即チ労働

者ノ殘業デアリ、夜業デアリ、幼年エデア

リ、臨時エデアリ、労働者ノ工場災害デア

リ、而シテ是ガ持越金山、尾去澤鑛山ニ於

ケル災害等、日本労働者災害ノ最モ高イ原

因デアルト言ハナケレバナリマセヌ(拍手)

サウスレバ今ノ問題ハ、二十世紀、二十一

世紀、二十二世紀ニ互ル産業ノ構成ハ、原

料、材料工業ヲ確立シ、其上ニ工作機械工

業ヲ乗ッケ、其上ニ輕工業ヲ乗ッケテ行カナ

ケレバナライ時デアリマス、此構成ノ變

更ヲヤラナケレバナライ時デアリマス、

從來ノ資本主義ノ上向期、下向期ノ其曲線

ノ「テーパー」ヲ取ッテ、是デ將來ノ鐵需要曲

線ト云フモノガ完成スルト云フ認識ハ、社

會經濟トシテハ成立タナイト云フノガ、是

ガ私ノ第一ノ質問ノ意味デアリマス、ソレ

ガ御分リニナッテノ上ニ、モウ一應御答辯ヲ

願ヒマス

〔國務大臣伍堂卓雄君登壇〕

○國務大臣(伍堂卓雄君) 將來ノ見透シニ

付キマシテハ、軍部方面ト打合セラシタト

申シマシタコトハ、今日財政膨脹ノ原因モ、

鐵需要ノ激増ノ原因モ、軍事工業トノ關係

ガ大デアルカラ、軍部方面ト打合セラシタ

ト申シマシタノデ、勿論全體ノ我國ノ將來

ノ趨勢ヲ考慮致シマシテ、將來ノ需給ニ對

シテ誤リナキヲ期シテ居ルノデアリマス

○龜井貫一郎君 簡單デアリマスカラ、自

席カラ御許ヲ願ヒマス

○議長(富田幸次郎君) 許可致シマス

○龜井貫一郎君 後ハ委員會デ御伺致シマ

ス

○議長(富田幸次郎君) 是ニテ質疑ハ終

局致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委

員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○中山福藏君 本案ハ議長指名十八名ノ委

員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 中山君ノ動議ニ御

異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ

マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程

第四、大正九年法律第五十三號中改正法律

案ノ第一讀會ヲ開キマス——拓務次官入江

海平君

第四 大正九年法律第五十三號中改正

法律案(關稅法及關稅定率法等ノ朝

鮮ニ於ケル特例ニ關スル件)(政府提
出) 第一讀會

大正九年法律第五十三號中改正法律案

大正九年法律第五十三號中左ノ通改正ス

第二條第一號中「面」ヲ「邑面」ニ改メ同條

ニ左ノ一號ヲ加フ

七 朝鮮ニ於テ揮發油ニ混入スヘキア

ルコールノ製造ニ供スル原料品但

シ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ

認可ヲ受ケ輸入スルモノニ限ル

第三條第一項中「三萬五千瓩」ヲ「十萬瓩」

ニ改メ「製鐵事業」ノ下ニ「又ハ砂鐵若ハ

朝鮮總督ノ定ムル鐵鑛ノ製鍊ヲ目的トス

ル特殊ノ設備ヲ以テ營ム製鐵事業」ヲ加

フ

第八條中「面事務所」ヲ「邑面事務所」ニ、

「面」ヲ「邑面」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔政府委員入江海平君登壇〕

○政府委員(入江海平君) 大正九年法律第

五十三號關稅法及關稅定率法等ノ朝鮮ニ

於ケル特例ニ關スル法律中改正法律案ニ付

テ御説明申上ゲマス、改正ノ第一點ハ、燃

料國策ニ順應シ、朝鮮ニ於キマシテモ大體

内地ト同様ノ揮發油及ビ「アルコール」混用

制度ヲ、内地ト同時ニ實施スル計畫デアリ

マスガ、混入用「アルコール」ノ製造ハ、内地

ニ於テハ政府ノ製造專賣ニ依ルコトナツテ

居リマスガ、朝鮮ニ於テハ差當リ政府ノ免

許ヲ受ケタル民間事業者ヲシテ之ニ當ラン

ムル豫定デアリマス、而シテ内地ニ於テ政府

ガ其「アルコール」製造專賣ノ爲メ輸入スル

原料品ニ對シマシテハ、別途提案セラレマ

シタ關稅定率法中改正法律案ニ依リ、其輸

入稅ヲ免除セラル、コトト相成ッテ居リマ

スノト同様ニ、混入用「アルコール」ノ低廉

豐富ナル供給ヲ圖リマス趣旨ニ於キマシ

テ、朝鮮ニ於テ揮發油ニ混入スベキ「アル

コール」ノ製造ニ供スル爲メ、朝鮮總督ノ認

可ヲ受ケテ輸入スル原料品ニ限リ、其輸入

稅ヲ免除セントスルモノデアリマス、改正

ノ第二點ハ、製鐵事業法ノ制定ニ伴ヒ、輸

入稅免除ノ特典ヲ與フル製鐵事業者ノ資格

ヲ改正セントスルモノデアリマス、尙ホ是

ト同時ニ曩ニ行ハレマシタ朝鮮ニ於ケル地

方制度ノ改正ニ伴フ字句ノ修正ヲ爲サント

スル次第デアリマス、何卒宜シク御審議ノ

上速ニ御協贊アラントラ希望致シマス

○議長(富田幸次郎君) 本案ノ審査ヲ付託

スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○中山福藏君 本案ハ政府提出、樺太市制

案委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 中山君ノ動議ニ御

異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ

マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程

第五、大正九年法律第五十六號中改正法律

案ノ第一讀會ヲ開キマス——內務大臣河原

田稼吉君

第五 大正九年法律第五十六號中改正法律案（北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件）（政府提出） 第一讀會

大正九年法律第五十六號中改正法律案
大正九年法律第五十六號中左ノ通改正ス
同法ニ左ノ一項ヲ加フ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ更ニ五年ヲ限リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ從前ノ規定ニ依リ補助ヲ爲シタル地方鐵道及軌道ニシテ本法施行前補助期間滿了シタルモノニ付テハ其ノ滿了ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ適用ス

（國務大臣河原田稼吉君登壇）

○國務大臣（河原田稼吉君） 只今上程ニナリマシタ大正九年法律第五十六號中改正法律案ニ付キ御説明ヲ申上ゲマス、北海道拓殖促進ノ爲メ必要アリト認ムル地方鐵道及軌道ニ對シマシテハ、御承知ノヤウニ大正九年法律第五十六號ニ依リマシテ、其營業開始ノ日ヨリ十五年ヲ限リ北海道拓殖費ヨリ補助ヲ爲シ得ルコトニナツテ居リマス

ガ、其經營ノ實蹟ニ見マスルニ、相當困難ノ向モ少カラザル狀況デアリマシテ、現行ノ補助期間滿了後若干ノ期間引續キ助成ノ必要アリト認メラレマスノデ、現行法ヲ改正シ、政府ニ於テ必要アリト認ムル場合、更ニ五年間ヲ限リ補助期間ヲ伸張シ得ルコトニ改メタイト存ズル次第アリマス、尙ホ鐵道軌道ノ中ニハ、既ニ補助期間ノ滿了

ニナツテ居ルモノモアリマスガ、ソレ等ニ對シマシテハ、補助期間滿了ノ日ノ翌日ヨリ本法ヲ適用致シタイト存ズルノデアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛アラシコトヲ御願致シマス

（議長退席、副議長著席）

○副議長（岡田忠彥君） 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮ヲ致シマス

○中山福藏君 本案ハ政府提出、鐵道敷設法中改正法律案委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長（岡田忠彥君） 只今ノ動議ニ御異議アリマセスカ

（異議ナシト呼フ者アリ）

○副議長（岡田忠彥君） 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○中山福藏君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第二十、第二十一、及ビ第二十六ヲ繰上ゲ上程シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○副議長（岡田忠彥君） 只今ノ動議ニ御異議アリマセスカ

（異議ナシト呼フ者アリ）

○副議長（岡田忠彥君） 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——日程第二十、第二十一、及ビ第二十六ハ、便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセスカ

（異議ナシト呼フ者アリ）

○副議長（岡田忠彥君） 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第二十、裁判所構成法中改

正法律案、日程第二十一、大正十年法律第一百二號中改正法律案、日程第二十六、刑事訴訟法中改正法律案、右三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——司法大臣鹽野季彥君

第二十 裁判所構成法中改正法律案

（政府提出、貴族院送付） 第一讀會

第二十一 大正十年法律第一百二號中改正法律案（定年ニ因ル退職判事檢察

ノ恩給ニ關スル件）（政府提出、貴族院送付） 第一讀會

第二十六 刑事訴訟法中改正法律案（政府提出、貴族院送付） 第一讀會

裁判所構成法中改正法律案
裁判所構成法中左ノ通改正ス
第二十五條ノ二中「豫審判事」ヲ「判事」ニ改ム

第三十一條第五項中「第二十五條」ヲ「第二十五條及第二十五條ノ二」ニ改ム
第七十四條ノ二 大審院長年齡六十五年其ノ他ノ判事ノ職ニ在ル者年齡六十三

年ニ達シタル場合ニ其ノ時期カ十二月一日ヨリ五月三十一日マテノ間ナルトキハ五月三十一日ヨリ十一月三十日マテノ間ナルトキハ十一月三十日マテノ間ナルトキハ十一月三十日ニ於テ各、退職トス但シ控訴院又ハ大審院ノ總會ニ於テ三年以內ノ期間ヲ定メ仍在職セシムヘキモノト決議シタルトキハ其ノ期間滿了ノ時ニ於テ退職トス

第八十條ノ二 檢察總長年齡六十五年其

ノ他ノ判事ノ職ニ在ル者年齡六十三年ニ達シタル場合ニ其ノ時期カ十二月一日ヨリ五月三十一日マテノ間ナルトキハ五月三十一日ヨリ十一月三十日マテノ間ナルトキハ十一月三十日ニ於テ各、退職トス但シ司法大臣ハ三年以內ノ期間ヲ定メ仍在職セシムルコトヲ得

第八十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

大審院大審院檢察局控訴院及控訴院檢察局ノ書記課ニ書記長ヲ置ク地方裁判所及地方裁判所檢察局ノ書記課ニ監督書記ヲ置ク

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

大正十年法律第一百二號中改正法律案
大正十年法律第一百二號中左ノ通改正ス

第一項中「裁判所構成法第七十四條ノ二」又ハ第八十條ノ二ニ規定スル年齡「ヲ」年齡六十年」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

刑事訴訟法中改正法律案
刑事訴訟法中左ノ通改正ス

第四百四十條中「原判決ヲ破毀スヘキモノト認ムルトキハ」ノ下ニ「第四百四十八條ノ二ノ場合ヲ除ク外」ヲ加フ

第四百四十三條中「上告裁判所第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ」ノ下ニ「第四百四十八

條ノ二ノ場合ヲ除クノ外」ヲ加フ
第四百四十八條中「第四百四十九條及第四百五十條」ヲ「第四百四十八條ノ二乃至第四百五十條」ニ改ム

第四百四十八條ノ二 上告裁判所事實ノ確定ニ影響ヲ及ボスヘキ法令ノ違反アリト認メ又ハ第四百四十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由アリト認ムル場合ニ於テ自ラ事實ノ審理ヲ爲スヲ適當ナラストスルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀シ事件ヲ原裁判所ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送スヘシ

前項ノ差戻又ハ移送アリタル事件ニ付裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ原判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事ハ其ノ裁判ニ關與スルコトヲ得ス
第四百五十三條ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ第四百四十二條乃至第四百四十四條ニ規定スル事由アリト爲ス上告ノ趣意ハ其ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣鹽野季彦君登壇)

○國務大臣(鹽野季彦君) 只今上程ニナリ

マシタ法律案ニ付キマシテ御説明ヲ申上ゲマス、先ヅ裁判所構成法中改正法律案ニ付テ提案ノ理由ヲ説明致シマス、本改正案ノ第一點ハ、判事ノ代理ノ範圍ヲ擴張セントスルモノデアリマシテ、現行規定ニ依リマスト、豫審判事ニ付テ、一定ノ場合ニ、控

訴院長ガ其ノ管轄區域内ニ於テ適當ニ代理ヲ命ズルコトヲ得ルヤウニナッテ居リマスルガ、裁判事務ノ現狀ニ鑑ミマシテ、右代理ノ範圍ヲ管ニ豫審係ノミニ止マラズ、一般事務ニ付テモ擴張シ、以テ事件ノ處理ノ迅速ヲ圖ルコトヲ必要ト考ヘタノデアリマス、次ニ改正ノ第二點ハ、判檢事ノ定年ニ因ル退職ノ時期ヲ調整シテ、年二回定期ニ繼メテ退職セシメントスルモノデアリマシテ、現行規定ニ依リマスルト、生年月日ニ依リマシテ、ソレノ退職致シマシタル爲ニ、人事行政上ノ支障ヲ生ズルコトガアルノデアリマス、此支障ヲ除去セントスル趣旨デアリマス、最後ニ改正ノ第三點ハ、控訴院檢事局ノ判任タル監督書記ヲ奏任タル書記長ニ昇格セシメントスルモノデアリマシテ、之ニ依リ控訴院ノ書記長ト均衡ヲ得セシムルト同時ニ、書記ノ向上ノ途ヲ開カントスル次第デアリマス
次ハ大正十年法律第百二號、定年ニ因ル退職判事檢事ノ恩給ニ關スル件中改正法律案ニ付キマシテ御説明ヲ申上ゲマス、現行法ニ依リマスレバ、本法施行ノ際、即チ大正十年六月一日ニ於テ判事檢事タリシ者ガ、其後引續キ在職ヲ致シテ居リマシテ、裁判所構成法ニ依リ定限年齢、即チ大審院長、檢事總長ハ滿六十五歳、他ノ判事檢事ハ滿六十三歳ニ達シマシタル後、退職致シマシタ場合ニ於テハ、其恩給年額ハ、恩給法中文官ノ普通恩給ニ關スル規定ニ依リマシテ計算シタル年額ニ、其百分ノ三十ヲ加

ヘタルモノヲ給與セラレテ居リマシタガ、右定限年齢ニ達シマスル以前ニ於テ、退官又ハ退職致シマシタル者ハ、如何ナル事由ニ依リマシテモ、前申シマシタ増加恩給ヲ支給セラレナイノデアリマス、斯クテ右資格ヲ有スル判事檢事ニシテ、定限年齢ニ達スル前ニ退官退職シテ、後進ニ途ヲ開クコトガ漸ク困難トナルヤウナ實情デアリマス、仍テ茲ニ本法ニ定ムル年齢ヲ低下致シマシテ、滿六十歳ト爲シ、前示ノ資格ヲ有スル判事檢事ガ、此年齢ニ達シタル後ニ退官退職致シマシタル場合ハ、普通文官恩給年額ニ三割増シタモノヲ給與スルコトヲ致シマシテ、比較的高齡者ノ勇退ヲ圓滑ニシ、新進有爲ノ者ノ進出ヲ容易ニシマシテ、以テ司法部内人事ノ刷新ヲ圖ラントスルモノデアリマス
次ニ刑事訴訟法中改正法律案ニ付テ御説明申上ゲマス、改正ノ第一點ハ、從來上告裁判所ガ自ラ事實ノ審理ヲ致サナケレバナラス場合ニ於キマシテモ、上告裁判所自ラ事實ノ審理ヲ爲スコトガ適當デナイト思料致シマシタ場合ニハ、原判決ヲ破毀シ、事件ヲ原裁判所ニ差戻スカ、又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送スルコトガ出來ルヤウニ改メタコトデアリマス、是ハ上告裁判所ト被告人ノ所在地、若クハ證人、鑑定人ノ所在地トガ、甚シク隔テ居リマスルヤウナ場合ニ、證人、鑑定人ヲ喚出シマスルニ致シマシテモ、又ハ上告裁判所ガ自ラ現場ニ出張スルト云フヤウナ場合ニ於キマ

シテモ、頗ル不便ナ場合ガ屢、生ジマシタカラ、必要ナル場合ニハ事件ヲ原裁判所ニ差戻スカ、若クハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送スルト云フ途ヲ開カントスルモノデアリマス、改正ノ第二點ハ、上告裁判所ガ判決書ヲ作製スルニ當リマシテ、事實問題ニ關スル上告ノ趣意ハ、其一部ヲ判決書ニ記載スルコトヲ省略スルコトガ出來ルヤウニ改メタコトデアリマス、此點ハ上告ノ理由ハ頗ル多岐多樣デアリマシテ、上告趣意書ニハ幾多ノ事實問題ガ巨細ニ掲載セラレテ居リマシテ、浩瀚ナル上告趣意書ガ差出サレル傾向ニナッテ居ルノデアリマス、之ニ付テハ判決書ニハ上告ノ趣意及ビ主要ナル答辯ヲ全部記載セバナラスコトニナッテ居リマスルノデ、上告裁判所ガ判決ヲ作製スル場合ニ、必要以上ノ勞力ヲ用ヒテ居ルト云フ實情ニ鑑ミマシテ、斯ク改正ヲ致ス次第デアリマス、以上三案ニ付キマシテ速ニ御審議ノ上御協賛下サランコトヲ切望スル次第デアリマス
○副議長(岡田忠彦君) 質疑ノ通告ガアリマス——本田英作君
(本田英作君登壇)
○本田英作君 只今上程ニナッテ居リマスル裁判所構成法中改正法律案ニ付テ二三ノ質疑ヲ致シタイト思フノデアリマス、申ス迄モナク裁判所構成法ハ憲法附屬ノ法律デアッテ、現行法ハ實ニ憲法發布ノ翌年、明治二十三年ニ公布セラレタモノデアリマス、日本國民ハ有史以來此法律ノ制定セラ

ニ至ル久シキ間、御上ノ御役人ト稱スル行政官ノ裁判ニ服シテ來タノデアリマスルガ、初メテ憲法ノ條章ニ基ク此法律ニ依リテ、獨立シタル裁判官ノ裁判ヲ仰グコトヲ得ルニ至ツタ記念スベキ法律デアアルデアリマス、然ルニ此法律ニ依リテ各裁判所ニ檢事局ヲ附置セラレタルガ爲ニ、世人ヲシテ判事モ檢事モ一樣ニ裁判所ノ役人ト誤解セシメ、檢事自ラモ判事ニ對シ對等觀念ヲ懷カシムルニ至ツタコトハ、延イテ今日非難ノ焦點タル人權蹂躪ノ由テ來ル素地ヲ作ツタモノデハナイカト思フノデアリマス、併ナガラ憲法ニ於テ司法ト題スル條章ノ中ニハ、單ニ裁判所ガ 天皇ノ御名ニ於テ司法權ヲ行使スルコトヲ定メラレ、隨ヒマシテ嚴格ナル司法事務トハ裁判事務ヲ指スモノデアッデ、檢察事務ヲ含マナイモノデアルト云フコトハ、私ノ言ヲ俟タナイ所デアリマス

仍テ第一ニ御尋シタイノハ、本改正案ニ於テ、其定年制ニ付テ判檢事ヲ全ク平等ニ取扱フ事居リマスルガ、判事ト檢事トハ其取扱フ事務ノ異ナルハ勿論、身分ノ保障ニ於テ、行爲ノ制限ニ於テ、任官ノ制限ニ於テ相異ツテ居ルノデアリマシテ、之ヲ一律ニ定ムルコトハ、益、司法ト檢察トヲ混淆セシムルノ虞アリト思フノデアリマス、此點ニ對スル御説明ヲ御願シタイト思フノデアリマス、第二ニ御尋シタイハ、前述ノ如ク司法事務ト檢察事務ハ異ナルノデアリマスルカラ、裁判所ト檢事局トヲ分置スルヤウ、裁判所構成法ヲ改正スル御意思ハナイカドウ

カ、第三ニ御尋シタイコトハ、司法大臣ハ裁判所及ビ檢事局ヲ監督スルノデアリマスルガ、司法省官制ニ依リマスルト、司法大臣ハ更ニ進ンデ檢察事務ヲ指揮セラル、コトニナツテ居ルノデアリマス、即チ司法大臣ハ檢事ヲ指揮シテ起訴不起訴ヲ爲サシムル權限ヲ有シテ居ラレ、現ニ相當身分アル者ノ事件、又ハ社會的重大性ノ事件ハ、皆司法大臣ノ指揮ヲ仰イデ居ルノデアリマス、他面司法大臣ハ此起訴ニ係ル事件ヲ裁判スル判事ヲ監督スルコトハ、裁判ノ獨立性ニ付キ世人ヲシテ危惧ノ思ヲナサシムルモノデアルト思フノデアリマス、且ツ最近ノ政變ニ於テ、現司法大臣ガ御就職ノ際、司法部内ニ於テ、大臣ヨリモ古參ノ者ガ十一名アルト云フヤウナコトデ、何カ不平ガアツタヤウナ噂ガアルノデアリマス、是ハ帝國最高ノ法衙ノ長デアル大審院長デアッデモ、司法大臣ヨリ行政事務並ニ身分ニ付キ監督ヲ受ケルガ故デアリマセウ、仍テ大審院長ヲシテ名實共ニ判事ノ最高峯トシテ、司法大臣ノ監督ヨリ離レ、判事ヲシテ世間ノ顯榮ニ超越シテ其天職ヲ盡スヤウ、裁判所構成法ヲ改正セラル、御意思ガナイカト云フコトヲ御尋シタイノデアリマス、第四ニ御尋シタイコトハ、裁判所構成法ニ「檢事ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ」トアルノデアリマス、檢事一體ノ趣旨ガ此規定ニ依ッテ生レルノデアリマス、然ルニ昨年前ノ光行檢事總長ニ對シ、少壯檢事ガ團結シ、六十何名連判狀ヲ取ツテ、之ニ對抗シタト云フコトガ、新

開紙上ニ傳ヘラレテ居ルノデアリマスガ、其爲メデアアルカ、定年ニモ達シナイ光行檢事總長ハ辭職サレタノデアリマス、是ハ甚シキ官紀紊亂デアッデ、又裁判所構成法第八十二條ニ違反ノ行爲ト思フノデアリマス、若シ之ヲ放置シテ置クト云フコトニナリマスレバ、檢事一體ノ實ハ到底舉ゲルコトガ出來ナイノデアリマス、然ルニ連判ノ檢事ハ便々トシテ中央ニ居ラレルノデアリマス、司法大臣ハ之ニ對シテ如何ナル處分ヲ爲サントシ、又爲サレタノデアアルカ、其點ヲ御伺シタイノデアリマス

更ニ刑事訴訟法中改正法律案ニ付テ二三ノ質疑ヲシタイト思フノデアリマス、本法律改正案ノ主ナル點ハ、事實審理ノ爲メ破毀スル場合ニハ、大審院ノ考ニ依ッテ事件ヲ原裁判所ニ差戻シ、又ハ原裁判所ト同等ノ裁判所ニ移送スルト云フノデアリマス、鹽野司法大臣ノ貴族院ニ於ケル説明ニ依レバ、外國ノ大審院ニ比シテ我が大審院ノ特異性トシテ、無實ノ罪無カラシムル爲ニ、或ル範圍ニ於テ事實關係ノ上告ヲ許シテ居ルガ、更ニ本改正ニ依ッテ、最モ適切ナル裁判所ニ於テ事實調査ヲヤリ直シテ、一人デモ天下ニ冤罪ニ泣ク者無カラシムル爲ニ、本案ヲ提出シタ所以デアルト云フコトヲ説明シテ居ラレルノデアリマス、本改正ハ在野法曹多年ノ要望デアッデ、當然ノコトト思フノデアリマス、仍テ第一ニ御尋ラシタイコトハ、既ニ司法當局デ一人ノ無辜ヲ罰シナイ趣旨デ、本改正ヲ爲サレタモノデアラナラバ、更ニ百尺竿頭一步ヲ進メテ、根本的ニ冤罪ノ製造元ヲ芟除スルヤウ、刑事訴訟法ヲ改正スル意思ナキヤ御尋シタイノデアリマス、司法省ノ統計ニ依リマスレバ、昭和五年ヨリ九年マデ五箇年間ノ「パーセンテージ」ニ依ルト、犯罪捜査ノ端緒ハ檢事ガ認知シタモノガ一・四デ、告訴告發ニ依ル所ノ數ガ八ニナツテ居リマス、更ニ司法警察官ヨリ送致セラレタモノガ九〇・四ト云フヤウナ割合デ、犯罪トシテ取扱ハレル數ノ九割強ガ、實ニ司法警察官ヨリ送致セラレタモノニ係ルノデアリマス、吾々ハ此數字ヲ眺メ、今日司法警察官ノ人權蹂躪ガ、既ニ世間ノ常識デアルト云フ時ニ於テ、肌ニ粟スルヲ禁ズルコトガ出來ナイノデアリマス、人權蹂躪ノ問題ハ、近日更ニ別ニ取扱ハレルサウデアリマスカラ、私ハ深く此内容ニ觸ル、コトヲ致シマセス、元來「サーベル」ヲ提ゲテ居ルヤウナ者ニ審問ヲ爲サセルト云フコトガ間違デ、左様ナ者ノ聽取書ヲ刑事記録ニ綴込ムノガ宜シクナイノデアリマス、憲法及ビ刑事訴訟法ニ現レタ審問ノ權利ハ、唯判事ノミガ有スルコトデ、檢事ハ證據蒐集ノ爲ノ取調ノ權利ガアルダケト思フノデアリマス、此趣旨ヲ法律上明ニシ、被疑者ノ審問ハ、必ず判事ガ判事ノ補助機關タル裁判所ノ諸機關ヲ之ニ當ラシメ、檢事及ビ別ニ其直屬ノ補助機關ヲ設ケテ、専ラ犯罪ノ捜査ノ任ニ當ラシメ、警察官ハ單ニ保安ノ任務ニ就カシメテ、人權蹂躪ノ聲ヲ絶ツヤウニ、刑事訴訟

法ヲ改正セラレル御意思ガアルカドウカト云フコトヲ御尋シタイノデアリマス、第二ニ今日ノ裁判ノ實際上ノ取扱ニ對シテノ不滿ハ、公判中心主義ガ事實ニ於テ行ハレテ居ナイコトデアリマス、換言スレバ、公判マデニ證據ガ出來過ギテ居ルコトデアリマス、隨テ公判デハ必要ナ證據調ノ申出ガ、動トモスレバ許サレナイノデアリマス、隨ヒマシテ檢事調書、豫審調書ヲ基礎トスル書面審理トナツテシマヒ易イノデアアル、裁判ガ餘リニ形式ニ囚ハレルノ弊ニ陷ッテ居ルノデアリマス、是ハ自由心證主義ニ反シ、甚ダ危險ナルコトト思フノデアリマシテ、

現行ノ豫審制度ハ洵ニ檢事ノ手足トナツテ居ルヤウナ感ヲ致スノデアリマス、仍テ檢事ノ公訴ハ單ニ裁判所ニ對シ公判ノ請求ヲ爲シ得ルダケニ止メテ、裁判所ハ必要ニ應ジ自ラ豫審ヲ爲シ、又ハ受命判事ヲシテ豫審ヲ爲サシメ、眞ニ公判中心主義ヲ確立スルヤウニ、刑事訴訟法ヲ改正スル御意思ハナイカドウカト云フコトヲ御尋シタイノデアリマス

最後ニ非常ノ意氣込ト費用ヲ掛ケテ、昭和三年十月實施セラレマシタ所ノ陪審法ノ適用ハ如何デゴザイマセウカ、全國ノ陪審法廷ト陪審宿舍トハ、流行ラナイ公會堂ヤ宿屋ノヤウニ、閑古鳥ガ鳴イテ居ルヤウナ現狀デアリマス、今昭和五年カラ昭和十年マデノ、被告カラ進ンデ陪審ヲ求メタ數ヲ見マスルト、昭和五年ニ三人、昭和六年ニ五人、昭和七年ニ三人、昭和八年ニ二人、

昭和九年ニ二人、昭和十年ニハ一人モナイト云フヤウナ有様デアリマス、是ハ何ト云フ洵ニ哀レナル狀態デアリマセウカ、此原因ハ第一ニ、陪審ハ事實審ガ一審制度ト云フコトニナツテ居ルガ爲ニ、最も不振ナル原因トナツテ居ルノデアラウト思フノデアリマス

第二ニハ、公判中心主義ガ完全デナク、現在ノ豫審制度ノ缺點ノ爲ニ、陪審裁判ノ妙味ガ發揮セラレナイカラデアラウト思フノデアリマス、此二ツノコトノ爲ニ、被告人ヲシテ陪審ヲ請求スル勇氣ヲ沮喪セシムル原因トナツテ居ルコトト思フノデアリマス、司法大臣ハ此不振ノ儘陪審制度ヲ抛擲シテ置カレル御積リデアルカドウカ、或ハ更ニ只今ノ陪審制度ヲ改メテ起訴陪審トシ、今日非難轟々タル司法警察官竝ニ檢事ノ取調ニ依ル起訴ニ付キ民意ヲ參加セシメ、之ヲ是正セシムル御意思ハナイカドウカ、ソレトモ只今ノ通りニシテ置カレマシテ、事實審理ヲ二審制度ニ爲サル御考ハナイカドウカ、是等ノ諸點ニ對シマシテ司法大臣ノ懇切ナル御答ヲ御願致シマス(拍手)

(國務大臣鹽野季彦君登壇)

○國務大臣(鹽野季彦君) 本田君ニ御答ヲ致シマス、御尋ノ第一點ハ、判事檢事ヲ同一待遇ニシテ居ルノハ、宜シクナイデハナイカト云フ御趣意ノヤウデアリマシタガ、是ハ構成法ニ於テ認メテ居ル所デアリマシテ、又兩方共同ジヤウナ教養ヲ受ケ、同じヤウナ仕事ニ從事致シテ居ルノデアリマス

ルカラ、之ヲ差別シテ別々ノ待遇ヲスル必要ハナカラウト考ヘテ居リマス、第二點ハ、裁判所ト檢事局ヲ分離シテハ如何カト云フ御尋デアリマスガ、是ハ構成法ノ上ニ於キマシテハ、別箇ノ官廳デアリマシテ、世人ガ往々同じ廳舎ノ同じ家屋ノ中ニ執務致シテ居ル關係カラ、種々誤解ヲスル點モアルヤウデアリマスルカラ、將來ハ經費ヲ要求ニ致シマシテ、檢事局ト裁判所ヲ別々ノ建物ニ致シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス、

第三ハ、司法大臣ハ大審院長竝ニ檢事總長ヲ指揮監督シテ居ルノハ宜シクナイト云フ御意見デアリマスルガ、司法行政ノ事務ヲ監督スル者ガナケレバ、一タビ責任ヲ問フベキ事情ガ發生致シマシタル際ニ、責任ヲ執ルベキ者トシテ大臣ヲ置クノガ宜カラウト考ヘテ居ルノデアリマス、大審院長ト雖モ裁判事務ニ付テハ毛頭容喙スルコトノ出來ナイコトハ申ス迄モナイ所デアリマス、又檢事總長ハ部下ノ檢事ヲ指揮命令致シテ居リマスルガ、之ニ付テ廣ク全國ノ治安ニ影響スル事件モ多クアリマスルノデ、斯様な事件ニ付キマシテハ、大臣ガ之ニ參畫シテ其責任ヲ執ル必要ガアルト考ヘルノデアリマス、第四ハ昨年ノ所謂二・二六事件ノ當時ニ於テ、少壯ノ檢事ガ數十名モ團結シテ、上官ニ對シテ不穩ノ舉動ガアツタガ、其處置ハドウナツタカト云フ御尋デアリマスルガ、其當時ニ於キマシテ多少左様ナ事ガアツタコトハ聞イテ居リマス、併ナガラアノ事件ノ際デアリマスカラ、少壯ノ職員ガ昂

奮ヲ致シマシテ、聊カ不穩ノ舉動ニ出タモノガアリマセウ、隨テ先任者デアアル前大臣ニ於キマシテモ、之ヲ不問ニ付シテ居ル次第デアリマス、檢事總長ガ退職ヲ致シマシタノハ、所謂圓滿退職デアリマシテ、病氣ノ故ヲ以テ引退致シタノデアリマス、第五ハ、刑事訴訟法改正案ニ付テノ御質問デアリマシテ、事件ノ九割強ハ司法警察官吏ニ依ッテ處置セラレテ居ル、ソレ等ノ司法警察官吏ガ不當ノ取調ヲスルカラ、之ニ對シテ將來如何ニ考ヘテ居ルカト云フ御尋デアリマシタガ、之ニ付キマシテハ種々考究ヲ致シテ居リマスガ、法制上ノ改正ヲ致シマスルコトハ、相當時日モ要スルコトデアリマスルカラ、差當ッテ内務當局ト打合せマシテ、司法警察官ノ非違ニ付テハ、嚴重ナル取締ヲ爲スコトニ致シタイト存ジテ居リマス、第二點ノ裁判ガ形式ニ流レテ、所謂公判中心主義ガ行ハレテ居ラヌト云フ御意見デアリマシタガ、此點ハ法律ヲ改正スルマデモナク、現在ノ法律ヲ其儘運用致シテ行ケバ宜シイノデアリマシテ、刑事裁判ノ基本ハ事實ノ認定デアリマス、是ガ爲ニ裁判所ハ職權ヲ以テ、有罪無罪、其他事件ニ關係致シマスル證據材料ヲ公判ニ全部顯現スルヤウニ致シマシテ、其現レタル證據材料ニ依ッテ、自由ナ判斷ヲ下スコトガ定メラレテ居ルノデアリマス、現ニソレヲ實行シツ、アルノデアリマス、司法檢察官ノ調書ト云フモノガ、記録ニ附イテ居ルカラ惡イト云フヤウナコトハ認メラレナイノデアリマス、第

六ニ陪審ニ付テノ御尋ガアリマシタガ、成程陪審ガ施行セラレテ、今日マデ漸次陪審ノ事件ガ減少シテ居ルコトハ事實デアリマス、併ナガラ陪審裁判ハ、總テ公判ニ於テ取調ヲ致シマシテ、陪審員ノ判斷ヲ俟テ事務ヲ處理スルノデアリマス、之ヲ二審制度ニスルト云フコトハ不適當ト考ヘテ居ルノデアリマス、現在ノ狀態ニ於キマシテハ、今暫ク陪審法ノ實施ノ模様ヲ觀察致シマシテ、然ル後ニ改正ノ點ハ考究致シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス

○本田英作君 甚ダ不満足デアリマスケレドモ、私ノ質問ハ是デ打切りマス

○副議長(岡田忠彦君) 青木雷三郎君

(青木雷三郎君登壇)

○青木雷三郎君 私ハ只今議題ニナッテ居リマスル三案ノ中、裁判所構成法竝ニ外一件ハ、委員會其他ニ於テ質疑ヲ致シタイト思フノデアリマス、私ハ重點ヲ刑事訴訟法ノ改正法律案ニ置キマシテ、司法大臣ノ御所見ヲ質シテ見タイノデアリマスルガ、私ハ本案ノ内容ニ入ルニ先ダチマシテ、司法大臣ニ申上ゲテ置カナケレバナラス重大ナル一事ガアルノデアリマス、其事ハ、本議會ニ於キマシテハ、衆議院竝ニ貴族院ヲ通ジマシテ、人權蹂躪ノ問題ニ對シテ相當ノ論議ガ行ハレタノデアリマス、私ハ各種ノ機會ニ於キマシテ、司法當局ノ答辯ヲ伺ッテ居リマスルト、何カ吾々議員ノ中ニ於テ、或ハ選舉違反ノ事件ガアルト云フヤウナ關係上ヨリ致シマシテ、特ニ人權蹂躪ノ聲ヲ大

ニシテ、其反響ヲ喚起サウト云フノデハナイカト云フガ如キ態度ヲ以テ答辯ヲサレル傾キガアル、人權蹂躪ノ問題ハ、毎年々々問題ニナルノデアリマス、私共ガ極メテ短イ議員ノ歴史ヲ以テ見マシテモ、或ル法律案ニ決議案ヲ附シテ出セバ、相當政府ハ考慮ヲ致シマシテ、次ノ議會又ハ其後ノ議會ニ於キマシテ、是ガ實現ヲ致シテ居ル、或ハ請願、建議ト云フ方面デアリマシテモ、ソレガ政府ノ施設ニ於テ重要デアルト云フコトハ、是ハ實現致シテ居ルノデアアル、所ガ人權蹂躪ノ問題ハ年毎ニ殖エテ行ク、サウシテ吾々議員ガ年々歳々之ニ對シテ警告ヲ致サナケレバ相成ラスコトニナッテ居ルノデアリマス、尤モ私ハ何レノ國策モ重要デア

人關係ノ人々ガアリマシテ、特ニ軍部ノコトヲ御心配ニナリマス同様ニ、私共ハ毎日司法部ニ關係ノ仕事ニ携ッテ居ル限りハ、ドウカシテ司法部ハ國民ノ信賴ヲ受ケテ、洵ニ天皇ノ名ニ於テセラレル裁判所デアルト云フ信念ヲ持タセタイト云フ一念ニ過ギナイノデアアル(拍手)

吾デアリマスルカラ、司法部ハ其答辯ノ上ニ於テモ、其誠意ノ上ニ於テモ、イマ一段ト注意ヲサレテ、此問題ニ對シテ關心ヲ持タレネバ相成ラスと思フ

是ハ內務省ノ關係ノ問題デゴザイマスルガ、先般ノ選舉ニ於テモ、聲ニ恐レズニ取締ヲシロト、斯ウ云フコトヲ仰シヤツタ、聲トハ何デアリマス、吾々ガ議會ニ於テ人權蹂躪等ノ問題ヲ話スルカラ、サウ云フコトガアル爲ニ、オ前等ガヤルコトヲ兎ニ角手拔ッテハイカスト云フノデアアル、外ニ言葉ハナイデアリマセウカ、本日ハ內務省ノ關係ノ人ガ居ラレマセスカラ、別ノ機會ニ御伺スルノデアアルガ、元來斯ウ云フコトヲ言ツタノハ誰デアリマセウ、近來人權蹂躪ノ聲ガ喧シイ、ガ併シ人權蹂躪ノ如キコトヲヤツテハ相成ラスガ、職務ハ正當ニ行ハナケレバナラスト云フダケデ私ハ足リル(拍手)聲ニ恐レルト云フコトハ何ト云フノデアリマスカ、又新聞紙ノコトデアリマスカラ、私ハ絕對ニ左様デアットハ思ハナイノデアリマススケレドモ、アレダケ聲ガヤカマシカッタケレドモ、檢舉ヲサレタ警官ハ二人若クハ三人ノ少數デハナイカト云フコトスラ、附加ヘラレテ居タト云フコトヲ聞クノデアリマス、私共ハ遺憾ニ堪ヘマセヌ

關係アル問題ニ輕重ハ付サスノデアリマシテ、併ナガラ此聖代ノ御代ニ於キマシテ、陛下ノ赤子デアアル所ノ國民ガ、一ツノ嫌疑ヲ以テ御調ヲ受ケルト云フ場合ニ於テ、ソコニ凌虐ガ行ハレ、人權蹂躪ガ行ハレルト云フコトハ、洵ニ國際的ノ關係ニ於キマシテモ、私ハ大イニ遺憾ト存ジテ居ルノデアリマス(拍手)故ニ私共ハ此問題ハドウシテモ根絶ヲ致サナケレバナラスコトデアルト信ジテ居ル、此點ニ對シマシテ私共ハ司法部ノ誠意ヲ疑ッテ居ル、私共ハ茲ニ一言ヲ致シマスルガ、今日四百六十六名ノ議員中、司法部ニ關係ノアル者ハ百五十名ニ近イノデアリマス、其中判檢事ノ職ニ在ラレタ人モ三十名ニ達シテ居ル、丁度議員ノ中ニ軍

而シテ私共ハ其實例ヲ言ヘバ、今問題ニナッテ居ル所ノ金錢債務調停法ノ如キ、是等ノ如キハ、私共ノ職務ノ上カラ言ヘバ相當議論ガアル、又或ハ憲法上其他ノ問題モアリマセウ、併ナガラ現在ノ國民ノ社會生活ノ上カラハ、此立法ガ必要デアルト云フナラバ、喜ンデ贊成ヲシテ居ル、私共ハ嘗テハ此問題ノ時ニハ、或ハ色々ノ同志カラ、或ハ同職ノ人カラ反對ノ勸告モアリ、決議モアツタノデハアリマススケレドモ、併ナガラ社會政策ノ上ニ必要デアルト云フコトニ依ッテ、贊成ヲシ來ッテ居ルノデアリマス、私一身ノコトヲ言ヘバ、先般神奈川縣ニ人權蹂躪ノ問題ガアリマシタ時ニ、私共同僚ト共ニ之ヲ告發シタノデアアル、併ナガラ進ンデ檢事局ヤ縣廳ノ方デ、ソレ等ノ事ヲ爲シタル警察官ニ對シテ、或ハ行政處分、或ハ刑事訴訟ノ手續ヲ行ハレル傾向ガアリト見テ私共ハ取ダゲタ、私共ハ人ヲ憎ンデ居ラナイ、何トカシテ是等ノ各機關ガ法規ノ條規ニ基イテ、眞ニ國民ガ安心シテ、治安ノ維持ノ下ニ生活ガ出來ルコトヲ要望致シテ居ルノデア

ル、故ニ私共ハ其手續ガ終ツタラ直チニ之ヲ取下ゲタノデアアル、斯様ナ立場ニ居ル吾

機會ニ於テ論議ヲサレ、サウシテ司法當局モ承知ヲサレテ居ルコトデアリマスカラ、本日ハ特ニ私ノ質疑ノ重點トスル點ニ對シマシテ、司法大臣ニ御伺致シタイノデアリ

マス、是ハ只今ノ質問ニモアツクノデアリマスガ、私ハ今日ノ公判中心主義ヲ疑フデ居ル(拍手)私ハ曩ニモ申上ゲマシタヤウニ、苟モ辯護士ノ地位ニ居リ、サウシテ國民ノ代表者デアアル議員ノ席ヲ持ッテ居リマス以上、人權蹂躪ト云フヤウナコトヲ申上ゲルコトハ、割合ニ容易デアリマス、併ナガラ公判ノ判決ニ於テ、或ハ暗雲ガ漂ヒ、或ハ疑惑ヲ受ケルト云フコトハ、苟モ司法部ニ關係シテ居ル者ハ慎マナケレバナラス、ソレデ尙ホ茲ニ一言致シマスコトハ、此問題ハ非常ニ現下重大ナ問題ニナッテ居ル、私共ハ個人ノ立場ニ於キマシテ警察官ノ態度、檢事ノ態度ニ對シテ御伺ヲ致シマス、ソレハ少數ノ警察官ヤ少數ノ檢事ノ中ニハ、アナクノ言ハレルヤウナ行爲ガアツカモ知レナイ、司法省ハ是ハ取締ッテ行ク、斯ウ言ハレルノデアリマスルガ、一タビ公判ノ問題ニ相成リマス、左様ナ判事ハナイ、斯ウ御答ニナル、私ハ是ハ長官トシテ、其地位ト致シテ已ムナキ御答辯ダト思フノデアリマスガ、左様ナコトハ絕對ニナイト云フコトヲ御斷言ニナルカ、ナラナイカト云フコトヲ私ハ承リタイ、私ハソレガ爲ニ、此刑事訴訟法が大正十一年ニ改正サレマシテ、時ノ司法大臣大木遠吉伯ガ提案ノ理由トシテ説明サレタ、極メテ短イモノデアリマスカラ、私ハ此處デ朗讀致シマスガ「ソレカラ捜査ノ問題デアリマスガ、此ノ捜査ノコトハ屢々社會ニ問題ヲ起シテ居ルノデアリマス、案ハ檢事ノ行動ノ範圍ヲ法律

ヲ以テ限定致シマシテ、其行動ニ付テハ將來疑惑ノ起ラザルコトヲ圖ツタノガーツノ重要ナル點デアリマス、ソレカラ更ニ當局者、殊ニ被告人ノ地位、其地位ヲ確保スルト云フコト、其權利、其利益ヲ擁護スルガ爲ニ幾多ノ規定ヲ置イタノガ、又第二ノ重要ナル點デアリマス、殊ニ未決勾留ノコトニ付キマシテモ最モ力ヲ盡シテ規定シテ居ル次第デアリマス、次ニハ豫審、此豫審ニ辯護人ヲ附セヨト云フコトハ、多年ノ寧ろ私人ハ豫審ニ干與スル、勿論其範圍ハ限ッテアリマス、即チ辯護人ヲ豫審ニ干與セシムルト云フコトガ又新ナル企デアル、其次ニハ現行刑事訴訟法中ニハ手續ノ中樞ヲ成スモノハ公判デアル、併ナガラ其實際ニ付キマシテハ中樞ガ豫審ニ移ッテ、公判ハ或ハ形式ニ流レルヤウニナッテ居ル嫌ガアルノデアリマスカラ、此案ハ公判ヲ手續ノ中心ニスルト云フコトニ付キマシテハ、最モ力ヲ盡シテ規定シテ居ルノデアリマス、斯様ニ提案ノ理由ガ説明サレテ居リマス

所ガ是ニハ非常ニ面白イコトガアル、ソレハ其當時ノ刑事局長ハ前司法大臣ノ林サデアツク、所ガ其委員會デ高見之通君ガ質問サレテ、アナクノ御説明ヲ聽クト人權蹂躪モ根絶スル、或ハ檢事ヤ豫審調書ニ偏重サレテ、サウシテ公判中心主義ガ失ハレテ居ルト云フコトモ茲ニ變ッテ來ル、洵ニ結構ナ案デアアルガ、一體此司法省ノ説明ト云フモノハ、何時モ吾々ヲ喜バスノデアアル

ガ、本當ノ肚ノ底デハ、案ハ斯ウ云フ案ニ變ヘタガ、大ニヤッテヤル積リデハナイカト云フコトヲ聽イテ居ル、所ガ林刑事局長ハ憤然トシテ、アナクハ私共ガ是ダケ熱心ニ刑事訴訟法ヲ改正シテ、諸君ガ多年御要望ニナツタ性質ニ副フヤウニ案ヲ出シテ居ルニ拘ラズ、看板ダケ掲ゲテ實際ハ大ニヤル積リデハナイカト云フコトデアアルナラバ、私共ガ侮辱サレルノハ構ハスガ、本案ノ爲ニ非常ニ憾ムモノデアリマス云フコトヲ答辯ヲ致シテ居ル、私ハ不幸ニシテ高見之通君ガ心配ヲ致シテ質問サレタ通りニ現在ナッテ居ルト思フ、左様ニ司法大臣ハ御考ニナリマセスカ、即チ其當時林刑事局長ガ憤然トシテ怒ラレタ気分ハ結構デアリマスルガ、不幸ニシテ高見之通君ガ委員會ニ於テ質問サレタ同様ニナッテ居ルノデアリマス、所ガ又横山勝太郎君カラ斯ウ云フコトヲ聽カレテ居ル、一體モウチツト法規ヲ變ヘナケレバイカヌデヤナイカ、是ダケデハ到底司法大臣ガ説明スルヤウニ公判中心主義ト云フコトニハ行カヌデヤナイカト云フコトニ對シテ、是ハ曩ニモ司法大臣ガ御答ニナツタヤウデアリマスルガ、其時ニハ、法律制度ハ如何ニ完全ニシテモ、其局ニ當ル者ガ其法律制度ノ趣旨ニ反スルヤウナコトヲスルコトニナルト、ドウモ是ハ普通ノ手段デハ矯正スルコトハ隨分困難デアリマス、無法ニ法律ニ反スルヤウナコトヲスル場合ニハ、之ニ對シテ相當ノ制裁ヲ加ヘルトカ、サウ云フコトノナイヤウニ監督スル、又斯

ウ云フ方面ヲ致ス者ハ成ベク採用ヲシナイト云フコトニ注意ヲシナケレバナリマセス、斯ウ答ヘテ居ル、只今御答辯ニ相成リマシタヤウニ、現在ノ刑事訴訟法デ立派ニ出來ルノデアリマス、私共ハ此事ヲ色々承知致シテ居リマスガ、併シ此議場デ申上ゲマスコトハ、差控ヘタイ問題ヲ持ッテ居リマス、即チ公判ノ判事ガ檢事ニ牽制ヲサレマシテ、サウシテ自己ノ信ズル判決ガ出來ニクイト云フ立場ニ在ル人々ヲ知ッテ居リマス、ケレドモ私ハ申上ゲマセス

唯併シ茲ニ分リ宜イ例ヲ申上ゲマスルト、今回ノ選舉違反ハ如何ナル檢舉ノ道程ヲ取ラレタカト申シマスルト云フト、ソレハ一人ヤ二人ノ違反者ナラ宜シイガ、一人ノ候補者ガ檢舉サレル、サウスルト事務長ニ金ヲ渡シタ、事務長ハ委員ニ渡シタ、委員ハ運動員ニ渡シタト言フノデ、段階ガ五段ニモ六段ニモナッテ居ル違反事件ハ澤山アルノデアリマス、サウシテ其出タ本ハ一ツナノデアリマスルカラ、ソレハ系統的ノ事件デアアル、然ルニ裁判所ノ事務方針トシテハ、之ヲドウ致シタカト云フト、先ツ略式命令程度ノモノヲ有罪ニシテシマフ、サウシテ段々トアトノ上ノ方ノ者ヲ公判期日ヲ別ニシテ調べ、サウシテ其關係者ノ主ナル者ガ、マダ一審ノ判決ガ終ラナイ中ニ上告ガ確定シテ居ル、サウシテソレ等ノ者ハ異口同音ニ公判廷ニ於テ、事實ヲ否認シテ居ルノデアリマス、若シ當該判事ガ其事件ニ對シテ十分ノ注意ヲシ、本當ノ公判中心主義デ、一

人ノ無辜ヲ出スコトガ國家ノ不祥事デアルト云フ責任ヲ感ズルナラバ、如何ニ選舉違反ノ審理ヲ急速ニシナケレバナラヌト云フデモ、ソレヲ共同ニ同一事件トシテ併合シテ審理ヲ何故セヌノデアアルカ、サウシテ其中ノ誰カガ無罪ニナラヌト云フコトヲ保證スル人ガアリマセウカ、或ハ再審手續モゴザイマセウガ、一時上告ガ確定スル、恐ラク私ハ今現ニ候補者ノ違反ニ御掛リニナツタ人デ、體刑ヲ勤メテ出テ來テ居ル人モアルト思フ、ソレ等ノ若シ無辜ノ人間ヲ調べテ、是ガ無罪デアルト云フコトノ判決ニナリ、サウシテ又ソレガ無罪デアッタト云フコトニナツタ時ニ、國家ハ此良民ニ對シテ如何ナル賠償方法ヲ致スノデアリマセウカ、既ニ體刑ヲ終ツテ刑務所カラ出テ居ルモノハ、如何トモスルコトガ出來ナイ(拍手)斯様ナコトガアルノデアリマス、司法部ニ關係スル人々ハ一日何十人ト云フ多クノ人ヲ調べテ居ルノデアリマスルカラ、其被告ヲ見ル時ニ於テハ、或ハ商人ガ物件ヲ取扱フ如クニ考ヘテ居ルノカモ知レナイ、併ナガラ個人々々ノ立場ニナツテ見マスルト、ソレハ即チ生涯ノ名譽ヲ傷損シ、一家一門ノ恥辱ハ貽サレルノデアリマス、私ハ司法部ノ各位ガ此點ニ對シテ、ナゼ一段ノ努力ヲ爲サラナイカ、私共ハサウ云フヤウナ唯單一ノ例ヲ學ガテ見マシテモ、今公判中心主義ガ十分ニ行ハレテ居ルト云フコトハ、御答辯ニハ爲サレルカモ知レマセウガ、私共ハ決シテ承服致サナイ、今ノヤウニ段階的ニ被告人ヲ調べル事

務ノ上カラ言ヘバ、或ハソレヲ一ツノ事件トスルト云フコトハ、到底煩瑣デ出來ナイト云フヤウナコトガアリマセウ、別ノ事件ニシテモ宜シイ、其區ノ裁判所ニ同ジヤウニ行ツテ居ル者ハ澤山アル、唯判決言渡ノ延期ヲ致シテ、サウシテ他ノ關係者ノ事件ノ審理ガ終結シタル時ニ、同一ノ期日ニ於テ言渡ラシテモ宜イノデアアル、ソレヲ別々ニ段階メテ行キマスルモノダカラスウ云フ非難ガ起ル、ナゼナラバ、私共ガ裁判所ニ參リマス、彼ヨリ金ヲ貰ッタト云フ者ガ先ニ服罪ラシテ居ル、其者ヲ證人ニ喚ビマス、今度ハ自由ノ天地ニ立ツテ居リマスカラ、アナタニ貰ッタコトハゴザイマセヌ、斯ウ言フト直チニ檢事ハ偽證罪デ引張ル、公判廷デ引張ツタ例ハ幾ラモアル、所ガオ前ハ三十圓ヤ五十圓ノ略式命令ニ服シタノデアアルガ、偽證罪ト云フ罪ハ是ダケ重イ罪ダト言ハレテ、二度目ノ公判廷言ヒ直ス者ガアル、私共ハ此點ニ付キマシテ嘗テ林司法大臣ハ、此司法制度ノ運用其他治安維持ガ一箇ノ國策ダト言ハレテ、或ル一方ニ於テ失笑ヲサレタコトガアリマス、是ハ國策ト云フ言葉ヲ司法大臣ガ用ヒラレタコトガ、或ハ政治上ノ言葉トシマシテ適サナカッタカモ知レヌ、併ナガラ私ハ今コソ本當ニ司法部ノ人ハ斷然起ツテ、之ヲ匡正セネバ相成ラヌ、今ヤ吾々ガ尊敬ノ的デアリマシタ所ノ陸軍ハ、自ラ肅正ヲ唱ヘナケレバナラヌヤウナ時代ニナツテ居リマス、又一般ノ官吏ハ綱紀肅正ガ叫バレ、サウシテ官吏ノ進退行

動ニ對スル非難ハ露々タルモノガアル、殘サレタル一ツノ耿々タル司法權ノ上ニ於テ、國民ガ疑惑ノ眼ヲ有ツト云フコトニナツタナラバ、日本ハ何處ヘ行クノデアリマスカ(拍手)私共ハ司法部ニ關係シテ居ル者ト致シマシテ、洵ニ遺憾痛嘆ニ堪ヘナイノデアリマス、ソレヲシテ或ハ吾々ハ人權蹂躪ヲ叫ビ、裁判ノ公正ヲ絶叫スルト、或ハ自分ノ同僚、或ハサウ云フ私ノ爲ニ強辯ラスルガ如ク見ラレテ、サウシテ之ヲ一笑ニ付シ去ラウト云フガ如キ傾向サヘ、私共ハ見テ居ルノデアアル、左様ナコトデハ吾々ハ司法部ノコトニ協賛シ、司法部ト歩ミヲ同ジウシテ行クト云フ誠意ト云フモノハ、求メルコトガ出來ナクナル、私ハ本案ニ對シマシテ幾多ノ質疑ヲ持ツノデアリマスルガ、此點ニ對シマシテ、私ハ非常ナル心配ヲ致シテ居リマスルカラ、本日ハ此公判中心主義——此刑事訴訟法ガ十一年ニ改正サレマシタ時ニ、大木司法大臣ガ議場デ答辯ヲサレタコトガ、其後多年ノ間果シテ實行サレテ來テ居リマスカ、不幸ニシテ高見之通委員ガ質問ラシタヤウナ結果ニ相成ツテ居ルノデハナイカ、司法大臣ハ現在ノ裁判ノ上ニ、虚心坦懷ニ其實情ヲ述ベラレテ、サウシテ所信ヲ明確ニセラレンコトヲ、私ハ熱望シテ已ミマセヌ(拍手)

(國務大臣鹽野季彦君登壇)
○國務大臣(鹽野季彦君) 青木君ニ御答ヲ致シマス、青木君ハ裁判事務ニ非常ニ縁故ガオアリニナルノデ、我が司法部ノ爲ニ非常ニ心配ヲサレテ、其改正スベキ點ト致シマシテ公判中心主義ノ徹底ヲ大イニ強調サレマシタ、縷々御述ベニナリマシタル中ニハ、私トシテ直チニ首肯致シ難キ點モアリマスルケレドモ、兎ニ角辯護人トシテ訟廷ニ出入セラレル青木君カラシテ、其實驗談トシテ御話ニナリマシタ點ハ、大イニ敬聽致ス次第デアリマス、私ハ裁判ノ實際ニ於キマシテ、事實公判中心主義ハ行ハレテ居ルト考ヘテ居ル者デアリマスルケレドモ、併ナガラ裁判ノ仕事モ、日々之ヲ行ツテ居ル内ニハ、事務的ニ之ヲ取扱フト云フ傾向ハ、又免レナイ弊ダト考ヘルノデアリマスカラ、此點ニ付キマシテハ大ニ職員ニ注意ヲ喚起致サセマシテ、人民ノ身體並ニ財産ニ關係スル重大ナル案件ヲ日々取扱フ者デアルト云フ、其職責ノ責任感ヲ大イニ高調作興セシメテ、此司法事務ノ眞ノ道ヲ歩ムヤウニ、大ニ努力ヲ致ス積リデアリマス、之ニ付キマシテハ制度ノ改正ハ勿論、人事ノ刷新ヲ先ヅ初トシテ、致シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス、尙ホ此問題ハ司法當局ト致シマシテモ、眞ニ心カラ考ヘテ居ルコトデゴザイマスカラ、ドウゾ暫ク時日ヲ假シテ戴キタイト御願スル次第デアリマス
○青木雷三郎君 簡單デアリマスカラ、此席カラ發言ヲ御許ヲ願ヒタイ
○副議長(岡田忠彦君) 宜シウゴザイマス
○青木雷三郎君 只今ノ司法大臣ノ御答辯ハ、非常ニ抽象的デアリマシタ、併ナガラ私ノ質疑ヲ致シマシタルコトニ付テ、誠意ノア

ル點ハ認メラシタカラ、私共ハ暫ク司
法大臣ノヤラレルコトヲ見テ居リタイ、唯
私ノ茲ニ一言附加ヘマスコトハ、私ノ申上
ゲマシタコトハ、判事モ神様デハナイノデ
アリマスカラ、自分ノ審理ノ上デ歸納シタ
信念カラ判決ヲサレルナラバ、間違タ判決
デアッデモ、ソレハ二審三審ガアルノデアリ
マス、併ナガラ檢事ヤ豫審判事ノ調書ニ拘
束サレマシテ、自分ノ信念ト違フ判決ノア
ルコトヲ私ハ歎クノデアリマス(拍手)多數
ノ辯護士ガ、モウアノ判事ノ所ニ行ケバ、
辯護士ハ要ラスデヤナイカト云フヤウニ、
判決モ檢事ノ求刑通り紋切型ニ決ッテ居ル、
幾多ノ事件ヲ段々別々ニ進メテ行キマシテ、
其部ノ者ダケガ執行猶豫ニモ減刑ニモナラ
ヌト云フコトハ、事實ノ上ニアリ得ル問題
デハナイ、ソレガ檢事ヤ豫審調書ヲ偏重ラ
シテ、自己ノ信念ニ對シテ、他ニ牽制サレ
テ、自由ニ判決ノヤレナイト云フ判事ガ居
リマスコトハ、判事其者ヲ監督匡正シマス
ト云フコトト同時ニ、檢事、豫審判事ニ對
シマシテモ、司法大臣ハ其執務ノ上ニ於キ
マシテ十分ニ監督ガ願ヒタイト云フコトヲ
附加ヘテ、私ハ質問ヲ終リマス(拍手)

○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ
○中山福藏君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ
提出致シマス、即チ此際小林銚君外一名提
出、大正十二年法律第五十二號中改正法律
案及ビ手代木隆吉君外三名提出、大正十二
年法律第五十二號中改正法律案ノ兩案ヲ一
括議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審
議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス
〔賛成ト呼フ者アリ〕
○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メ
マス、政府ハ此議事日程變更ニ同意シマシ
タ、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、小林銚
君外一名提出、大正十二年法律第五十二號
中改正法律案、手代木隆吉君外三名提出、
大正十二年法律第五十二號中改正法律案、
右兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、
委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長山本芳
治君
大正十二年法律第五十二號中改正法律
案(小林銚君外一名提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)
大正十二年法律第五十二號中改正法律
案(手代木隆吉君外三名提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

○中山福藏君 日程第二十、第二十一、第
二十六ノ三案ハ、一括シテ議長指名十八名
ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

報告書

一大正十二年法律第五十二號中改正法律
案(司法官試験及辯護士ノ資格ニ關ス
ル件)(小林銚君外一名提出)
一大正十二年法律第五十二號中改正法律
案(司法官試験及辯護士ノ資格ニ關ス
ル件)(手代木隆吉君外三名提出)
右ハ本院ニ於テ兩案ヲ併合シ別紙ノ通
〔内容同〕修正スヘキモノト議決致候此
段及報告候也
昭和十二年三月二十日
委員長 山本 芳治
衆議院議長富田幸次郎殿

〔別紙〕

大正十二年法律第五十二號中左ノ通改正
第一項中「昭和十二年十二月三十一日迄」
ヲ「昭和十七年十二月三十一日迄」ニ改ム
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
〔山本芳治君登壇〕
○山本芳治君 只今上程セラレマシタ兩案
ノ委員會ノ經過ヲ簡單ニ報告致シマス、此
兩案ハ内容ガ全然同一デアリマス、大正十
二年ノ法律ヲ以テマシテ辯護士試験ニ應ズ
ル受験者ノ學歷ヲ定メタノデアリマス、併
シ其以前ニ試験ニ應ジタ者ニ限りマシテハ、
學歷ニ拘ラズ受験資格ヲ保有シテ居ッタノ
デアリマス、所ガ此特例ヲ本年ノ十二月三
十一日限り廢メルコトニナッテ居リマスル
ノヲ、更ニ五年間延長シヨウト云フ案デア

リマス、委員會ニ於キマシテハ提案者ヲ代
表セラレマシテ、手代木君カラ本會議ニ於
ケルト大體同趣旨ノ説明ガアリマシタ、此
説明ニ對シテ出席委員諸君全員カラ、ソレ
ゾレ賛成意見ヲ述ベラレマシテ、其賛成意
見ノ骨子ハ、此特例ニ依ル人ガ現在尙ホ千
數百名殘サレテ居ルノデアル、是等ノ人ハ
永年ノ間辯護士ヲ志シテ、苦學力行ヲ續ケ
テ來タ者デアル、其人達ノ目的貫徹ノ途ヲ
塞グト云フコトハ如何ニモ殘酷デアル、又
社會問題トシテ考ヘテモ面白カラヌ結果ヲ
招クデハナイカ、斯様ナ意見デアッタノデア
リマス、ソコデ委員會ハ滿場一致ヲ以チマ
シテ、二案ヲ一括シテ可決スルコトニ決定
致シマシタ、以上報告致シマス(拍手)

○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ委員長報告
ハ兩案ヲ併合シテ一案ト爲シ、修正可決サ
レタモノデアリマス、兩案ノ第二讀會ヲ開
クニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマ
シタ
○中山福藏君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開
キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り
可決セラレンコトヲ望ミマス
○副議長(岡田忠彦君) 中山君ノ動議ニ御
異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メ

マス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

大正十二年法律第五十二號中改正法律案

第二讀會(確定議)

大正十二年法律第五十二號中改正法律案

第二讀會(確定議)

副議長(岡田忠彦君) 別ニ御發議モアリ

マセヌ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ(拍手)

中山福藏君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際政府提出、朝鮮事業公債法中改正法律案及ビ朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案ノ兩案ヲ一括議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、朝鮮事業公債法中改正法律案、朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長野村嘉六君

朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十二年三月二十日

委員長 野村 嘉六

衆議院議長富田幸次郎殿

報告書

朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十二年三月二十日

委員長 野村 嘉六

衆議院議長富田幸次郎殿

(野村嘉六君登壇)

野村嘉六君 只今議題トナリマシタ朝鮮事業公債法中改正法律案並ニ朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案ノ委員會ノ經過並ニ結果ノ概要ヲ御報告申上ゲマス、第一、朝鮮事業公債法中改正法律案ノ内容ハ、現行公債發行法定額六億九千六百二十萬圓ヲ八億四千五百萬圓ニ改正セントスルノデアリマシテ、今回十二年度本豫算ニ計上致サレテ居リマス朝鮮鐵道建設及改良費總額一億二千九百五十九萬餘圓、港灣修繕改良費中ノ一千九百五十萬圓、合計一億四千九百九萬餘圓ノ中、現行法定額ノ餘額ヲ差引キマシタ一億四千五百三十萬圓ヲ、總督府財政ノ現況ニ鑑ミマシテ、公債支辨トス

ルコトニ計畫致シマシテ、現行法定額ニ追加致シタノデアリマス、其事業ノ内容ハ、朝鮮國有鐵道ノ幹線タル京釜、京義、京元、咸鏡外四線ニ互リマス輸送力ノ増進ヲ圖ル爲メ必要ナル改良工事ヲ施行シ、尙ホ京城、大連間及ビ三浪津、釜山間ヲ複線ト爲スト共ニ、車輛ノ増備ヲ行ヒ、是ガ鐵道ノ改良ニ伴ヒマシテ、釜山及ビ麗水港ノ海陸連絡設備ノ擴張ヲ行フノデアリマシテ、昭和十二年度以降五箇年乃至九箇年ニ互リマシテ、施行スルコトニナツテ居ルノデアリマス

第二、朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案ノ内容ハ、朝鮮總督府ニ於キマシテ、昨年三月南朝鮮鐵道株式會社所屬鐵道ヲ買收致シマシタ際ニ、同鐵道ニ附帶シテ會社ガ經營シテ居リマシタ自動車交通事業ヲモ併セテ之ヲ買收シ、經營スルコトニナリマシタノデ、從來ノ鐵道事業用品ノ外ニ、自動車事業ニ要スル用品ノ調辦修繕等ヲモ致ス爲ニ、用品資金會計ノ經理ヲ必要ト致シマスノデ、從來鐵道用品ノミニ限ラレタ現行法ニ、自動車事業用品ヲモ含ムヤウ改正スルノデアリマス

右二件ハ一括シテ委員付託トナリマシタ、五回ニ互リ委員會ヲ開キマシテ、政府ノ説明並ニ質疑應答ヲ重ネテ來タノデアリマスガ、其實疑ノ主ナルモノハ朝鮮鐵道改良計畫ノ内容、朝鮮內ニ於ケル私設鐵道並ニ自動車ニ關スル將來ノ政府ノ方針、其他朝鮮統治ノ全般ニ互ルノデアリマシテ、ソレノ

國務大臣及ビ政府委員ヨリ答辯ガアツクノデアリマス、討論ニ入り採決ノ結果、全會一致原案ヲ可決致シマシタ、此段御報告致シマス(拍手)

副議長(岡田忠彦君) 兩案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

中山福藏君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

朝鮮事業公債法中改正法律案

第二讀會(確定議)

朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案

第二讀會(確定議)

副議長(岡田忠彦君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シ、兩案トモ委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

中山福藏君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第七ヲ繰上ゲ上程シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

第一讀會ノ續(委員長報告)

朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案(政府提出)

○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ、日程第七、海外移住組合聯合會ニ對スル政府貸付金ノ出資等ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——入江拓務府委員

第七 海外移住組合聯合會ニ對スル政府貸付金ノ出資等ニ關スル法律案

(政府提出) 第一讀會

海外移住組合聯合會ニ對スル政府貸付金ノ出資等ニ關スル法律案

第一條 政府ハ海外移住組合聯合會ニ對スル貸付元利金ノ内七百二十五萬圓ノ債權ヲ同聯合會ノ主タル財産ヲ承繼シ海外ニ於テ移住地ノ經營ヲ行フコトヲ目的トシテ設立セラルル株式會社ニ對スル現物出資ニ充ツルコトヲ得

第二條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ出資ヲ爲シタル會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

取締役ノ選任及解任、定款ノ變更、利益金ノ處分、合併並ニ解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

政府ハ取締役ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分又ハ定款ニ違反スル行爲ヲ爲シタルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

第三條 前條ノ會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年六分ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益配當ヲ爲スコトヲ要セズ

前條ノ會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年六分ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ總株式ニ對スル利益配當ガ拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ一ト四ノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(政府委員入江海平君登壇)

○政府委員(入江海平君) 只今上程セラレマシタ海外移住組合聯合會ニ對スル政府貸付金ノ出資等ニ關スル法律案ノ提案理由ヲ御説明申上ゲマス、本法律案ハ政府ガ海外移住組合聯合會ニ貸付ケテ居リマスル元利金ノ内七百二十五萬圓ノ債權ヲ以テマシテ、同聯合會ガ現在行ッテ居リマスル移住地經營ノ事業ヲ繼承致シマシテ、移住者ノ經濟的發展ノ中樞機關トシテ、一層積極的ニ活動ヲ爲ス爲ニ設立セラレマスル株式會社ニ對シ、現物出資ニ充ツルコトヲ得セシムルコトヲ目的トスルモノデアリマス、而シ

テ此會社ヲシテ其使命ヲ達成セシムル爲ニ、政府ハ之ニ對シ必要ナル監督ヲ爲スコトト致シタノデアリマス、又移住地經營事業ノ性質ヲ考慮致シマシテ、政府所有ノ株式ニ對シマシテハ、配當上劣後的ノ取扱ヲスルコトニ致シタ次第デゴザイマス、何卒宜シク御審議ノ上御協賛アラシコトヲ希望致シマス

○副議長(岡田忠彦君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○中山福藏君 本案ハ政府提出、樺太市制案委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○中山福藏君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程十一乃至第十三ヲ繰上ゲ上程シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——日程第十一乃至第十三ハ、便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——日程第十一乃至第十三ハ、便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——日程第十一乃至第十三ハ、便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——日程第十一乃至第十三ハ、便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——日程第十一乃至第十三ハ、便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——日程第十一乃至第十三ハ、便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

マス、仍テ日程第十一、日本銀行金買入法中改正法律案、日程第十二、昭和十二年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案、日程第十三、神戸商業大學移轉改築費ニ充用シタル金額ノ補填ニ關スル法律案、右三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——大藏大臣結城豊太郎君

第十一 日本銀行金買入法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十二 昭和十二年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第十三 神戸商業大學移轉改築費ニ充用シタル金額ノ補填ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

日本銀行金買入法中改正法律案

日本銀行金買入法中左ノ通改正ス

第四條第二項中「二億圓」ヲ「四億圓」ニ改ム

第五條第一項中「國庫金ノ勘定ニ移スベキコト」ノ下ニ「又ハ之ヲ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ處分スベキコト」ヲ、同條第二項中「納付スベシ」ノ下ニ「日本銀行ガ金ノ處分ニ依リテ得タル利益ニ相當スル金額ニ付亦同ジ」ヲ加フ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案

政府ハ昭和十二年度一般會計歳出ノ財源

政府ハ昭和十二年度一般會計歳出ノ財源

政府ハ昭和十二年度一般會計歳出ノ財源

ニ充ツル爲他ノ法律ニ依リ起債シ得ル金
額ノ外五千二百二十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行
シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額
ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前項
ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ
爲スコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

神戸商業大學移轉改築費ニ充用シタル
金額ノ補填ニ關スル法律案

昭和三年度ニ於テ施行シタル元神戶高等
商業學校ノ移轉改築ノ經費及昭和四年度
乃至昭和十年度ニ互リ施行シタル神戸商
業大學ノ移轉改築ノ經費ニ充用シタル金
額ヲ補填スル爲昭和十三年度迄ニ官立大
學資金ノ内百三十二萬七千四百五十三圓
ヲ限リ一般會計ニ繰入ルルコトヲ得

附則

本法ハ昭和十二年度ヨリ之ヲ施行ス
昭和四年法律第二十六號ハ之ヲ廢止ス

〔國務大臣結城豐太郎君登壇〕

○國務大臣(結城豐太郎君) 只今議題トナ
リマシタ日本銀行金買入法中改正法律案ニ
付キ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、昭和
九年四月ヨリ施行セラレマシタ日本銀行金
買入法ニ依リ、日本銀行ハ金ノ買入ヲ實行
シテ參ツノデアリマスガ、同行ノ金買入額
ノ増加ニ伴ヒ、政府ノ同行ニ對シ負擔スル
債務モ亦増加致シマシテ、隨テ法律ニ定メ

ラレタル債務負擔ノ餘力ハ、著シク減少ヲ
見ルニ至タツノデアリマス、仍テ今後引續
キ日本銀行ヲシテ金ノ買入ヲ續行セシムル
爲ニハ、此際政府ノ債務負擔ノ限度ヲ二億
圓増加致シマシテ、四億圓ト改ムルヲ適當
ト認メルノデアリマス、次ニ本法ニ依リ日
本銀行ガ買入レマシタ金ヲ、外貨資金調達
ノ爲メ使用致シマスルノ途ハ、現行法ノ下
ニ於キマシテハ、之ヲ國庫金ノ勘定ニ移ス
ノ方法ニ依ルノ外ナイノデアリマスガ、此
際政府ガ日本銀行ニ對シ、同行自身ニ於テ
之ヲ海外ニ現送シテ、賣却スル等ノ處分ヲ
爲スベキコトヲ命ジ得ルノ途ヲモ開イテ置
クコトヲ適當ト認メマスノデ、是ガ爲メ必
要ナル規定ヲ設ケタイト存ズルノデアリマ
ス

次ニ昭和十二年度一般會計歳出ノ財源ニ
充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案提出
ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、昭和十二年
度歳入歳出總豫算ニ伴フ一般會計歳入不足ノ
補填ニ付キマシテハ、之ニ關スル法律案ヲ
今期議會ニ提出シテアリマスルガ、別途提
出致シマシタ同年度歳入歳出總豫算追加第
一號ニ計上致シマシタル經費ノ財源ニ付キ
マシテモ、亦今日ノ場合大部分ハ公債ニ依
ルノ外アリマセヌノデ、五千二百二十萬圓ヲ
限リ公債ヲ發行シ得ルコトト致シマシテ、
本法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、
尙ホ本法律案ハ前述ノ如ク、總豫算ニ伴フ
歳入補填公債法案ガ目下御審議中ナルニ鑑
ミ、別ノ法律案ト致シマシタ次第デアリマス

終リニ神戸商業大學移轉改築費ニ充用シ
タル金額ノ補填ニ關スル法律案提出ノ理由
ヲ御説明申上ゲマス、昭和三年度ニ於テ施
行致シマシタル元神戶高等商業學校ノ移轉
改築ノ經費、竝ニ昭和四年度ヨリ昭和十年
度ニ互リ施行致シマシタル神戸商業大學ノ
移轉改築ノ經費ニ充用致シマシタ百三十二
萬餘圓ニ付テハ、現行法ニ依リマスルト、
昭和十一年度マデニ官立大學資金ヨリ一般
會計ニ右ニ相當スル金額ヲ繰入ル、コトヲ
得ルコトニ定メラレテアリマスルガ、官立
大學資金ハ昭和十一年度マデニハ是ガ繰入
ヲ爲スコトガ出來マセヌノデ、昭和十三年
度迄ニ繰入ル、コトヲ得ルヤウニスル爲
メ、本法律案ヲ提出致シマシタノデアリマ
ス、何卒御審議ノ上御協賛アランコトヲ希
望致シマス

○副議長(岡田忠彦君) 各案ノ審査ヲ付託
スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○中山福藏君 日程第十一乃至第十三ノ三
案ハ一括シテ政府提出、一般會計歳出ノ財
源ニ充ツル爲特別會計ヨリ爲ス繰入金ニ關
スル法律案外二件委員ニ併セ付託セラレン
コトヲ望ミマス

○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○中山福藏君 殘餘ノ日程ハ之ヲ延期シ、

本日ハ是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス
○副議長(岡田忠彦君) 中山君ノ動議ニ御
異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次會ノ
議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日
ハ是ニテ散會致シマス

午後五時四十一分散會

衆議院議事速記録第二五號中
正誤

頁	段	行	誤	正
六四四	三	八	十五萬圓	十萬圓
六五二	三	二	アトマセウ	アリマセウ

官報號外

昭和十二年三月二十一日

衆議院議事速記録第二十七號